

参考資料

(資料 1) YAMAZAKI プラン 2016	59
(資料 2) 大学図書館未来構想“知と創造の学修館”－常に先進的で、心地よい空間の創出－ (平成 29 年度作成)	71
(資料 3) 新 YAMAZAKI プラン 2018	81
(資料 4) 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書	93
(資料 5) 金沢大学附属図書館規程	129
(資料 6) 平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書 (本文のみ)	131
(資料 7) 金沢大学図書館委員会規程	192
(資料 8) 附属図書館利用者アンケート 集計結果概要 (令和元年 7 月実施)	195
(資料 9) 附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年 7 月実施)	202
(資料 10) 金沢大学附属図書館資料整備要項	213
(資料 11) 金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針	215
(資料 12) 金沢大学附属図書館受入資料取扱基準	217
(資料 13) 金沢大学附属図書館資料選定基準	219
(資料 14) 金沢大学附属図書館の基本理念と目標 (平成 21 年度作成)	221
(資料 15) 金沢大学附属図書館中長期ビジョン (平成 25 年度作成)	222
(資料 16) 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項	223
(資料 17) 「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項 (平成 31 年 3 月 14 日 一部改正)」第 3 条及び第 10 条で不用とする資料の判断基準	225
(資料 18) 金沢大学オープンアクセス方針	226
(資料 19) 金沢大学オープンアクセス方針実施要領	229
(資料 20) 附属図書館の活動 (平成 27～30 年度)	235
(資料 21) 金沢大学附属図書館公式 facebook ページ及び公式 Twitter アカウント運用ポリシー	242
(資料 22) LA 及び LeCIS の活動に関するアンケート調査 集計結果概要 (平成 30 年 2 月実施)	244
(資料 23) 金沢大学附属図書館ラーニング・コモンズ利用内規 (平成 27 年度作成)	245
(資料 24) 金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項	249
(資料 25) 附属図書館関係各種統計 (経年変化)	251
(資料 26) 附属図書館関係各種統計 (文部科学省学術情報基盤実態調査による他大学との比較)	253

(注) 資料 25、26 については、本文中からの引用は行っていない。

YAMAZAKIプラン 2016

～超然として世界に輝く真の「グローバル大学」を目指して～



平成 28 年 10 月 1 日

大学改革推進委員会

YAMAZAKIプラン 2016 の基本的な考え方

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけの下、グローバル社会をリードする人材の育成と、世界に通用する研究拠点の形成を目標に定め、全学的な大学改革プランとして、平成 26 年 4 月に「YAMAZAKI プラン 2014」を策定、公表し、同プランに基づく改革を積極的に推進してきた。

「YAMAZAKI プラン 2014」は、「国立大学改革プラン」等に基づき、「ミッションの再定義」等で明らかにした強み・特色・社会的役割を踏まえ、自主的、自律的に機能強化や制度改革等を推進すべく策定したところであるが、平成 28 年度から始まる第 3 期中期目標期間に先立ち、関連法の改正や、「国立大学経営力戦略」、「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し」の公表、通達がなされる等、国立大学に対する社会的な要請と期待は、ますます高まり続けている。

また、「国立大学法人運営費交付金」の見直しに当たり、各国立大学の機能強化の方向性に応じた三つの重点支援の枠組みが設定され、本学は、重点支援③「主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」を選択した。今回の「YAMAZAKI プラン 2016」は、本学が重点支援③の枠組みの下、学長の強いリーダーシップによるガバナンス強化と戦略的な大学マネジメントを基盤とし、世界を牽引する研究拠点の構築や、人類の普遍的な価値の創造をリードするグローバル人材の育成によって、世界の先端に位置する真の「グローバル大学」となるため、「YAMAZAKI プラン 2014」における目標、戦略、施策等を総合的に見直したものである。

真の「グローバル大学」に向けた礎を築き、以て 10 年後、20 年後の金沢大学を見据えた先魁を為すべく、本学は、全学を挙げて「YAMAZAKI プラン 2016」に掲げる Vision 及び Subject に基づく各施策に取り組み、自主的、自律的な大学改革を更に加速させるものとする。

YAMAZAKIプラン 2016

■ グローバル社会の中核的リーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

- Vision I 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成
- Vision II 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成
- Vision III 入学から卒業までの徹底した学生支援

■ 研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

- Vision IV 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実
- Vision V 研究力強化を促進する支援体制の整備

■ 真のグローバル大学に向けたグローバル・ネットワークの形成と国際貢献循環の積極的推進

- Vision VI 強力な国際競争力を備えた研究ネットワーク形成
- Vision VII 国際レベルの人材交流によるキャンパス環境のグローバル化

■ 世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

- Vision VIII 持続的社会的実現に向けた社会貢献
- Vision IX 世界に誇る研究成果の社会実装

■ 積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

- Vision X 大学改革・機能強化を推進する大学運営
- Vision XI 戦略的・効果的な財政運営の推進
- Vision XII グローバル化に対応する教育研究環境の整備

■ 高度臨床研究と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

- Vision XIII 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成
- Vision XIV 地域中核病院としての機能強化

グローバル社会の中核的リーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision I 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成

このVisionの下で各施策を推進することによって、金沢大学は、大学院教育の高度化と国際化を図り、人類の未来を切り拓く使命に果敢に挑戦する研究者や高度専門人材を育成し、輩出する大学となる。

Subject 1 異分野融合型の新研究科創設等の大学院課程の組織改革

[Action] 社会のニーズを踏まえ、本学の特色をいかした大学院課程における組織改革を実施する。

Subject 2 強み・特色を有する研究を基盤とした大学院教育の高度化

[Action] 強み、特色のある研究を基盤に、大学院教育の高度化を図り、社会やアカデミアをけん引する人材を育成する。

Subject 3 海外大学との連携等による大学院教育の国際化

[Action] ダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等、海外の大学と連携した大学院課程における教育プログラムを構築・実施する。また、海外の大学との学生交流促進に向け、大学院課程における英語による教育を充実する。

Subject 4 大学院教育の体系化と可視化

[Action] 大学院課程における基幹教育を強化するとともに、DP、CP、APの見直しを行う。

Subject 5 社会ニーズを踏まえた専門職学位課程の教育力強化

[Action] 社会のニーズを踏まえ、専門職大学院の教育体制を強化する。

Vision II 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、専門分野における確かな基礎学力に加え、英語を中心とする語学力や異文化理解能力、総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成し、輩出する大学となる。

Subject 1 強み・特色を踏まえた学士課程の組織改革

[Action] ミッションの再定義や社会のニーズ等を踏まえ、学類における教育組織、教育カリキュラム、教育方法の改善に取り組む。

Subject 2 基幹教育の定着及び深化

[Action] KUGS (Kanazawa University “Global” Standard) の理念に基づく GS 科目や学域 GS 科目等の基幹教育を着実に実施する。

Subject 3 国際コミュニケーション力の強化

[Action] 英語を中心とする語学力の向上を目的とした教育を充実する。

Subject 4 専門教育の高度化と教育の国際通用性の向上

[Action] アクティブラーニングの充実等、教育方法の改善に取り組むとともに、教育課程の体系を可視化する。

Subject 5 高大連携と入試制度改革

[Action] グローバルサイエンスキャンパス事業等により、高大接続の観点に立った、高校生に対する教育プログラムを提供する。また、学域・学類の人材養成目的や特色に応じた入試制度改革を行う。

Vision III 入学から卒業までの徹底した学生支援

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、多様な入学者に対し、自学自習の支援、グローバルな学びのキャンパス環境整備、障がい学生への支援、就職支援の充実等、全ての学生を総合的かつ手厚くバックアップする大学となる。

Subject 1 学生支援の充実と相談窓口の一本化

[Action] 学生を支援するための組織の設置、専門職の配置等により、学生支援体制を充実する。

Subject 2 学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期の整備と学生寮等の再整備計画策定

[Action] 本学の日本人学生と留学生が快適な生活の拠点を持つことにより、互いの文化等の理解を図りつつ、修学を充実できる宿舍を整備する。

Subject 3 附属図書館における学修支援機能の強化

[Action] ラーニング・アドバイザー (LA) 制度及び留学生ラーニング・コンシェルジュ (LeCIS) 制度等を充実し、自学自習の支援拠点である附属図書館の学修支援機能を強化する。



研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision IV 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、優位性のある領域を中核とした研究の高度化と国際頭脳循環を推進する大学となる。

Subject 1 世界的な学問の潮流を見据えた国際的な研究拠点の形成

[Action] 共同利用・共同研究拠点、新学術創成研究機構、研究域附属研究センター等における組織的な研究活動を先鋭化し、国際的な研究拠点を形成する。

Subject 2 研究大学としての国際的地位の確立に向けた全学的な研究水準の向上

[Action] 総合大学としての機能強化に向け、研究グループ・個人をベースとした研究力強化方を組織的、戦略的に推進する。

Vision V 研究力強化を促進する支援体制の整備

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、多様な研究が展開されるために必要な支援体制を確立した大学となる。

Subject 1 研究力の強化・国際化に向けた多様な人事システム等の構築とその運用

[Action] リサーチプロフェッサー制度をはじめとする多様な人事システムや研究力強化に資するプログラム等を活用し、国内外から優秀な人材の集積を促す。

Subject 2 世界に誇る学術研究の進展に向けた支援体制の強化

[Action] 世界に誇る研究拠点の形成に向け、学内 COE 制度（戦略的研究推進プログラム（超然・先魁））等により、優位性のある研究や異分野融合研究に対する組織的な支援を行うとともに、URA を中心とした研究支援体制を充実する。

Subject 3 新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備

[Action] 様々なプロジェクトに応じた施設整備計画を策定し、同計画に基づき、本学の機能強化に資する環境の充実にに向けた計画的な施設整備を行う。

真のグローバル大学に向けたグローバル・ネットワークの形成と国際頭脳循環の積極的推進

Vision VI 強力な国際競争力を備えた研究ネットワーク形成

このVisionの下で各施策を推進することによって、金沢大学は、国際的に活躍する人材育成と卓越した国際研究大学としての地位確立に必要な世界トップレベル大学との研究ネットワークを有する大学となる。

Subject 1 世界トップレベル大学との研究ネットワークの形成

[Action] 世界トップレベル大学との研究ネットワークの形成に向け、学生や研究者の交流を拡大するとともに、国際交流支援体制を充実する。

Subject 2 国際的に活躍する研究者の受入及び本学研究者の海外派遣

[Action] 国際的に活躍する研究者の受入に向け、海外の大学や研究機関との共同研究等を推進するとともに、本学の研究者の海外派遣を促進し、研究者交流による国際頭脳循環を推進する。

Vision VII 国際レベルの人材交流によるキャンパス環境のグローバル化

このVisionの下で各施策を推進することによって、金沢大学は、国際的に活躍する人材がキャンパス内の様々な場所で行き交う交流拠点を有する大学となる。

Subject 1 学生の海外派遣の積極的展開及び海外拠点の拡充

[Action] 本学の学生を積極的に海外へ派遣するため、奨学金制度を活用した世界各国への派遣留学プログラムの充実に加え、海外インターンシップを推進し、その核となる海外拠点を拡充する。

Subject 2 留学生受入の強化及び留学環境・支援策の整備

[Action] 多数の優秀な留学生の受け入れに向け、留学生受入プログラムの開発や奨学金制度の拡大を行う。

世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VIII 持続的社会的実現に向けた社会貢献

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、社会との連携を通じて課題を発見・共有し、社会共創による「学び」のイノベーションにより、世界に先駆けて、持続可能社会構築に資する新しい価値を提供する大学となる。

Subject 1 社会の課題に対応した広域的な連携の推進

[Action] 金沢、加賀、能登で、地域課題を共有する圏域ごとに、その課題を協議できる場を構築するとともに、これまでの連携実績を活用し、自治体、団体、NPO 等との連携によるコミュニティ構築に係る事業を実施する。

Subject 2 社会ニーズに基づく付加価値の高い学習事業の実施

[Action] 高度職業人養成に資する学習事業や、付加価値が高い学習事業を開発・実施する。

Subject 3 図書館・資料館所蔵資料の公開及び利用推進並びに次世代型「未来図書館」構想の策定

[Action] 大学が保有する資料を適切に保管するとともに、企画展示や図書館利用の利便性向上に係る取組の実施等により、公開・利用を促進する。また、近未来及び将来を見据えた「未来図書館」構想を策定する。

Vision IX 世界に誇る研究成果の社会実装

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、異業種企業が集う日本海側最大の世界に誇るイノベーション拠点（Kakuma Valley）を形成する大学となる。

Subject 1 イノベーション創出に向けた研究開発・社会実装プログラムの推進

[Action] 社会・経済的なニーズと本学の研究・技術シーズとのマッチングにより、社会実装を見据えた自治体、企業等との産学官連携プロジェクトを展開し、新技術開発、新産業創出を推進する。

Subject 2 世界展開を見据えた積極的な産学官連携

[Action] 産学官連携を推進するため、新たな制度の確立や組織の設置等を行う。

Subject 3 研究成果の戦略的発信と知的財産の活用促進

[Action] 本学の学術情報を基に、研究成果を戦略的に発信するとともに、研究成果の適切な管理及び知的財産化を推進し、積極的に活用する。

積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision X 大学改革・機能強化を推進する大学運営

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、学長のリーダーシップの下、学術研究・教育等に係る機能強化に向けた戦略的マネジメントを展開する大学となる。

Subject 1 大学改革・機能強化を実現するためのガバナンス改革

[Action] 本学の強みや特色をいかし、教育研究機能を最大限に発揮するため、ガバナンス体制を更に強化する。

Subject 2 大学の戦略に即した機動的な人員配置と適切な評価制度の運用

[Action] 教員配置計画における「主要研究課題」等に基づき、戦略に即した教員配置を行うとともに、教員の業績評価を実施し、処遇に反映する。

Subject 3 効果的な能力開発と男女共同参画の推進

[Action] サバティカル研修制度による若手研究者の海外研修を実施するとともに、教職員の外国語運用能力の向上を図る。また、優秀な女性研究者の確保・育成に係る事業等を展開する。

Subject 4 戦略的な広報活動の展開

[Action] 広報戦略に基づき、Web サイトや広報物等、対象や目的に応じた効果的な広報手段を用い、大学の情報を積極的に広く社会に発信する。

Subject 5 法令遵守の徹底及び啓発

[Action] 研究不正の防止を含め、コンプライアンスを徹底し、適正な法人運営を推進する。

Subject 6 大学運営の基盤強化に向けた関係機関との連携強化

[Action] ステークホルダー協議会を開催するとともに、同窓会の活動支援及びその会員との連携を強化するための施策を実施し、大学運営の基盤強化に向け、関係機関との連携を強化する。

Vision XI

戦略的・効果的な財政運営の推進

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、健全な財政運営を行う大学となる。

Subject 1

持続可能な財政運営の確立

[Action]

国の運営費交付金の配分方針を踏まえ、財政状況分析に基づく第3期中期目標期間の財政計画を構築する。また、契約方法の見直し等による支出低減や効果的な資産活用による自己収入の確保等、持続可能な財政運営を行う。

Subject 2

税制優遇制度等を活用した金沢大学基金等の充実

[Action]

税額控除制度の活用等により、基金を拡充するとともに、基金を効果的に活用した活動を展開する。

Vision XII

グローバル化に対応する教育研究環境の整備

この Vision の下で各施策を推進することによって、金沢大学は、保有施設等をグローバル化に資するよう有効に活用する大学となる。

Subject 1

教育研究組織に応じた大学施設の有効活用

[Action]

教育研究組織の態様に応じた既存施設の利活用に係る再点検を行うとともに、当該部局主導による施設活用方策を策定し、共用スペースの確保と適切な施設の再配分を実施する。

Subject 2

情報セキュリティ強化及び利便性の向上

[Action]

ICT のセキュリティ強化（機密性・完全性）を図るため、国際基準に応じた情報セキュリティマネジメントシステムを構築するとともに、利便性の向上に向けた無線 LAN の拡充を行う。

高度臨床研究と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XⅢ

臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成

このVisionの下で各施策を推進することによって、金沢大学は、臨床研究中核病院として臨床研究を推進するとともに、優秀な専門医の養成や高度な能力を有する医療従事者を育成する附属病院を有する大学となる。

Subject 1

先進的医療及び橋渡し研究・臨床研究の推進

[Action]

臨床研究に係る組織的な支援を行い、先進医療・医師主導治験を推進するとともに、北陸臨床研究推進機構との連携による学内外で臨床研究に係る啓発を行う。

Subject 2

初期研修・専門医研修の充実と優れた医療人材の育成

[Action]

研修医・専門医総合教育センターにおいて初期臨床研修から専門医研修までを俯瞰した指導を行い、優秀な専門医を養成するとともに、CPDセンターを活用した専門教育・安全教育・リカレント教育を行い、優れた医療従事者を育成する。

Vision XIV

地域中核病院としての機能強化

このVisionの下で各施策を推進することによって、金沢大学は、特定機能病院・大学附属病院・地域の中核病院としての役割を果たし社会に貢献する附属病院を有する大学となる。

Subject 1

附属病院としてのガバナンス改革と医療安全管理体制の強化

[Action]

附属病院としての適切な意思決定を行うための体制を強化するとともに、医療安全管理体制に係る内部統制や外部監査体制を強化する。

Subject 2

医療機器等の計画的整備と優秀な人材の確保

[Action]

経営改善委員会を中心とした増収・経費節減に向けた取組みを展開するとともに、病院機能の向上に向け、計画的な医療機器等の整備や優秀な人材の確保を推進する。

Subject 3

関連病院との連携強化

[Action]

関連病院等との医療情報の共有を含めた連携を強化し、患者の紹介・逆紹介の流れを確立することにより、重症度・緊急度の高い患者へ高度な医療を提供するという高度急性期病院としての役割を果たす。

大学図書館未来構想

“知と創造の学修館”

—常に先進的で、心地よい空間の創出—

平成 29 年 12 月 15 日

金 沢 大 学

目 次

1. はじめに
 - (1) 金沢大学附属図書館の沿革
 - (2) 金沢大学未来図書館構想検討の経緯
2. 金沢大学未来図書館のビジョン
3. 近未来図書館「知と創造の学修館」の基本構想
 - (1) 基本コンセプト
 - (2) 基本方針
 - (基本方針1) 先進的な教育・研究の実践の場
 - (基本方針2) ワンストップ・サービス
 - (基本方針3) すべての利用者にとっての“安らぎと安心”の場
4. 近未来図書館「知と創造の学修館」の構成要素
 - (1) コンテンツ
 - (2) サービス
 - (3) 場
 - (4) スタッフ
 - (5) 地域連携
5. 近未来図書館「知と創造の学修館」建設場所
6. 近未来図書館「知と創造の学修館」建設後の既存図書館の活用
7. 最後に

※  は、各章の要約を示す

1. はじめに

(1) 金沢大学附属図書館の沿革

- 中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館の3館体制
- 平成27年度文部科学省国立大学改革基盤強化促進費により、整備はほぼ完了

金沢大学中央図書館棟は、総合移転第Ⅰ期事業として、平成元年7月に完成、建設から28年が経過した。平成23年3月に2階に飲食のできる「カフェ」、3階にグループ学習ができる「ラーニング・コモンズ」を設置、平成27年3月に2階トイレ、平成27年9月に3階トイレの改修、さらに平成29年度概算要求(施設整備補助金)で高効率空調設備への改修が認められ、アメニティ環境は整備される予定である。また、自然科学系図書館棟は、平成17年3月PFI事業として竣工、平成30年3月をもってPFI事業が終了する。医学図書館棟については、平成25年3月にリニューアル開館、未整備であった3F集密書架も平成27年度文部科学省国立大学改革基盤強化促進費を得て整備が完了、所期の整備が達成できた。

(2) 金沢大学未来図書館構想検討の経緯

- 「図書館を核とした知の集積、交流の場としての新たな図書館の未来構想(YAMAZAKIプラン2016)」を検討するよう学長から指示
- 附属図書館長を中心に未来の大学図書館のあるべき姿についての構想案を検討
- 構想案について、本学構成員からの意見募集を経て、図書館委員会等で審議、構想を策定

上述のとおり、最も古い中央図書館棟は、建設後28年が経過し、学長から、「図書館を核とした知の集積、交流の場としての新たな図書館の未来構想(YAMAZAKIプラン2016)」を検討するよう指示があった。部局の利害等にとらわれることなく、10年後、さらには未来の大学図書館はどうあるべきか、附属図書館長を中心として、副館長、医学図書館長、情報部長で未来構想を検討し、「知と創造の学修館」の新設に係る構想案を得た。

その後、本学構成員からの意見募集、図書館委員会等での審議を経て修正し、平成29年12月15日、本構想を策定した。

なお、本構想を作成するに当たり、本学国際基幹教育院高等教育開発・支援系教員、関連企業との面談、図書館総合展の視察、附属図書館3館(中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館)での学生との意見交換を行うとともに、図書館職員による「大学・学問論」講義でのレポート課題、本学業務改善・改革プロジェクト「“ホッ”とできるスペース創出プロジェクトチーム」が、本学学生・教職員を対象に行った勉学や仕事の合間にリラックスして食事ができたり、気軽に休憩できたりする空間(スペース)に関してのニーズ調査を参考とした。

2. 金沢大学未来図書館のビジョン

- 人工知能等の新技術がいかに進展しようとも、人と人との直接的な交流による学びの場は不可欠
- 未来図書館は、あらゆる社会の変化に適応できる柔軟な図書館へと進化すべき

人工知能(AI)等の新たな技術により、過去から蓄積されてきた人類の情報が別の価値を創出する可能性が考えられ、2045年にはコンピューターの人工知能が人間の知能を超える「技術的特異点(シンギュラリティ)」を迎えるのではないかとされている。これまでも過去の論文の活用など学術資料の利用はあった。しかし、これらは人間の思考や判断に基づいてデータが利用されていたにすぎない。今後、人類を超える思考や判断が創出されるとするならば、過去のデータの利用に限らず、あらゆるジャンルのあらゆる記憶媒体に残された情報をもとに、人類が見落としていた新たな発見や未来への道筋が示される可能性がある。

一方、電子化がどのように進展しても、人と人との直接的な交流の場は必要不可欠である。得た情報について、人がどのように情報を活用するかをリアルなコミュニケーションで共有する「場」は、バーチャルに得ることができる電子的体験とは異なる認識力を高め、満足感を得ることができる。そのため、教員、研究者及び学生は、電子的な知では代替できない価値あるリアルな学びと多様性ある交流を求め、大学図書館を活用する。同時に、地域住民にとっても大学図書館は、長い人生における専門的キャリアを築く学びに加え、人生の幸福感を高めるための拠点の一つになることが期待される。

日本は、少子高齢化がさらに進み、10年後の平成38年には、18歳人口は現在の119万人から109万人へ、30年後には、80万人以下まで減少すると推計されており、大学の学生の構成も、留学生や社会人が大きなウェイトを占めることが予想される。未来図書館は、大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行うという基本的機能を担いながらも、性別、人種、国籍、宗教、年齢、学歴、職歴、障がいなどの多様性を尊重しつつ、それぞれが「学ぶ」ことができる「場」を提供し、あらゆる社会変化に適応できる柔軟な図書館へと進化しなければならない。

3. 近未来図書館「知と創造の学修館」の基本構想

今後の社会構造の変化に対応し、本学の大学憲章に掲げた理念と目標を実現するため、以下の3つの基本方針に基づき、近未来図書館「知と創造の学修館」を新設

(基本方針1)先進的な教育・研究の実践の場

(基本方針2)ワンストップ・サービス

(基本方針3)すべての利用者にとっての“安らぎと安心”の場

(1) 基本コンセプト

先進的な知の創造と人類の発展に資するグローバルな人材の育成を持続的に支える近未来図書館「知と創造の学修館」を新設する。なお、本構想における「近未来」とは、「10年以内」とする。

「18歳人口の減少」、「グローバリゼーション」、「ICT技術の急速な進展」等の大きな社会構造の変化に対応し、本学の大学憲章に掲げた理念と目標を実現するため、以下の3つの基本方針に基づき、近未来図書館「知と創造の学修館」を新たに建設する。

そのことにより、金沢大学が常に高い付加価値を生み出し、21世紀における世界の先端に位置する、持続的な競争力を持った地域に根ざした総合大学になることに資する。

学術研究を預かる大学は、知の創造と人材の育成をもって世代を繋ぎ多様な社会の形成と発展に貢献してきた。「社会のための大学」とは何であるか改めて問い質さねばならない。

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。【金沢大学憲章 抜粋】

(2) 基本方針

(基本方針1) 先進的な教育・研究の実践の場

10年後には、ICT技術は予想を越える速さで進歩しているであろう。そのような時代には、書籍を中心とする従来の図書館機能は中央図書館に集約し、「知と創造の学修館」には電子図書室（電子図書、データベース、自動翻訳等）を整備する。また、グループ個室を設け、世界の人々と自動翻訳機能（日本語⇄英語、中国語、他）を用いたグループ通話及びプレゼンテーションを可能とする機器を整備する。なお、電子図書室やグループ個室に備える設備・機器等は、今後の情報技術の進展・普及状況を見極めつつ、最新かつ技術の進歩にフレキシブルに対応可能なものとする。

図書館職員、ラーニング・アドバイザー、留学生ラーニング・コンシェルジュの協働による一般的な学修支援を継続しながら、サブジェクト・ライブラリアン（専門司書や定年退職者）による専門的な教育・研究活動支援を実施する。そのためのティーチング・コモンズ、リサーチ・コモンズ等のスペースを整備するとともに、ステークホルダー、一般市民へ本学の教育研究活動成果を常に情報発信するための場を提供する。

以上のとおり、「知と創造の学修館」では、「新技術を用いたサービスの実践」、「学習・研究支援の高度化」、「教育研究成果の発信」に関する先進的な取り組みの実践の場を提供する。

(基本方針2) ワンストップ・サービス

留学生、社会人学生を含めたすべての学生、卒業生、教職員への様々なサービス機能を集約したワンストップ・サービスを整備する。

ワンストップ・サービスに集約する機能として、学生支援機能は、学修支援、経済支援、課外活動支援、障がいのある学生支援、留学支援、インターンシップ支援、就職支援などが挙げられる。卒業生・学外者が主たる対象者であるキャリア教育相談室、学友支援室、基金室、地域連携推進室などもワンストップ・サービスに集約する。この他に、技術支援センターへの相談機能、研究支援として、学内共同教育研究施設・学内共同利用施設の利用相談機能、共同研究、受託研究等の産学官連携の総合窓口機能、また、教育支援として、総合メディア基盤センターによる教材作成支援、教育技術支援への窓口機能も含める。

(基本方針3) すべての利用者にとっての“安らぎと安心”の場

街中から離れた角間キャンパスにおいて、本学学生からは、受講する授業間の空いた時間での居場所がない、疲れたとき、リフレッシュしたいときの施設がないなどの意見が多く寄せられた。日本人学生、留学生、社会人学生、地域の方々等との交流スペースに加えて、学生へのアンケートや学生との意見交換会で要望が多くあった「くつろぎ」の場を設ける。具体的には、スポーツジム、音楽・映画鑑賞、イベントのスペースを設ける。

4. 近未来図書館「知と創造の学修館」の構成要素

(1) コンテンツ

- 本学の教育・研究を支える電子媒体学術コンテンツをユビキタスに提供
- 電子ブック、電子ジャーナル、データベース等の学習用、研究用コンテンツの充実
- 本学研究者の全研究業績を KURA から発信

本学の教育・研究を支える電子ジャーナル、データベース等の電子媒体学術コンテンツを収集・管理・保存し、全構成員に対して、可能な限りユビキタスに提供する。

- ① 授業関連資料等の学生用コンテンツを電子ブックで提供
- ② 電子図書、電子ジャーナル、データベース等の研究用コンテンツの充実
- ③ 本学研究者が執筆した学術雑誌論文等の全研究業績（博士論文を含む）を機関リポジトリ「KURA」から発信

(2) サービス

- 学習・研究支援機能の高度化
- 新技術を用いたサービスの実践
- 教育研究成果の発信

伝統的な図書館機能の充実に加え、「学習・研究支援機能の高度化」、「新技術を用いたサービスの実践」、「教育研究成果の発信」を図る。

■学習・研究支援機能の高度化

自学自習を中心とした学生生活全般の支援と知の共有・創出につながる活動を支援する。

- ① アカデミック・アドバイザー等の教員、図書館職員等の職員とラーニング・アドバイザー(LA)、留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)等の学生の協働により、授業外での学修支援の充実、知的コミュニケーションの促進
- ② サブジェクト・ライブラリアン(専門司書や定年退職者)による専門的な教育・研究活動支援
- ③ 学生がいつでも視聴できるようオンライン講義を充実

■新技術を用いたサービスの実践

最新技術を用いたサービスを提供する。新しい施設・設備は、技術の進歩にフレキシブルに対応可能なものとする。

- ① ICチップでの蔵書管理によるサービスの高度化とセキュリティの向上
- ② AI搭載業務支援ロボットの配置による業務の効率化
- ③ 自動翻訳機能(日本語⇄英語等)を用いたグループ通話及びプレゼンテーションを可能とする機器の整備

■教育研究成果の発信

ステークホルダー、一般市民へ本学の教育研究活動を常に情報発信するための場を提供する。また、同時質疑応答が可能なネット配信でも提供する。

大学で実施している各種の公開講座にも活用し、種々のICT技術(例えば他の場所とのリアルタイムの通信など)を利用可能とする。

(3) 場

- 多様な学習空間の整備と、情報管理の自動化
- ティーチング・コモンズ及びリサーチ・コモンズ等の教育研究支援スペース
- 居心地の良いカフェなどのアメニティスペースや「くつろぎ」の場
- 地域住民を含む多様な利用者に関わった交流スペース

以上の「コンテンツ」及び「サービス」を提供する以下の「知的・創造的交流の場」を整備する。便利・ためになる・楽しい・くつろげる等、「学修館」に来たくなるような仕掛けを用意する。

- ① 学生の多様な学習ニーズに対応した、多様な学習空間を整備し、すべての情報管理(入退室など)を自動化する。

- ② 学生生活全般を支えるワンストップ窓口
- ③ フォーマル又はインフォーマルなセミナーやワークショップ等を通じた知的活動を促進する場
- ④ 先進的な教育・研究の実践の場とするためのティーチング・コモンズ及びリサーチ・コモンズ等の教育研究支援スペース
- ⑤ 長く滞在できる居心地の良いカフェなどのアメニティスペースや学生へのアンケートや学生との意見交換会で要望が多くあった「くつろぎ」の場（スポーツジム、音楽・映画鑑賞、イベントのスペース）
- ⑥ 留学生、社会人学生、地域住民を含む多様な利用者にも開かれた交流スペース

(4) スタッフ

➤ 多様なサービスを支えるスタッフを配置

以上を支えるため次のスタッフを配置する。

- ① 教員(情報学、図書館学、博物館学)
- ② 学習支援担当職員
- ③ コンテンツ管理担当職員
- ④ 各種窓口担当職員
- ⑤ 学生スタッフ (LA、LeCIS)
- ⑥ サブジェクト・ライブラリアン

また、上記スタッフを通じて、全学の教員が何らかの形で「学修館」の活動に関わる体制を構築する。

(5) 地域連携

- ##### ➤ 新石川県立図書館、金沢市図書館との連携を強化
- ##### ➤ 「学都金沢」にふさわしい図書館活動の機能分化

「新石川県立図書館基本構想 中間まとめ案（平成 29 年 2 月 石川県）」、「金沢市図書館機能充実検討の結果について（平成 29 年 2 月 金沢市教育委員会）」いずれの計画においても大学との連携の必要性、ネットワークの強化を提示している。石川県、金沢市と「図書館活動における知の連携協力」を行い、「学都金沢」にふさわしい図書館活動の一層の機能分化を図る。

5. 近未来図書館「知と創造の学修館」建設場所

- 【候補地1】総合教育棟と人間社会5号館棟（旧教育学部棟）の間
- 【候補地2】総合教育棟の南側
- 【候補地3】中央図書館棟の東側
- 【候補地4】現存の大学会館を改修
- 【候補地5】総合メディア基盤センターの南側 等

書籍を中心とする従来の図書館機能は中央図書館に集約し、「知と創造の学修館」は、例えば以下の候補地に新築(あるいは改修)する。なお、北地区に新築する場合には、キャンパスの開放感を損ねないよう配慮する。

【候補地1】総合教育棟と人間社会5号館棟（旧教育学部棟）の間

総合教育棟と人間社会5号館の間の傾斜地に半地階を含めた階段形式で建設する。特に新入生、人文系学生の利便性が高まる。

【候補地2】総合教育棟の南側

総合教育棟・大学会館・中央図書館のトライアングル中央に建設する。最も多く利用することとなる学生は、いずれの建物へも5分以内で行くことができる。

【候補地3】中央図書館棟の東側

中央図書館東側の傾斜地に建設する。利用する学生・教職員の動線としては、好ましいものではない。一方、自家用車で来学する学外者にとっては、専用の駐車場を確保できる場所である。

【候補地4】現存の大学会館を改修

大学会館を改修する。その際、角間キャンパス北地区と南地区の中央に位置し、本部棟に近い中福利施設（食堂・売店）を拡充する。

【候補地5】総合メディア基盤センターの南側

角間キャンパス北地区と南地区の中央に位置し、本部棟からも近い。北地区と南地区のいずれからでも10分以内に行くことができる。

6. 近未来図書館「知と創造の学修館」建設後の既存図書館の活用

- 既存の各図書館・室は、従来の図書館機能を維持
- 中央図書館は、大学博物館的機能・大学史資料館機能を強化

既存の中央図書館・自然科学系図書館・医学図書館・保健学類図書室は、従来の書籍を中心とする図書館機能を維持する。ただし、中央図書館については、現資料館のモノ資料、文書資料に加え、学内に散在している標本類を集約する、大学博物館的機能を強化する。また、

国立公文書館等の指定を受けて学内非現用文書を集約すると同時に、本学の歴史に関する資料を網羅的に収集する大学史資料館機能を強化するものとする。

7. 最後に

- 未来図書館は、未来の金沢大学の教育・研究の構想に基づくものに
- 社会に先駆けて新たな技術と保存してきた情報との融合を図り、知的財産の新たな創出を担うことができる教育研究施設へ

大学の教育・研究活動と図書館は密接に関わっている。従って、未来の大学図書館は、未来の金沢大学の教育・研究の構想に基づくものでなければならない。2000年3月に創立50周年を記念して発表された金沢大学「キャンパス2050」では、附属図書館の50年後(2050年)の姿として「自分の部屋からもアクセスできるけど、個々の開放的な空間がある」「電子ライブラリー・ルームが整備される」「総合的な情報の受信・発信基地」「衛星通信で結ばれた大学間連携授業の開講」などを予想しているが、いくつかはすでに実現している。驚くべきスピードで情報技術が進展しており、10年後ですら予想不可能といっても過言でない。ただ、どのような時代になろうとも、大学図書館は、高等教育・科学技術分野の情報を確実に保存し、研究分野との密接な関係を生かしながら、社会に先駆けて新たな技術と保存してきた情報との融合を図り、知的財産の新たな創出を担うことができる教育研究施設として発展していかなければならない。

【図書館未来構想WG委員】

福森 義宏 附属図書館長(理事)
 志村 恵 附属図書館副館長(人間社会研究域・教授)
 伊藤 秀一 附属図書館副館長(理工研究域・教授)
 尾崎 紀之 医学図書館長(医薬保健研究域・教授)
 上地 進 情報部長

【審議経過】

平成29年11月15日 図書館委員会承認
 平成29年12月 1日 情報企画会議承認
 平成29年12月11日 大学改革推進委員会承認
 平成29年12月15日 教育研究評議会承認

Kanazawa Univ. ©

新YAMAZAKIプラン 2018

～革新を追い風に、世界を牽引する国際的な教育研究拠点へ～



平成 30 年 4 月 1 日
大学改革推進委員会

新YAMAZAKIプラン 2018 の基本的な考え方

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけの下、グローバル社会をリードする人材の育成と、世界に通用する研究拠点の形成を目標に定め、全学的な大学改革プランとして、平成 26 年 4 月に「YAMAZAKI プラン 2014」を策定した。さらに、平成 28 年 10 月に「YAMAZAKI プラン 2016」として、その内容を発展的に見直し、学長の強いリーダーシップによるガバナンス強化と戦略的な大学マネジメントを基盤とし、世界にその存在感を示すことができる教育研究成果の創出に向けた様々な改革を推進してきた。

この改革により、年俸制やリサーチプロフェッサー制度、教員評価制度等の新たな人事給与制度が構築・運用され、また、新学術創成研究機構や国際基幹教育院、新学術創成研究科の創設、平成 29 年度文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」の採択によるナノ生命科学研究所の創設等、世界を牽引する国際的な教育研究拠点の形成に向けた礎を着実に築き上げてきたところである。

一方、IoT やビッグデータ、AI などの数理データサイエンスをベースとした第 4 次産業革命・Society5.0 と称される情報科学技術の飛躍的進展や、少子高齢化と人口減少の進行等、社会システムそのものに大変革がもたらされようとしている中、国立大学においては、さらなる機能分化や機能強化が求められている。

こうした革新を追い風にしながら、金沢大学が世界を牽引し、地方創生にも寄与する国際的な教育研究拠点を形成するため、ここに新たな大学改革プランとなる「新 YAMAZAKI プラン 2018」をとりまとめた。

「新 YAMAZAKI プラン 2018」においては、世界的な研究拠点の形成、グローバルリーダーとして活躍する人材の育成、世界と地域の環流による研究成果の社会実装など 6 つの重点戦略の下、10 年後、20 年後の金沢大学の姿を見据えつつ、これまでの取組を発展させ、世界と伍して卓越した教育研究を展開するための施策を精選し掲げている。

この金沢大学における改革は、卓越した実践的な大学改革のモデルとなるものであり、それは将来の金沢大学のあるべき姿を教職員一人一人が思い描き、その理想の具現化に向けて、各人が主体的に取り組むことで実現できるものである。

この理念の下、全学を挙げて「新 YAMAZAKI プラン 2018」に掲げる各施策に取り組み、自主的、自律的な大学改革を加速させていきたい。

新YAMAZAKIプラン 2018

■戦略1

研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision I 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実

Vision II 研究力強化を促進する支援体制の整備

■戦略2

グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision III 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成

Vision IV 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成

Vision V 入学から卒業までの徹底した学生支援

■戦略3

国際的な連携ネットワークの形成と頭脳循環の推進

Vision VI 強力な国際競争力を備えたネットワークの活用による人的交流の拡大

■戦略4

世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VII 大学をハブとした社会のあらゆるセクターとの有機的連携

Vision VIII 大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上

■戦略5

積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision IX 大学改革・機能強化を推進する大学運営

Vision X 戦略的・効果的な財政運営の推進

Vision XI グローバル化に対応する教育研究環境の整備

■戦略6

高度臨床研究の展開と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XII 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成

Vision XIII 地域中核病院としての機能強化

■戦略 1

研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision I 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実

Subject 1 世界的な学問の潮流を見据えた国際的な研究拠点の形成

[Action] WPI 拠点や共同利用・共同研究拠点、新学術創成研究機構、研究域附属研究センター等における組織的な研究活動を先鋭化し、国際的な研究拠点を形成する。

Subject 2 研究大学としての全学的な研究水準の向上

[Action] 総合大学としての機能強化に向け、研究グループ・個人をベースとした研究力強化方策を組織的、戦略的に推進する。

Vision II 研究力強化を促進する支援体制の整備

Subject 1 世界に誇る学術研究の進展に向けた支援体制の強化

[Action] 世界に誇る研究拠点の形成に向け、学内 COE 制度（戦略的研究推進プログラム（超然・先魁））等により、優位性のある研究や異分野融合研究に対する組織的な支援を行うとともに、URA を中心とした研究支援体制を充実する。

Subject 2 新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備

[Action] 様々なプロジェクトに応じた施設整備計画を策定し、同計画に基づき、本学の機能強化に資する環境の充実に向けた計画的な施設整備を行う。

■戦略2

グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision III 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成

Subject 1 金沢大学の特色をいかした大学院課程の組織改革

[Action] 社会のニーズ等を踏まえ、本学の特色をいかした大学院課程における組織改革を実施する。

Subject 2 大学院教育の高度化・国際化を推進する教育プログラム改革

[Action] アカデミアや産業界をリードする高度専門人材の養成に向け、先進的・学際的な研究実績の活用、海外大学との連携や英語による教育の充実により、大学院教育の高度化・国際化を推進する教育プログラムの開発・改善に取り組む。

Subject 3 社会ニーズを踏まえた専門職学位課程の教育力強化

[Action] 社会のニーズを踏まえ、専門職大学院の教育体制を強化する。

Vision IV 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成

Subject 1 金沢大学の強み・特色をいかした学士課程の組織改革

[Action] 社会のニーズ等を踏まえ、本学の強み・特色をいかした学士課程における教育組織の改革に取り組む。

Subject 2 基幹教育の定着及び深化

[Action] KUGS (Kanazawa University “Global” Standard) の理念に基づくGS科目や学域GS科目等の基幹教育を着実に展開する。

Subject 3 学士課程教育の高度化・国際化を推進する教育プログラム改革

[Action] 教育方法の改善や、教職協働、広域圏を活用した教育機能等を基盤としつつ、英語による教育の充実を進めるとともに、国際通用性の高い教育プログラムやアントレプレナーシップ醸成のための教育プログラムを開発・実施する。

Subject 4 高大連携と入試制度改革

[Action] グローバルサイエンスキャンパス事業等により、高大接続の観点に立った、高校生に対する教育プログラムを提供する。また、学域・学類の人材養成目的や特色に応じた入試制度改革を行う。

Vision V 入学から卒業までの徹底した学生支援

Subject 1 統合的な学生支援組織の設置等による学生支援の充実

[Action] 学生を支援するための組織の設置、奨学金制度の改革等により、学生支援体制を充実する。

Subject 2 学生留学生宿舍「先魁」Ⅲ期の整備と学生寮等の再整備計画策定

[Action] 本学の日本人学生と留学生が快適な生活の拠点を持つことにより、互いの文化等の理解を図りつつ、修学を充実できる宿舍を整備する。

Subject 3 附属図書館が有する学修支援機能の強化

[Action] ラーニング・アドバイザー (LA) 制度及び留学生ラーニング・コンシェルジュ (LeCIS) 制度等を充実させるとともに、附属図書館が有する学修支援機能を活用した総合教育棟等での学修支援体制の構築等、自学自習の支援拠点である附属図書館の学修支援機能を強化する。

■戦略3

国際的な連携ネットワークの形成と頭脳循環の推進

Vision VI 強力な国際競争力を備えたネットワークの活用による人的交流の拡大

Subject 1 世界トップレベル大学等との組織的な連携による交流ネットワークの形成

[Action] 世界トップレベル大学等との組織対組織の連携基盤を強化し、国際競争力のある交流ネットワークを形成する。

Subject 2 若手研究者及び学生の海外双方向交流の拡大

[Action] 世界トップレベル大学等との交流ネットワークを活用し、若手研究者や留学生・外国人学生を含めた学生の海外大学との双方向交流を拡大する。



■戦略 4

世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VII 大学をハブとした社会のあらゆるセクターとの有機的連携

Subject 1 社会実装・社会協働を一体的に推進するための体制構築

[Action] 本学が有するリソースを産業、地域振興、行政、人材育成、医療等、社会のあらゆる領域に還元し、多様なセクターとの実効的な社会実装・社会協働を一体的に推進するための体制を構築する。

Subject 2 社会実装までを見据えた実証型研究プロジェクト等の展開

[Action] イノベーションの創出に向けて、社会・経済的なニーズと本学の研究・技術シーズとのマッチングを基に、自治体、企業等と連携した実証型の研究プロジェクトや共同研究等を展開する。

Subject 3 地方創生に向けた社会と大学との協働による事業の展開

[Action] 地方創生に向けて、地域課題を共有する圏域ごとに設けた協議の場等も活用しながら、自治体や大学コンソーシアム石川等の関係団体等との連携を発展させ、社会と大学との協働による高齢化社会や人口減少等を見据えた持続可能社会の構築に資する事業等に取り組む。

Vision VIII 大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上

Subject 1 研究成果の社会還元に向けた知的資源等の戦略的管理

[Action] 本学の研究成果の社会還元に向けて、学術論文をはじめとする学術情報のオープン・アクセス化を進めるとともに、研究内容等を知的財産の観点から評価し、戦略的に管理する。

Subject 2 所蔵資料の公開・利用促進及び「未来図書館」構想の具体化

[Action] 企画展示等を通じて、各図書館や資料館が有する資料を積極的に公開し、利用拡大に取り組むとともに、知の集積・知的交流の場としての「未来図書館」構想の実現に向けて具体的な計画を策定する。

Subject 3 社会ニーズに基づく付加価値の高い学習事業の実施

[Action] 本学の知的資源を活用した高度職業人養成に資する学習事業や、付加価値が高い学習事業を開発・実施するとともに、社会人教育に特化した新たな教育課程の創設に向けての構想を策定する。

■戦略 5

積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision IX 大学改革・機能強化を推進する大学運営

Subject 1 大学改革・機能強化を実現するためのガバナンス改革

[Action] 本学の強みや特色をいかし、教育研究機能を最大限に発揮するため、ガバナンス体制を更に強化する。

Subject 2 大学の戦略に即した人員配置・人材育成と評価制度の運用

[Action] 教員配置計画や男女共同参画の展開等を踏まえ、戦略的な教員採用・配置を行うとともに、外国語運用能力をはじめとする教職員の能力開発を推進する。併せて、教員評価制度を着実に運用し、処遇に反映する。

Subject 3 戦略的な広報と積極的な広聴活動の展開

[Action] 広報戦略に基づき、Web サイトや広報物等、対象や目的に応じた効果的な広報手段を用い、大学の情報を積極的に広く社会に発信するとともに、ステークホルダー協議会や同窓会等を通じ、関係機関との対話と連携を強化する。

Subject 4 法令遵守の徹底及び啓発

[Action] 研究不正の防止を含め、コンプライアンスを徹底し、適正な法人運営を推進する。

Vision X 戦略的・効果的な財政運営の推進

Subject 1 持続可能な財政運営の確立

[Action] 国の運営費交付金の配分方針を踏まえ、第3期中期目標期間における財政計画に基づき支出の見直しを行う。また、効果的な資産活用による自己収入の確保等、持続可能な財政運営を行う。

Subject 2 基金の拡充と効果的な活用

[Action] 基金を拡充し、安定した財政運営に資するとともに、基金（大学・修学支援・課外活動振興）を効果的に活用した活動を積極的に展開する。

Vision XI グローバル化に対応する教育研究環境の整備

Subject 1 教育研究組織に応じた有効な施設マネジメント

[Action] 教育研究組織の態様に応じた既存施設の利活用に係る再点検を行い、既存施設やスペースの再整備・再配分を実施するとともに、施設マネジメントに係る新たな計画や将来構想を策定する。

Subject 2 情報セキュリティの強化

[Action] 情報セキュリティの強化(機密性・完全性)に向け、情報セキュリティインシデントの未然防止等を含め、国際基準に応じた情報セキュリティマネジメントシステムを着実に運用する。



■戦略 6

高度臨床研究の展開と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XII		臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成
Subject 1	先進的医療及び橋渡し研究・臨床研究の推進	
[Action]	臨床研究に係る組織的な支援を行い、先進医療・医師主導治験を推進するとともに、臨床研究中核病院指定に向けた環境整備を行う。	
Subject 2	初期研修・専門医研修の充実と優れた医療人材の育成	
[Action]	研修医・専門医総合教育センターにおいて初期臨床研修から専門医研修までを俯瞰した指導を行い、優秀な専門医を育成するとともに、CPDセンターを活用した専門教育・安全教育・リカレント教育を行い、優れた医療従事者を育成する。	
Vision XIII		地域中核病院としての機能強化
Subject 1	第7次医療計画を踏まえた附属病院の将来構想策定	
[Action]	将来のあるべき医療提供体制の実現に向け、ガバナンス・人員・経営・診療機能等の様々な面から本院の目指すべきビジョンを策定する。	
Subject 2	診療の質向上による地域医療への貢献	
[Action]	地域の中核病院として、引き続き高度医療を提供するため、医療安全管理体制の更なる強化を進めるとともに、関連病院との連携を深める。	

金沢大学附属図書館外部評価報告書

平成28年3月

金沢大学附属図書館

はじめに

本報告書は、平成 27 年度に金沢大学附属図書館が実施した外部評価の報告書です。本附属図書館では、今までにも自己点検・評価報告書を作成したことはありましたが、外部者による点検評価を受けたことがなく、それが一つの懸案事項になっていました。ちょうど平成 26 年度は、前同行った自己点検評価から 6 年目に当たり、平成 21～26 年度の活動に対する自己点検評価報告書を作成することとなっていました。そこで、その報告書をもとに翌 27 年度に外部評価を実施することとした次第です。

今回の外部評価では、名古屋大学附属図書館の森仁志館長、金沢市立玉川図書館の仙石正美館長、九州大学基幹教育院人文社会科学部門の山田政寛准教授、富山大学学術情報部の高島学部長の 4 氏に委員をお願いし（所属・肩書は委員委嘱当時）、あらかじめ送付した自己点検・評価報告書や各種資料をご検討いただいたうえで、平成 28 年 1 月 7 日にヒアリングと実地調査を行っていただきました。本報告書は、このような活動を踏まえてまとめられたものです。

先述のように自己点検・評価報告書は、平成 21～26 年度の本附属図書館の活動についてまとめたものであるため、平成 27 年度の活動が含まれていませんでした。しかしながら、平成 27 年度に改善された項目が少なからずありました。そこで、ヒアリング当日の館長からの自己点検・評価報告書の概要説明のなかに平成 27 年度の新たな状況を盛り込むこととしました（これについては本報告書の 4 を参照のこと）。したがって、各委員の評価は平成 27 年度の状況を踏まえたものとなっており、本報告書を手に取られた皆様にはこの点を念頭にお読みいただければと思います。

各委員の外部評価の取りまとめに当たっては、当初、提出していただいた報告書から項目別に評価をピックアップして並び替えることを考えていました。しかし、報告書に目を通したところ、それぞれの委員のお立場が分からないと理解できないところがあることから、個々の報告書をそのまま掲載することにいたしました。この点、方針がきちんと定まっておらず、委員の皆様事前に説明できておりませんでしたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。また、ご多忙にもかかわらず外部評価委員をお引き受けいただいた皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

本報告書に盛り込まれております提言は、積極的に取り入れさせていただきたく思いましたが、残念ながら私は今年度末を以て館長を退任することとなりました。そのため、提言は次期館長に託させていただくこととなります。少し心残りではありますが、前向きにご検討いただけるものと信じております。最後に本報告書の最終確認が館長としてのほぼ最後の仕事となりましたことをここに記し、本拙文を締めくくらせていただきます。

平成 28 年 3 月

附属図書館長 古 畑 徹

外部評価報告書目次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
目次	・ ・ ・ ・ ・ 2
1. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会開催日時・次第	・ ・ ・ ・ ・ 3
2. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会委員名簿及び出席者	・ ・ ・ ・ ・ 3
3. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会議事要旨	・ ・ ・ ・ ・ 4
4. 金沢大学附属図書館の現状と課題	・ ・ ・ ・ ・ 5
5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足	・ ・ ・ ・ ・ 20
6. 評価・提言	・ ・ ・ ・ ・ 23
7. 平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・外部評価実施要領	・ ・ ・ ・ ・ 33

1. 平成27年度金沢大学附属図書館外部評価委員会開催日時・次第

日時：平成28年1月7日(木) 9:30～12:00／13:00～15:00

場所：金沢大学附属図書館中央図書館会議室

議事次第

開会

金沢大学附属図書館長あいさつ

委員長の選出

金沢大学附属図書館の現状と課題報告

質疑応答

外部評価委員の意見交換

講評

閉会

図書館視察(希望者のみ)

配付資料

資料1 平成27年度金沢大学附属図書館外部評価委員会次第

資料2 平成27年度附属図書館自己点検・評価及び外部評価実施要領

資料3 平成27年度金沢大学附属図書館外部評価委員名簿

資料4 金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書(平成27年11月)

資料5 金沢大学附属図書館概要2015

資料6 こだま(金沢大学附属図書館報) 第186号・187号

資料7 金沢大学附属図書館利用ガイド

2. 委員名簿

森 仁志	名古屋大学附属図書館長／大学院生命農学研究科教授
仙石 正美	金沢市立玉川図書館長
山田 政寛	九州大学基幹教育院人文社会科学部門准教授
高島 学	富山大学学術情報部長

その他出席者

古畑 徹	金沢大学附属図書館長
------	------------

伊藤 秀一	金沢大学附属図書館副館長
尾崎 紀之	金沢大学医学図書館長
上地 進	金沢大学情報部長
土田 浩	金沢大学情報部情報企画課長
橋 洋平	金沢大学情報部情報サービス課長

3. 議事要旨

古畑徹金沢大学附属図書館長から開会の挨拶が行われ、互選により、委員長に森仁志委員を選出し、森委員長を議長として審議に入った。

古畑附属図書館長から、資料に基づき、金沢大学附属図書館について報告があり、質疑応答が行われた。

続いて、金沢大学関係者はいったん退席し、委員のみによる意見交換が行われた。意見交換後、金沢大学関係者が席に戻り、森委員長による総評と意見交換が行われた。

外部評価委員会での意見交換の詳細は「5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足」として、後日、委員から提出を受けた評価報告については、「6. 評価・提言」として、本報告書にまとめた。

なお、「6. 評価・提言」作成に当たっては、委員から提出のあった評価報告書に、文末を揃える等の若干手を加えたことを申し添える。

2016年1月7日

金沢大学附属図書館 自己点検評価報告書の概要

附属図書館長
古 畑 徹

1

1. 組織・管理・運営

○総評:概ね良好(3.25)

1-1. 将来構想・理念等:非常に良好

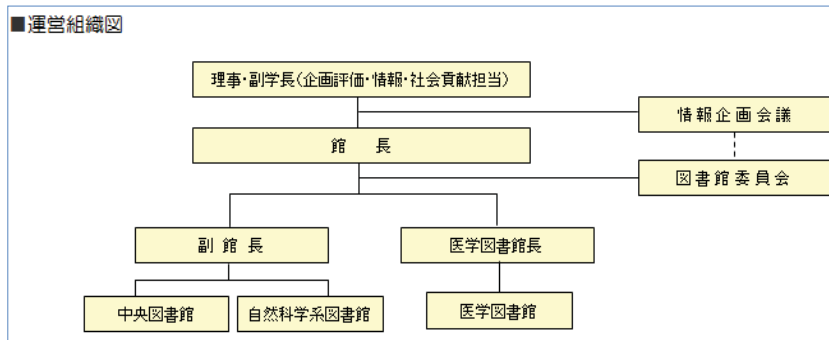
前回の自己点検評価における課題

➡H21「金沢大学附属図書館基本理念と
目標」

H25「金沢大学附属図書館中長期ヴィ
ジョン」「金沢大学附属図書館短期
アクションプラン」

2

1-2. 運営組織:概ね良好

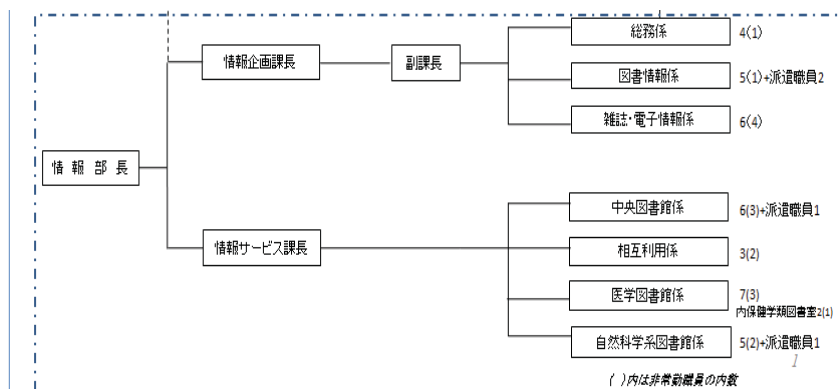


- 3地区に1館ずつ配置＝利用者の利便性
- 利用者目線に立った柔軟な運営
- 館長・医学図書館長関係の規定は一考を要す

3

1-3. 事務組織と職員:概ね良好

- 情報部が所掌一資料館・情報化推進室も所掌
- 従来からの人員数は維持
しかし、派遣職員の代替も発生⇒改善を要す
- 3館の間の意思疎通は図られている



1-4. 図書館業務用システム等:概ね良好

H21. 4	図書館業務システムの利用者データをアカンサス・ポータルと連携 * 図書館の利用者データの登録作業が不要
H24. 3	図書館業務用ソフトウェアをNALISに更新。OPACに統合検索機能を追加しOPAC plusとする。
H24. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリの運用を開始
H25. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリを金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに統合

- OPAC plus導入で一括検索可能に
電子ジャーナルの論文単位まではできない
- 予算執行支援システムなど業務に直接関連する学内システムとの連携が不十分
➡改善の余地

5

2. 経費

○総評:概ね良好

- 図書館運営費は、一時期減少傾向が見られたが、その後回復し、概ね安定的に確保
- 光熱水料及び電子計算機借料の固定経費の割合が高い
➡将来的に電子計算機借料の模索が必要
➡H27空調改修で改善が見込まれる
- 資料費、図書費及び電子ジャーナル経費は、概ね増加一予算確保
➡電子ジャーナルの購入タイトル維持は楽観できない状態

6

3. 施設・設備

○総評:ある程度良好(2.5)

3-1. 施設:ある程度良好

- 中央図書館:

収容能力オーバー⇒書架整備・蔵書減等必要
学修支援の場の整備促進中

冷暖房設備の老朽化・集密書架改修

- 自然科学系図書館:

前回から換気・空調、照明調節の運用等に課題指摘⇒改善されていない

7

- 医学図書館

老朽化指摘⇒H24末改修

しかし、3F書庫の書架未設置

旧蔵書の自然科学系図書館仮置き

- 保健学類図書室

収容能力オーバー⇒書架整備・蔵書減等必要

* 中央図書館冷暖房老朽化⇒H27空調改修

* 医学図書館3F集密書架・ラーニング・コモンズ・スペースの拡充⇒H27基盤強化促進費

8

3-2. 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等:概ね良好

・ 前回自己点検評価の課題3点は改善

課題	対応状況
図書館内の利用者用パソコンについて、学生の必携パソコンの携行実態を見ながらセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立を図ること	平成21年度末の中央図書館でのラーニング・commonsの設置後、情報化推進室のICTインフラ整備事業により、順次、全館の利用者用パソコンをシンクライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。
図書館内の無線LANアクセスポイント及び情報コンセントを整備すること	情報化推進室のICTインフラ整備事業により、接続が不安定だった、全館の無線LAN環境を順次改善した。
多機能ICカードを導入すること	平成22年度から、ICカード化されている学生証及び職員証を使って、図書の貸出等の手続きが可能になった。

- ・ セキュリティ対策として、ネットワークカメラの整備を進めている
 - ➡ 自然科学系図書館のネットワークカメラ更新が必要

9

4. 情報資源・資料

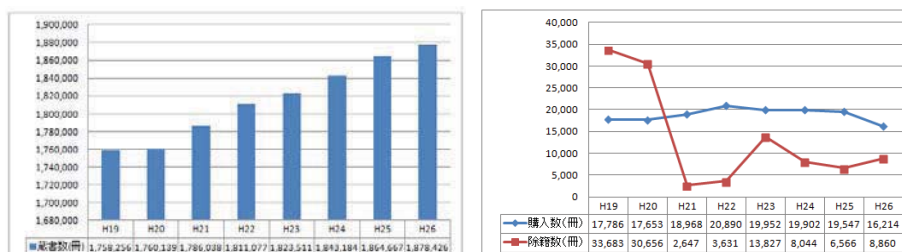
○総評:概ね良好(2.75)

4-1. 資料の収集方針と保存:ある程度良好

- ・ 資料の収集方針及び重複所蔵資料の処分方針は妥当であり、適正に運用
- ・ 書架の狭隘化は大きな問題➡工夫が必要
- ・ H26カビの発生確認➡保存管理の見直し必要

10

4-2. 図書の整備:概ね良好

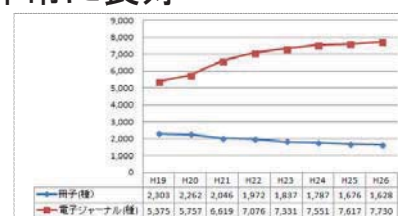


- 平成19、20年度に大量の重複資料を廃棄し、その後は定期的に重複調整
- 学生用図書費の安定確保
- 利用頻度の高い図書の複数購入が必要
- 専門性の高い図書の収集について他の研究大学などの状況を把握した上で、今後の整備に活かしていくことが必要

11

4-3. 雑誌(紙媒体)の整備:非常に良好

- 利用度の高い外国雑誌などで、バックファイルが紙媒体しかない場合に、製本雑誌の保存状態に注意

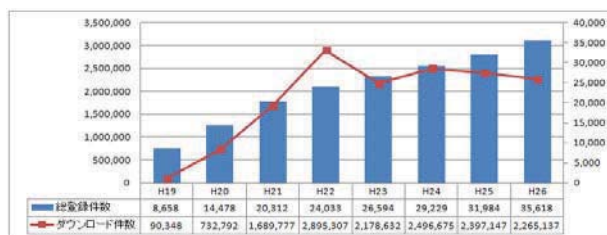


4-4. 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備:概ね良好

- 本学は三大大手出版社(Elsevier、Springer、Wiley)の電子ジャーナルパッケージ契約を継続
- 研究分野によっては基幹的な雑誌の購読が行われていない
- 限られた予算から学術基盤としてふさわしい購読タイトルの選定に留意し、今後の大学財政の状況に応じて、より良い負担の仕方を継続的に模索する必要

12

4-5. 金沢大学学術情報リポジトリ(KURA):概ね良好



- ダウンロード回数が横ばい状態にあるが、登録数は一定の割合で増加
- 今後のオープンアクセス化の進展に対応すべく全学的なオープンアクセス方針が必要
- 博士論文全文の登録の流れの効率化、科研費による研究成果のオープンアクセスの義務化への対応が今後の課題

13

4-6. 目録情報の電子化:ある程度良好

- 総蔵書数187万冊余のうちOPAC plus で検索可能なのは86万冊弱
理由:前身校からの継承図書・電子化以前の研究室所蔵資料等の未電子化
➡さらなる遡及入力が必要

4-7. コンテンツの電子化:ある程度良好

- 電子図書整備は環境学コレクション等少数
- 電子図書の導入促進が今後の課題

14

4-8. 各種コレクションの整備:概ね良好

- 第四高等学校蔵書は、本学の源流を成すものであり、本学をアピールする貴重な資料群
- 平成20年度以降では、「北陸銀行文庫」「環境学コレクション」を設置、短期間で充実

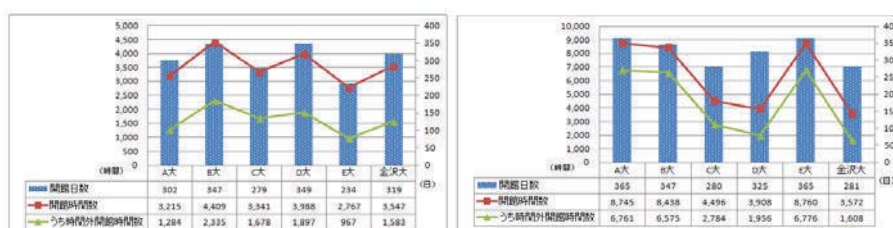
○前回の自己点検評価と比較して、6年間で電子化が大きく進展し、それによって十分に対応できない部分が出てきたものと理解される

15

5. サービス

○総評:概ね良好(3.14)

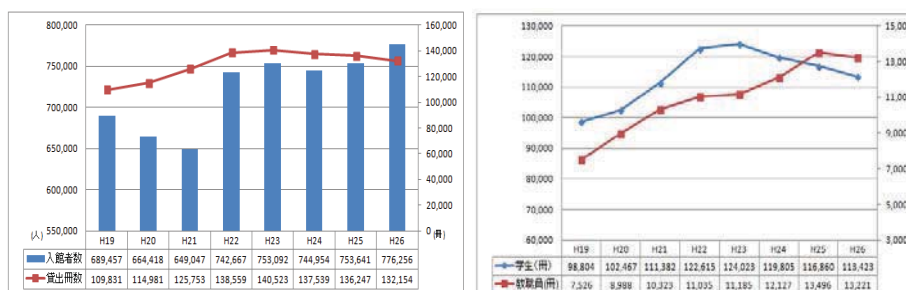
5-1. 開館日・開館時間:ある程度良好



- 中央図書館の開館状況は平均程度
- 医学図書館の開館状況については、学生サービスの観点から、開館時間数の点で検討が必要

16

5-2. 来館利用及び貸出冊数:非常に良好



- 入館者数は、平成21年度末の中央図書館ラーニング・コモンズの設置後、大幅に増加
- 貸出冊数は、学生、教職員とも前回自己点検評価より増加

17

5-3. 図書館職員が行う利用者サービスの質:概ね良好

- 利用者アンケートから評価
 - 窓口サービスは普通以上の満足度
 - 利用者一人ひとりを大切にしているか
 - 好意的62%⇒利用者個別ニーズ対応必要

5-4. ILL(他大学等図書貸借及び文献複写):概ね良好

- 文献複写件数が減少しているが、電子ジャーナル利用の定着と各大学紀要を含む学術雑誌のオープンアクセス化の進展によるところが大きい

18

5-5. イベント:非常に良好

- 中央図書館を中心に、各種イベントを積極的に開催、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の拡大を意図

5-6. 広報:概ね良好

- 広報誌「こだま」・メルマガ「ひかり」・Facebook・「附属図書館概要」・リーフレット(一般向け・英文)など
- アンケート⇒公式webサイトの改善要望・「図書館の利用方法等に関する広報の充実」「留学生向け利用案内の充実」「利用者向けの読書案内の充実」の要望

19

5-7. 利用者満足度:概ね良好

- アンケートから判断
「サービスの質全般について評価をして10点満点で点数をつけてください」という質問
前回6.13 ⇒ 今回7.13
- アメニティを中心に要望⇒老朽化が進む施設の改修が必要

* 冷暖房の老朽化については、平成27年度に中央図書館室内空調設備の改修。中央図書館のトイレについては、平成27年3月に2階、平成27年9月に3階の改修。

20

6. 学修支援

○総評:概ね良好(2.8)

6-1. 情報リテラシー教育:概ね良好

- 「大学・社会生活論」「情報処理基礎」の講師、職員による「レポート作成基礎講座」「文献収集法講座」、留学生対象オリエンテーション、オンデマンド講習会、ビブリオバトルなど多様な情報リテラシー教育の機会を提供
- 利用者数の少ない講習会もある
➡認知度orニーズ 今後の動向を注視

21

6-2. 学修支援制度:概ね良好

- H25より大学間連携共同教育推進事業によりラーニング・アドバイザー制度・学修支援相談所を実施
- アンケートから判断
学修支援に対するニーズは比較的多い
- 外国人留学生にも対応できる国際化が課題

* SGUによりH27後期より留学生ラーニング・コンシェルジュ制度(英文名称:Learning Concierge for International Students, 通称:LeCIS(レシス))導入

22

6-3. 学修環境:概ね良好

- H21末に中央図書館にラーニングコモンズ設置
- H24医学図書館改修で学修スペース拡充
- 学修スペースの利用者は増加傾向
- 未だ知らない学生もいる⇒広報が必要

* SGU及び国立大学改革基盤強化促進費(施設補助金)で、平成27年度に中央図書館・医学図書館のラーニング・コモンズを拡大し、自然科学系図書館にラーニング・コモンズを設置予定
⇒あとで視察してもらう

23

6-4. 学生との協働:ある程度良好

- H21図書館学生ボランティア「とぼら」設置
⇒機能しているが、人員確保・認知度・企画趣旨の明確化などに課題
- 中央図書館ではサークル・授業との連携も

6-5. 関連イベント:ある程度良好

- H24より大学間連携共同教育推進事業により図書館機能強化のための講演会等を実施
- 引き続き職員の能力向上の機会を設ける必要あり

24

7. 地域連携・社会貢献

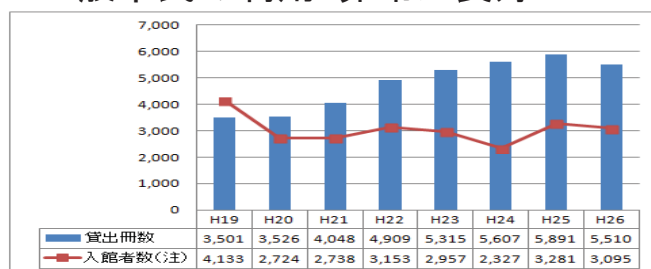
○総評:非常に良好

7-1. 県内公共図書館等との連携:非常に良好

- ・石川県内図書館横断検索システム及び石川県立図書館協力宅配便事業などに参加することによって、石川県内他図書館との連携は従来より確実に強化
- ・金沢大学附属図書館と県内公共図書館との相互利用件数(賃借の依頼・受付など)も年々増加

25

7-2. 一般市民の利用:非常に良好



(注)「一般利用者来館受付票」記入数

- ・一般市民の金沢大学附属図書館への入館及び資料の館内閲覧は図書館利用券の発行無しで可能
- ・来館者への資料の館外貸出については北陸3県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施
- ・一般市民の利用が定着

26

7-3. イベント等:非常に良好

- H24からECO学習コンクール開催
 ➡北陸情報通信協議会表彰受賞
- シンポジウムは一般市民対象に大学図書館らしいもの

7-4. 貴重図書資料の提供:概ね良好

- 貴重資料のメディアへの提供や展覧会等への貸出件数は確実に増加
- 資料館と協働で本学所蔵貴重資料の公開促進について検討することが必要

27

7-5. 環境への取組:非常に良好

- H24よりいしかわ事業者版環境ISO登録事業所として石川県の登録を受け、地球温暖化防止につながる活動を継続
 ➡H26 いしかわ事業者版ISO優良活動表彰
- 実務的な環境対策ばかりでなく、環境学コレクションの充実、いしかわ環境フェアへの出展、ECO学習コンクールの実施など、多角的視点から多方面にわたる環境保全活動を展開

○角間という場所からするとよくやっている

○6年間の意識的な努力の痕跡

28

総括

- 6年間の本附属図書館の活動全体としての評価は「概ね良好」
- 従来のあり方を維持しつつも、大学図書館の新しい方向性を明確に認識し、それに向けて努力してそれなりの成果を上げた6年間ではあったが、残された課題も少なくはない
- 残された課題
 - ➡意識改革などの自助努力
 - ➡継続的な働きかけ ➡H27に成果

29

5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足

平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会（平成 28 年 1 月 7 日開催）での委員からの意見及びその対応を以下のとおり記録する。

(1) [全体]: 自己評価の対象期間を 6 年間とした理由を記載した方が良い。

「国立大学法人金沢大学自己点検評価規程(平成 23 年 3 月 18 日規程第 1555 号)第 3 条」により定期的に実施したものである。加えて、今年度は第 2 期中期目標・中期計画の最終年度にあたるため、自己点検評価及び外部評価を行い、次年度以降の図書館の活動の指針とするものである。

(2) [経費]: 図書館システムのクラウド化(サーバをなくすことによるレンタル料の削減)について

図書館システムの次期更新時には、同一キャンパス内にある総合メディア基盤センター内の仮想サーバを利用する予定であり、レンタル料の削減を見込んでいる。

(3) [情報資源]: 狭隘化対策について: どのような対策を取っているか？

中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書（平成 24 年 3 月 12 日作成）で示された対応策のうち、書架の増設やそれに伴う資料の再配架、自然科学・技術・工学系図書や本学の前身校の一つである旧金沢工専図書の自然科学系図書館への移動などを行っている。今後も
①重複資料の除籍等による既存の蔵書の削減 ②電子的資料の導入による紙媒体資料の受入数の削減 ③書架の棚板の組み替え等による収蔵能力の増加 を念頭におき対応策について検討を行う。

(4) [情報資源]: カビ対策: どういう対策を取っているかも記載すべきである。

現時点では、図書館職員によるカビふき取り作業を行うほか、湿度管理の徹底のため機器調整を行っている。燻蒸の機会を増やすことも計画中である。

(5) [サービス]: 3 館の特性について明記したほうがよい。

各館の特性については、それぞれが所在するキャンパスに設置されている学域・研究域

の分野によるところが多いが、名称だけではわかりにくいいため、今後はその特性を明確にしていくことを検討する。

(6) [サービス]:(資料 8)でアンケートの実施方法についての記載や、調査票が必要

外部評価報告書作成にあたり追加した資料 22「利用者アンケート実施要領及び設問」を参照。

(7) [サービス]:アンケートの回答について 9 段階評価か 10 段階評価か、揃えるべき。

前回の自己点検評価報告書(平成 20 年度)作成の際、「LibQUAL」(米国 ARL(Association of Research Libraries)提供)により利用者アンケートを実施したが、海外の大学向けの仕様であったため、本学図書館にはそぐわない設問が多く、今回は使用しなかった。ただし、一部の設問については、回答を比較するために継続して設問とした。比較するための平均値を算出するために、9 段階評価の「LibQUAL」にあわせて、今回の点数評価を「満足:9 点」「やや満足:7 点」「普通:5 点」「やや不満:3 点」「不満:1 点」とした。

なお、本文 p. 46 中に「10 点満点」と記載しているが、正しくは「9 点満点」である。

(8) [サービス]:アンケートの中の「一人一人を大事に」という設問の意図について(「そもそも図書館は、一人一人に個別に対応する機関である必要があるのか」という疑問)

本学図書館の「基本理念と目標」において

“金沢大学憲章に謳われた「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学の理念を支え、「卓越した知の創造」と学生の「自学自習」を促進するために、学術情報資源の収集、整理、保存、発信に力を注ぐとともに、一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスを具体化する”

と掲げられており、利用者の多様な要求に応えるよう心がけている。

また、前回の LibQUAL の質問に含まれている設問であるため、比較するために今回も設問に含めた。

(9) [サービス]:アンケート調査において「ふつう」という回答については「好評価」からはずすべき。

今後のアンケート実施の際の留意点とする。

(10) [サービス]: 医学図書館で 24 時間開館を未実施な理由について

- ・資料の電子化が進んだ現在では、資料の閲覧に対するニーズが少ないとも考えられる。
- ・24 時間開館を実施する場合には、空調を稼働するなどの環境整備が必要になるが、少人数のために対応することが本当に必要か検討する必要がある。
- ・国家試験対策として、グループで討議しながら学修することのできるグループ学修室などを提供しているが、講義棟にも 24 時間利用可能な同様の小部屋があるため、医学類としては学修スペースを十分提供できている。

(11) [学修支援]: 図書館員が担当している授業の成果についても記載した方がよい。

長期的な成果をどのように把握するか、今後の検討課題としたい。

(12) [学修支援]: サイエンスカフェなど図書館主催イベント以外についても記載した方がよい。

イベント数が多くすべては記載できないが、主だったものについては記載するなど、統計や記録の方法も含め検討したい。

6. 評価・提言

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 森 仁志

1. 組織・管理・運営

附属図書館基本理念と目標に従って、組織の運営自体は順調に進んでいるように思われる。運営組織の構成は各大学によって独自の歴史と経緯が反映しているであろうから、簡単にはコメントしにくい。附属図書館職員の意見・要望よりも各部局教員の意見・要望に応えることは難しいであろうが、対応する姿勢は認められる。職員の人員削減は各大学で行われているが、図書館職員は事務職員とは違って、数だけではなく、本来、専門的知識を持ったライブラリアンであることが望まれる。そのためにも研修等で特に若い世代の能力向上を図る必要がある。この点に関しても企画されているようなので今後の発展を期待したい。

2. 経費

附属図書館には、附属図書館自体に資金を集める基本的な手段は少ない。附属図書館には、研究者のように研究のために科学研究費のような外部資金に申請する戦略がとりにくいということである。同窓会等からの寄付金には期待したいところであるが、毎年、恒常的に獲得することは難しいだろう。

また、大学運営経費の配分は基本的に大学執行部・学長の判断に依存することになる。従って附属図書館には、大学執行部に対して、理解を得られるように説明を尽くして要望する努力が求められる。経費に関しては 3. 施設・設備、4. 情報資源・資料と関わっているので以下に記す。

3. 施設・設備

施設・設備で大きく問題になるのは、空調費の節約と書庫・書架に関する経費の調達であろう。空調費を抑えるためには、老朽化した設備を消費電力が改善された設備に更新することが効果的である。実際に平成 27 年度に空調機が改修されたようなので経費の削減は期待できる。

照明費に関しても電力削減が期待できる LED に順次改修するべきであろう。4. にも関わりますが、平成 26 年度に資料にカビが発生したことは、保存状態の管理に問題があったかもしれないが、基本的に湿度の問題である。燻蒸して対応するだけでは本質的な改善にならない。空調設備の改善を図らなくてはならない。

ネットワークカメラの整備はセキュリティ対策としては重要である。自然科学系図書館のネットワークカメラが老朽化している点は問題であり、改善が必要である。

トイレが改修されたことは望ましい。この点は私立大学に比べて国立大学は改修が遅れがちである。これは単なる精神論ではない。学習環境として重要である。

書庫の狭隘化は設備に関わる各大学における重大な問題であり、4. や 5.、6. にも関わる問題である。

4. 情報資源・資料

この件に関して大きな問題は、書庫の狭隘化と電子ジャーナルである。書庫の狭隘化は主に人文系の問題であり、電子ジャーナルは主に理系の問題である。

書庫の狭隘化を解消するために東海北陸地区では共同書庫を設置するための予算を獲得すべく努力している。各大学が個別に書架の要求を行っても昨今の状況では採択されることは難しい。新しい書庫が設置されるまでの間は、可能な限り重複所蔵資料を除籍するしかない。この点に関しては適切に運用されており評価できる。各大学附属図書館とも、教育や研究基盤を充実させることを使命として、蔵書数を増やしてきたことを考えると、本末転倒のような気もするが、限られたスペースの中ではやむを得ない。将来的には電子書籍にシフトして行かざるを得ないと感じる。一方、東海北陸地区の共同書庫の概算要求が採択されても運用するための維持費・経費の問題は残されている。採択されることを前提として共同書庫の運用方法について、今から各大学間で協議することが必要である。

さらに当面解決しなくてはいけない課題として、医学部旧書庫の蔵書が、自然科学系図書館保存書庫に仮置きされている点が残っている。できるだけ早く対応すべきである。

電子ジャーナルは特に理系にとって学術基盤・インフラとして不可欠である。ましてや第三期中期計画における重点支援枠③を選択した大学として、大手出版社のパッケージ契約を維持し、学術基盤の充実を図ることは重要である。総合大学が研究成果を出すためには、購読希望数の多いタイトルだけを維持すればいいわけではなく、希望数が少ない研究分野も考慮する必要がある、悩ましい点である。適切な電子ジャーナルの選定方法を考える必要がある、期待したい。購入経費の配分も各大学の悩みである。各部局の要望に依存して分担を決める方式では破綻が起こる可能性は高い。電子ジャーナルの価格は高騰の一途をたどっており、問題が表面化する前に対応案を策定しておくべきである。

5. サービス

この件に関しては、空調と開館時間が挙げられる。中央図書館の空調に関しては平成 27 年度に改善されたが、トイレと同じでこの点は精神論ではすまない。自然科学系図書館は一部フロアが吹き抜けになっていた。デザインとしてはいいかもしれないが、空調効率はあまりよくないと推測できる。簡単に修繕できないが、少しでも改善できるならば検討することが望ましい。

開館時間に関しては、アンケートを見ると平日の早い開館、土曜日の開館時間の延長、日曜日・祝日の開館の要望が学生から出されている。人件費の問題もかかわってくるので安易に対応しにくい、図書館が学習環境の「場」とであるとすれば、可能な限り対応する努力が求められる。24 時間開館の要望は中央図書館、自然科学系図書館の利用者からもよく出される。しかし、空調経費は無視できず、セキュリティの面でも賛同できない。深夜図書館にいたことが、昼間の講義の理解にあまり効果的とは思えないので、安易に対応する必要はないと感じる。

医学図書館利用者からも開館時間を長くしてほしいとの要望がでている。医学部は、日中は必修講義が多く、勉学は夜にすることになるので、ある程度の延長は必要と思われる。開館時間と共に座席数、個室の要望も医師国家試験対策のための要望かもしれない。学生・利用者に対するサービスを考えれば、検討する必要性は高い。

6. 学修支援

学修支援の件に関しては図書館に設置されたラーニング・コモンズという「空間」・「場」で、図書館職員がどのような支援を行っているかという点が評価すべきことになる。情報リテラシー教育の講義や様々な講習会を開催している点は評価できるが、必ずしも参加する学生が多いとは言えない。どのような講習会を開催するか、学生が何を望んでいるかを把握することが課題であろう。

図書館は会話のない静かに勉学する場であったが、複数の学生が情報を共有し議論をして勉学を発展させる場であるラーニング・コモンズは、これまでの図書館のイメージを変えつつある。ラーニング・コモンズを有効に機能させるためには能動的学習・アクティブラーニングを、教員が積極的に授業に取り込み、学生に認識させることがひとつの方法と考えられる。アクティブラーニングの議論をすると図書館職員のエネルギーが伝わってくるが、最も重要な点は教員の理解・認識である。どのようにして多くの教員にラーニング・コモンズを利用したアクティブラーニングを伝えるか、その方法を検討する必要がある。

7. 地域連携・社会貢献

県内公共図書館との連携がうまく定着しており、一般市民の安定した利用が続いていることは評価できる。一方、所蔵貴重資料は地域の歴史的文化を反映するものであり、提供、貸出件数のさらなる増加が望まれる。貴重資料の電子化は進めたいが、前身校から引き継いだ蔵書の遡及入力についても進める必要はある。

8. 総合評価

総合的に判断すれば、概ね良好な状況であるといえる。どこの大学でも解決すべき課題を持っていない大学はない。根本的な問題は財源である。図書館の課題の解決に必要な財源を確保するためには有効な手段は少ない。附属図書館は大学教育の根幹を支える重要な

機関であることを、大学執行部に認めて頂くように根気強く説明するのが図書館の使命の一つであると考えます。一方、図書館職員は大学教育を支えているという自覚を持ち、専門職員としての誇りを持って業務に取り組んでいただきたい。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名：仙石正美

1. 組織・管理・運営

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 場所の離れた3館をとりまとめるご苦労は、よく理解できる。

2. 経費

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 国の交付金削減の傾向が続くと思われるが、資料費の確保は研究の生命線である。そのためにも、クラウド化など経費削減の工夫と研究支援補助の申請など収入増を図られたい。

なお、省エネをはじめとする環境分野の取り組みについては、研究機関である大学は一般社会の一步先を行く「先導者」の役割が期待されていると考える。照明のLED化に関しては、事業所等においても取り組みが進んでいることから、経費または施設・整備のいずれかに記載すべきではないか。

3. 施設・設備

(評価) 評語：ある程度良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 前回の点検評価結果を真摯に受け止め、トイレ改修をはじめ課題とされた施設改善に関して、年次計画で取組んだことを高く評価したい。

また、書架収容率を超えていることから、今後とも、解消に向けて検討を続けられたい。

4. 情報資源・資料

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 電子ジャーナルをはじめヴィジョンに沿って電子化を進めており適当と考える。こうしたなか、一部電子化されていないデータがあることから、鋭意入力作業を継続し検索性の向上に意を用いてほしい。

なお、電子化の進展については、6年前の点検評価時点では現在の状況を想定できておらず、6年スパンでの評価の難しさを感じる。今後、科学技術など進歩が著しい分野では、中間時点での評価などが必要かもしれない。

また、開架部分でのカビの発生は、いわば開かれた図書館の宿命でもあることから、今後の対策に力点を置き記載してもらいたい。

5. サービス

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 利用者アンケートについて実施手法などを記載した方がよい。

また、図書館概要を隔年から毎年に変更し、さらなる情報提供に努めていることは、図書館の取組姿勢として高く評価したい。

なお、医学部図書館の開館時間延長・24時間開館については、医師国家試験対策が主であれば、現行の医学部施設内での対応が適当ではないか。

6. 学修支援

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 留学生や1年次の学生など、まだ大学生活に馴染んでいない学生への支援が行き届いていると感じた。学修支援は、地道だが大学の底上げに繋がる取組みだと考えるので、今後とも続けてもらいたい。

7. 地域連携・社会貢献

(評価) 評語：非常に良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 平日は夜10時まで開館し仕事を持った市民にも開かれた図書館を実践し、市民の生涯学習に大きく貢献しており高く評価できる。

8. 総合評価

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 委員構成が学識・事務双方で構成されていること、また、WGとの二段階で点検評価を実施しており、前回よりも緻密になったと感じる。

また、規程等に基づき「6年」ごとに点検評価を実施しているとのことだが、学外に向けて6年とした理由を記載した方がよい。

最後に、本市においても、部局ごとに事務事業の点検評価を行い、一部で外部評価も実施しているものの、単年度主義に基づく前年比較が主である。6年という中期スパンで実績を評価し今後の方向性を見極めるなどしており、大変進んでいると感じる。今後とも、知の拠点として雄飛されるよう願う。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 山田政寛**1. 組織・管理・運営**

概ね良好と考える。将来構想、理念の公開は望ましいため、高評価であるが、学習支援を考える際、学務系との有機的連携が必要となる。この点については今後の検討材料であろう。

2. 経費

非常に良好と考える。電子ジャーナルの件は今後の課題も残しながらも、3 年間はパッケージを解約せずに使用するなど、大学の研究支援に貢献していると考ええる。

3. 施設・設備

概ね良好と考える。中央館の老朽化の問題はあるものの、国際化対応も積極的に動いていることは高い評価となる。しかし、どういうコンセプトのものなのか、具体的なスペースデザインがわからないので、今後の検討材料であろう。

4. 情報資源・資料

概ね良好と考える。電子ジャーナル以外にもリポジトリの充実化もなされている。今後の展開は不透明だが、東海・北陸地域で共同書庫を用意する構想などが展開していることは望ましい方向と言える。

5. サービス

非常に良好であると言える。研究活動のオープン化だけではなく、イベントの開催を積極的に行っている。今後は、図書館管轄外のイベントでも、図書館の実績となるため、カウントをすること、図書館と共催とすることも検討に入れると良いと思われる。また広報活動の評価を行い、図書館外の学生に対する広報チャネルを活用することが望まれるだろう。

6. 学修支援

概ね良好と言える。教員や大教センターと連携して、学習支援を行っていること、国際化対応など積極的な姿勢が伺える。しかし、広報活動が若干弱く、学習支援の利用者の伸びが弱いように思われる。来年度から新カリキュラムでの授業が始まることから、積極的に授業との連携が求められる。

7. 地域連携・社会貢献

非常に良好と思われる。ECO 学習コンクールのモデルになるなど、国立大学附属図書館と

して、十分に役割を果たしていると思われる。

8. 総合評価

概ね良好と思われる。

施設の老朽化、組織、広報について、多少の課題や今後の展開が不透明な点もあるが、国際化対応、デジタルリソースの充実化など、附属図書館の役割を十分に果たしていると考えられる。今後も、継続的に時代の変化を早く捉え、迅速な意思決定と行動で、国立大学附属図書館の中でもリーディングしていく立場となることを願っています。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 高島 学

1. 組織・管理・運営

「概ね良好」

「理念と目標(資料2)」「中長期ビジョン(資料3)」「短期アクションプラン(資料4)」が策定されている点が高く評価できます。また大学の目標である「YAMAZAKI プラン 2014(資料5)」に盛り込むことができています点も同様です。

評価期間の最後でのスーパーグローバル大学創成支援事業の推進と第3期中期目標・中期計画において金沢大学が、大学の将来ビジョンに基づく機能強化の推進の「重点支援③ 主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」としたことを考えると「理念と目標(資料2)」「中長期ビジョン(資料3)」「短期アクションプラン(資料4)」を改定する必要があります。

専門職員数が減っていることは、上記の大学の目標に対応することに支障をきたさないか懸念されます。人数に加えて職員の能力向上のための方策も検討してください。

2. 経費

「概ね良好」

電子ジャーナル経費について「選定基準(資料15)」を策定したこと、予算獲得の努力が行われていることは評価できるが上記の大学の目標を達成するための予算額には十分とはいえないのでさらに努力が必要です。

運営費交付金が削減されるなか、確実に予算を獲得している点は評価できます。

為替変動や新たな税負担により状況は悪化しているので、より丁寧な要望の収集と資料のパフォーマンス分析手法、よりコストパフォーマンスの良い資料入手方法の検討が必要です。分析には Web of Science、Scopus を利用した手法の開発が必要なのでは。

3. 施設・設備

「ある程度良好」

医学図書館は改修により解消しているが、他の館は経年による不具合があるので継続しての改善が必要となっています。

4. 情報資源・資料

「概ね良好である」

電子ジャーナル、データベース、学生資料については良いようですが、保存関係を改善する必要があるようです。施設の改修と共同保存書庫が有効だと思います。

リポジトリの活動は評価できます。目録情報の電子化はまだ残りがあるので資料の活用のために計画的に行う必要があるようです。

この期間ではあまり無かったのかもしれませんが、電子ブックの導入・分析も必要と思います。まだ良い導入のモデルがありませんが、電子ブックは狭隘化解消の一助になるかと思っています。

5. サービス

「概ね良好」

ラーニング・コモンズの整備が利用を増やしていますし、講習会等も多く開催している点が評価できます。

平成21年に自然科学系図書館の特別開館を中止していますが、影響の分析があるとより良かったです。省エネの必要性もあるので開館時間の適切な設定は大きな問題です。

アンケートの自由記述でサービスのばらつきについての言及が散見されます。このあたりのフォローアップが必要だと思います。要望はばらばらですので、大変ですが、ケースごとの対応が必要です。

6. 学修支援

「概ね良好」

いろいろな取り組みを行っているので評価できます。ラーニング・アドバイザーや図書館学生ボランティア制度は学生支援としても有用と思われるので関係部署との連携ができるとより良いのでは。

7. 地域連携・社会貢献

「非常に良好」

遠隔地である点などの条件下でよく連携・貢献できていますので、これを利用者サービスに結びつけることができるとさらに良いと思われます。所蔵貴重資料等を提供した成果を把握できると良いと思います。

8. 総合評価

「概ね良好」

いろいろな試みを行っていて評価できます。労力がかかりますが、その成果を把握してさらに効果的な試みにつなげることができると良いと思います。

大学がグローバルに向かうことへの対応をどのようにするかが大きな問題です。以前の図書館職員に求められなかった能力が求められます。職員の養成が大きな問題だと思います。

7. 平成27年度金沢大学附属図書館自己点検・外部評価実施要領

図書館委員会 平成27年8月25日承認

(目的)

- 1 この要領は、自己点検・評価の実施及びこれに基づく外部評価の受審により、第2期中期目標・中期計画期間中の金沢大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）の活動を点検・評価することによって、次期中期目標・中期計画期間中の附属図書館の活動の改善を図り、もって金沢大学のより良い情報環境の構築に資することを目的とする。

(WGの設置)

- 2 平成27年度附属図書館自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という。）の実施及び外部評価の受審のため、金沢大学図書館員会規程第7条に基づき、図書館委員会に附属図書館自己点検・評価ワーキンググループ（以下「WG」という。）を置く。

(WGの構成員)

- 3 WGの構成員は、別紙1のとおりとする。

(外部評価委員)

- 4 外部評価を実施する委員（以下「外部評価委員」という。）は、WGの推薦に基づき、図書館委員会の議を経て附属図書館長が委嘱する。

(評価対象期間)

- 5 自己点検・評価及び外部評価の対象期間は、平成20年度から平成26年度までとする。

(評価項目)

- 6 自己点検・評価の項目は、次のとおりとする。
 - (1) 組織・管理・運営
 - (2) 経費
 - (3) 施設・設備
 - (4) 情報資源・資料
 - (5) サービス
 - (6) 学修支援
 - (7) 地域連携・社会貢献

(自己点検・評価報告書)

- 7 図書館委員会は、平成27年11月までに自己点検・評価の結果を報告書(以下「自己点検・評価報告書」という。)に取りまとめるものとする。

(外部評価報告書)

- 8 外部評価委員は、自己点検・評価報告書に基づき評価を行い、その結果を外部評価報告書として取りまとめ、附属図書館長に提出するものとする。

(報告・公開)

- 9 附属図書館長は、外部評価の結果を図書館委員会に報告するとともに、自己点検・評価報告書及び外部評価報告書を附属図書館のウェブサイトで公開するものとする。

(スケジュール)

- 10 自己点検・評価及び外部評価の作業スケジュールは、別紙2のとおりとする。

(事務)

- 11 自己点検・評価及び外部評価に係る事務は、情報サービス課の協力を得て、情報企画課が行う。

(雑則)

- 12 この要領に定めるもののほか、自己点検・評価及び外部評価に関し、必要な事項は、附属図書館長が別に定める。

附 則

- 1 この要領は、平成27年8月25日から施行する。
- 2 平成27年度附属図書館自己点検・評価実施要領(平成26年12月26日図書館委員会承認)は、廃止する。

○金沢大学附属図書館規程

平成16年4月1日

規程第144号

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢大学学則第11条第3項の規定に基づき、金沢大学附属図書館(以下「図書館」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 図書館は、教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供することを目的とする。

(図書館資料)

第3条 前条の図書館資料は、次のとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 雑誌、新聞等逐次刊行物
- (3) 記録類
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他図書館資料として適当と認めるもの

(分館)

第4条 金沢大学学則第11条第2項の規定により附属図書館に置かれる分館は、医学系分館とする。

2 医学系分館は、医学図書館と称する。

(館長、副館長及び分館長)

第5条 図書館に館長及び副館長を、分館に分館長を置く。

2 副館長は、館長が選考する。

3 分館長の選考は、別に定める。

(職務)

第6条 館長は、館務を掌理する。

2 副館長は、図書館の館務につき館長を補佐し、館長に事故があるとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理し、又はその職務を行う。

3 分館長は、当該分館の館務を掌理する。

(図書館委員会)

第7条 図書館の運営に関する重要事項を審議するため、図書館委員会を置く。

2 図書館委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、図書館の運営及び業務に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書

平成 27 年 11 月

金沢大学附属図書館

はじめに

本報告書は、平成 21 (2009) 年度から平成 26 (2014) 年度までの 6 年間の金沢大学附属図書館の活動に対する、自己点検・自己評価の結果です。本附属図書館としては、平成 15 年度から 20 年度までの活動を対象とした前回に続く 2 度目の自己点検・評価であるとともに、今回初めて受けることとなる外部評価の前提となるものです。

前回の自己点検・評価の期間は、金沢大学にとって法人化(平成 16 年度)、3 学域・16 学類制への移行(平成 20 年度)という 2 つの大変革があった時期でした。附属図書館にとっては、第Ⅱ期角間移転事業の完成(平成 17 年度)に伴って自然科学系図書館がオープンし、3 館体制が確立された時期でした。しかし、それ以上に本附属図書館にとって重要だったのは、この時期に、全国的に情報の電子化が急速に進展し、その変化に伴って大学図書館機能の見直し・再構築が行われていたことだったように思います。本附属図書館でも、平成 15 年度から 20 年度までの 6 年間で電子ジャーナルのタイトル数が 351% も増え、平成 18 年には金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)が公開されるなど、前回の自己点検・評価は変化を確認し、次のあり方を展望するものになっていたように思われます。当時の柴田附属図書館長のあいさつ文に「自己点検・自己評価からあるべき図書館の姿を求めて」というサブタイトルがついていることが、そのことを如実に物語っています。そしてそこで想定されたあるべき姿は、あいさつ文のなかの『静謐空間』とは異なる発想の『勉強の場』が求められ」の一節に集約されていたように思います。

今回の 6 年間は、金沢大学全体としては、学域・学類制という大変革後の着実な発展期であると同時に、次への展開が模索されるという比較的平穏な時期でした。しかし、本附属図書館だけでみると、中央図書館におけるラーニング・コモンズの設置(平成 21 年度)に代表される、柴田前館長のことば通りの機能変化を経験するという激動の時期だったように思われます。こうした機能変化を受けて、今回の自己点検・評価では、新たに学修支援を独立した評価項目として設けました。この新機能は、平成 26 年度に就任した山崎光悦学長のもとで進められている金沢大学の新展開、とりわけ文部科学省のスーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業に採択されたことによる大変革のなかで、さらに充実させていくことが求められています。また、その他の機能についても、金沢大学の新展開のなかで多種多様な要望・要請が出されてきています。

それらに応えるためにも、本附属図書館の現状の正確な把握と課題の抽出・整理は大変重要な作業です。今回の自己点検・評価はそうした認識のもとに行われました。本報告書を読まれる方には、本報告書がそうした役割を目的通りに果たしているかどうか、厳しい目でチェックいただければ幸いです。

平成 27 年 11 月 20 日

附属図書館長 古 畑 徹

目次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・	1
目次	・ ・ ・ ・ ・	2
参考資料	・ ・ ・ ・ ・	4
金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書中の数値・データについて	・ ・ ・ ・ ・	4
自己点検・評価ワーキンググループ	・ ・ ・ ・ ・	5
評価報告		
0 総評	・ ・ ・ ・ ・	6
1 組織・管理・運営	・ ・ ・ ・ ・	10
1-1 将来構想・理念等		
1-2 運営組織		
1-3 事務組織と職員		
1-4 図書館業務用システム等		
2 経費	・ ・ ・ ・ ・	16
3 施設・設備	・ ・ ・ ・ ・	21
3-1 施設		
3-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等		
4 情報資源・資料	・ ・ ・ ・ ・	28
4-1 資料の収集方針と保存		
4-2 図書の整備		
4-3 雑誌(紙媒体)の整備		
4-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備		
4-5 金沢大学学術情報リポジトリ (KURA)		
4-6 目録情報の電子化		
4-7 コンテンツの電子化		
4-8 各種コレクションの整備		
5 サービス	・ ・ ・ ・ ・	39
5-1 開館日・開館時間		
5-2 来館利用及び貸出冊数		
5-3 図書館職員が行う利用者サービスの質		
5-4 ILL(他大学等図書貸借及び文献複写)		
5-5 イベント		
5-6 広報		
5-7 利用者満足度		

6	学修支援	・ ・ ・ ・ ・	48
6-1	情報リテラシー教育		
6-2	学修支援制度		
6-3	学修環境		
6-4	学生との協働		
6-5	関連イベント		
7	地域連携・社会貢献	・ ・ ・ ・ ・	55
7-1	県内公共図書館等との連携		
7-2	一般市民の利用		
7-3	イベント等		
7-4	所蔵貴重資料の提供		
7-5	環境への取り組み		

参考資料

- (資料 1) 平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書
- (資料 2) 金沢大学附属図書館基本理念と目標(平成 21 年度作成)
- (資料 3) 金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン(平成 25 年度作成)
- (資料 4) 金沢大学附属図書館短期アクションプラン(平成 25 年度作成)
- (資料 5) YAMAZAKI プラン 2014(抜粋)
- (資料 6) 金沢大学附属図書館規程
- (資料 7) 金沢大学図書館委員会規程
- (資料 8) 利用者アンケート(平成 26 年度 2 月実施)調査概要及び分析結果
- (資料 9) 利用者アンケート(平成 26 年度 2 月実施)で出された自由意見
- (資料 10) 金沢大学附属図書館資料整備要項
- (資料 11) 金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針
- (資料 12) 金沢大学附属図書館受入資料取扱基準
- (資料 13) 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項
- (資料 14) 中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書(平成 24 年 3 月 12 日、図書館委員会承認)
- (資料 15) 第 2 期中期目標・中期計画期間中における電子ジャーナル及びデータベースの利用実績及び選定基準についての評価(平成 26 年 3 月 13 日、図書館委員会承認)
- (資料 16) 柴田正良「自然科学系図書館の特別開館(24 時間利用)の中止について(持続可能な「自学自習」の確立に向けて)」こだま 167 号、2009
- (資料 17) 附属図書館関係各種統計(経年変化)
- (資料 18) 金沢大学附属図書館医学系分館将来構想計画:医学系分館将来構想検討ワーキンググループ報告書(平成 22 年 5 月)
- (資料 19) 金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項
- (資料 20) 附属図書館の活動(平成 20~26 年度)
- (資料 21) 附属図書館関係各種統計(文部科学省学術情報基盤実態調査による他大学との比較)

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書中の数値・データについて

- ・経年変化を比較する事項については、原則として平成 19~26 年度の数値・データを使用した。
- ・他機関等との比較については平成 25 年度の数値・データを使用した。
- ・ただし、平成 27 年 10 月までに改善等の動きがあった項目については、注記として付記した。

自己点検・評価ワーキンググループ

(座長)

古畑 徹 附属図書館長

(委員)

伊藤 秀一 附属図書館副館長・理工研究域数物科学系教授
 尾崎 紀之 医学図書館長・医薬保健研究域医学系教授
 齊藤 高広 図書館委員・人間社会研究域法学系教授
 三木 理 図書館委員・理工研究域サステナブルエネルギー研究センター 教授
 宮地 利明 図書館委員・医薬保健研究域保健学系 教授
 濱 富美夫 図書館委員・情報部長 (平成 26 年度)
 清水 健 図書館委員・情報企画課長 (平成 26 年度)
 村田 勝俊 図書館委員・情報サービス課長 (平成 26 年度)
 上地 進 図書館委員・情報部長 (平成 27 年度)
 土田 浩 図書館委員・情報企画課長 (平成 27 年度)
 橋 洋平 図書館委員・情報サービス課長 (平成 27 年度)

(活動記録)

- ・平成 26 年 12 月 16 日 平成 26 年度第 2 回図書館委員会
(平成 26 年度附属図書館自己点検・評価実施要領、ワーキンググループの設置、スケジュールの承認)
- ・平成 27 年 1 月 8 日 第 1 回ワーキンググループ開催
(利用者アンケートの検討)
- ・平成 26 年 12 月 評価用データの収集
 ～平成 27 年 3 月
- ・平成 27 年 1 月～2 月 利用者アンケート調査
- ・平成 27 年 2 月～7 月 評価用資料とりまとめ
- ・平成 27 年 7 月 30 日 第 2 回 (平成 27 年度第 1 回) ワーキンググループ開催
(平成 27 年度附属図書館自己点検・評価実施要領、スケジュールの確認)
- ・平成 27 年 8～10 月 評価用資料による評価の実施
- ・平成 27 年 10～11 月 評価シートとりまとめ、報告書案作成
- ・平成 27 年 11 月 25 日 第 3 回 (平成 27 年度第 2 回) ワーキンググループ開催
(報告書案の検討)
- ・平成 27 年 11 月 26 日 平成 27 年度第 3 回図書館委員会へ報告書案提出

0. 総評

総評を述べる前に、本自己点検・評価報告書の構成・評語について、少しく述べておく必要がある。

本報告書の章・節は、それぞれ「評価項目」・「評価の観点」を示し、観点ごとに4段階の評語で評価を行った。各評語の意味するところは前回の自己点検・評価と同じで、次のとおりである。

非常に良好である・・・十分な活動がなされている

概ね良好である・・・改善の余地がある

ある程度良好である・・・改善の必要がある

不十分である・・・大幅な改善が必要である

前回は、各委員が評価資料をもとに評価シートに自分の評価を記入し、それらを集計する形で評価が行われた。今回は、各委員が評価項目・評価の観点を分担して、評価資料をもとに評価シートに評語と分析を記入してそれぞれの素案を作成し、これをまとめたものを自己点検・評価ワーキンググループの座長である館長ほかで点検して原案を作成、さらにこれを自己点検・評価ワーキンググループ全体で確認して評価を確定させた。そのため、前回の自己点検・評価報告書とはかなり体裁に違いがあることを、あらかじめご了解願いたい。

さて、報告書の本文では、評価の観点ごとに評語が付けられているが、評価項目自体の評語はない。その部分についてはこの総評で行うこととし、まずは評価項目ごとの評価を行ったうえで、全体についての評価を行うこととしたい。

評価項目ごとの評価を行うに当たって、各評価項目における評価の観点の評語を点数化して、集計しておきたい。「非常に良好である」を4点、「概ね良好である」を3点、「ある程度良好である」を2点、「不十分である」を1点として集計する。

評価項目 \ 観点	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
1. 組織・管理・運営	4	3	3	3	—	—	—	—	3.25
2. 経費	3	—	—	—	—	—	—	—	3.00
3. 施設・設備	2	3	—	—	—	—	—	—	2.50
4. 情報資源・資料	2	3	4	3	3	2	2	3	2.75
5. サービス	2	4	3	3	4	3	3	—	3.14
6. 学修支援	3	3	3	2	3	—	—	—	2.80
7. 地域連携・社会貢献	4	4	4	3	4	—	—	—	3.80

評価項目1：組織・管理・運営 評語：概ね良好である（4 観点の平均値＝3.25）

「将来構想・理念」の観点については、明確に定めて公表していることから「非常に良好」が付いたが、「運営組織」「事務職員と組織」「図書館業務用システム等」についてはそれぞれに課題が挙げられており、そのためにそれぞれ「概ね良好」となった。総体的に見て、この項目の事項はスムーズに動いているとあってよく、課題を解決すべき方向性も明確なので、点数の平均値どおり、「概ね良好」の評語を充てることとした。

なお、前回の自己点検・評価では8名の自己点検評価委員がすべて「概ね良好」の評価を付けており、この6年間、そのレベルは維持できたといえることができる。

評価項目2：経費 評語：概ね良好である

経費は1 観点のみなので、それを転載した。現時点では「概ね良好」ではあるが、今後については楽観できない状況にある。

なお、前回の自己点検・評価では、「予算・経費」という項目名になっており、「予算」と「経費」に分けた叙述がなされていた。今回はこれを強いて分けずに「経費」に一本化しており、表などに相違はあるが、同じ内容についての評価項目とみてよい。前回の評価は、1 名が「非常に良好」、4 名が「概ね良好」、3 名が「ある程度良好」で、平均点にすると2.75 点であった。評語的にはほぼ横ばいだが、必要な予算が一応確保できていることもあり、前回よりやや改善している感がある。

評価項目3：施設・設備 評語：ある程度良好である（2 観点の平均値＝2.50）

「情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等」に関しては、課題はあるものの「概ね良好」の評価とした。「施設」については各館それぞれに課題を抱え、その課題に対する対応の目途が立っていないことから「ある程度良好」の評価とした。総合的に見ると、やはり「施設」の抱える問題は大きく、2.50 という平均点ではあるが、「ある程度良好」という評価を下さざるを得ないであろう。

なお、前回の自己点検・評価では、2 名が「概ね良好」、5 名が「ある程度良好」、1 名が「不十分」で、平均は2.125 点、今回と同じ「ある程度良好」という評語に該当する。しかし、前回の自己評価では他の同規模大学と比較して極度に見劣りするとされた医学図書館の増改築が行われたことで、前回より状況は明確に好転している。

評価項目4：情報資源・資料 評語：概ね良好である（8 観点の平均値＝2.75）

8 つの観点のうち、「雑誌の整備」は「非常に良好」、「図書の整備」「電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備」「金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）」「各種コレクションの整備」の4 観点は「概ね良好」、「資料の収集方針と保存」「目録情報の電子化」「コンテンツの電子化」の3 観点は「ある程度良好」であった。平均値は2.75 となり、全体としては「概ね良好」ではあるが、保存管理上の問題、遡及入力、電子図書の整備などで大き

な課題が存在している。

なお、前回の自己点検・評価では、8名全員が「概ね良好」であった。この時点では、「雑誌・電子ジャーナル及び二次資料データベース」「目録情報とコンテンツの電子化」などのように今回2観点となったものが1つで扱われているなど観点が5つしかなく、まだ図書館資料の電子化が進展する途上であり、そこではあまり大きな問題は出ていなかった。その後の6年間で電子化は大きく進展し、そのなかで上記のような十分に対応できない部分が出てきたものと理解される。

評価項目5：サービス 評語：概ね良好（7観点の平均値＝3.14）

7つの観点のうち、「来館利用及び貸出冊数」「イベント」の2観点は「非常に良好」、「図書館職員が行う利用者サービスの質」「ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）」「広報」「利用者満足度」の4観点は「概ね良好」、「開館日・開館時間」は「ある程度良好」であった。平均値は3.14となり、全体としては「概ね良好」である。大きな課題としては、医学図書館の開館時間の再検討が挙げられる。

なお、前回の自己点検・評価では、6名が「概ね良好」、2名が「ある程度良好」で、全体的には「概ね良好」だが、ある程度の課題はあるという結果であった。ただし、前回は学修支援の観点もサービスの項目に含めて評価をしており、単純には比較できない。

評価項目6：学修支援 評語：概ね良好（5観点の平均値＝2.80）

5つの観点のうち、「情報リテラシー教育」「学修支援制度」「学修環境」「関連イベント」の4観点は「概ね良好」だが、「学生との協働」はボランティア学生の確保や活動の認知度などに課題が残るとして、「ある程度良好」となった。そのため平均値は2.80ではあるが、学修支援の中核となる観点には大きな課題はないので、「概ね良好」という評語を充ててよいものと考ええる。

この項目は前回の自己点検・評価にはなく、大学図書館におけるこの6年間の新たな展開を象徴するものである。それだけに本附属図書館としても力を入れてきたものではあるが、予算の問題や職員の能力・意識の問題などがあって、その必要性の高まりに十分に追いつけなかったところがあって、全体も個々の観点も「非常に良好」という評価にまでは至らなかった。

評価項目7：地域連携・社会貢献 評語：非常に良好（5観点の平均値＝3.80）

5つの観点のうち、「所蔵貴重資料の提供」が「概ね良好」である以外、「県内公共図書館等との連携」「一般市民の利用」「イベント等」「環境への取り組み」の4項目はすべて「非常に良好」であった。平均点は3.80で、全体としては「非常に良好」の評点となるが、それぞれの観点にかかる統計データはけっして大きな数値とはいえない。ただ、角間という市街地から離れて市民とのつながりがむずかしい場所にある大学図書館としては、十分に

上の地域連携・社会貢献をしているものとして、この評価を下したものである。

なお、前回の自己点検・評価では、5人が「概ね良好」、1人が「ある程度良好」、1人が「不十分」、1人が「未回答」であった。前回の統計データを見ると、ほとんど見るべきものではなく、今の基準で見れば「不十分」という評価が下されても不思議はない。「概ね良好」という評価があったというのは、大学図書館における地域連携・社会貢献の必要性があまり認識されていなかったために、当時の数少ない状況でもそれなりの評価を下す委員が多かったからであろう。それと比べると数値的に大きな伸びが見られ、この6年間で本附属図書館が意識的に努力してきた痕跡をはっきり見えることから、「非常に良好」の評価とした側面もある。

以上、個別の評価項目ごとの評価を見てきたが、それらを総合すると、この6年間の本附属図書館の活動全体としての評価は「概ね良好」とみなしてよいものと思われる。簡単な総括のしかたをすれば、従来のあり方を維持しつつも、大学図書館の新しい方向性を明確に認識し、それに向けて努力してそれなりの成果を上げた6年間ではあったが、残された課題も少なくはないというところであろう。

その残された課題の一部は、本附属図書館職員の意識改革によって好転が期待されるものなので、今まで以上に研修をはじめとする自助努力に努めるべきであろう。また一部は、文部科学省における金沢大学全体の評価や大学全体のなかにおける附属図書館の位置付けなどとも関わるため、本附属図書館の自助努力だけでは解決のむずかしい部分ではあるが、まずは課題を認識して各方面に働きかけていくことが重要といえよう。

そうした働きかけの成果が、本自己点検・評価期間後の今年度（平成27年度）になって現れてきているので、それを最後に付記する。

まず、老朽化していた中央図書館の室内空調設備の改修が認められ、改修後には課題のいくつかが解消できる見込みが付いた。また、トイレの改修も平成27年3月及び9月に行われ、トイレの老朽化問題は一応解消した。さらに、医学図書館3階集密書架の設置及びラーニング・コモンズのスペースの拡大についても、平成27年度国立大学改革基盤強化促進費（国立大学法人施設整備補助金）で整備されることが決まり、この課題もほぼ解消できる見込みが付いた。こうした設備関係以外でも、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択された本学の事業計画の一環として、留学生を対象とした新たな学修支援制度（留学生ラーニング・コンシェルジュ制度）が今年度からスタートしており、学修支援方面もさらに充実した状況になっている。

1 組織・管理・運営

1-1 将来構想・理念等

【状況】

- 附属図書館の将来構想・理念等の策定が、「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で課題として挙げられた(資料 1 p. 10)。それを受け、平成 21 年度に「金沢大学附属図書館基本理念と目標」、平成 25 年度に「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」を策定した(資料 2、資料 3、資料 4)。
- 平成 26 年度に作成された「YAMAZAKI プラン 2014」(資料 5)の附属図書館の課題についても、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」、平成 25 年度に「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」と連動する形で策定されている。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

附属図書館の将来構想・理念等については、「金沢大学附属図書館の基本理念と目標(平成 21 年 12 月 8 日)」、「金沢大学附属図書館長期ビジョン(平成 25 年 11 月 29 日)」及び「金沢大学附属図書館短期アクションプラン(平成 25 年 11 月 29 日)」を策定し、これらに明確に定め公表している。

また、これらを「YAMAZAKI プラン 2014」では、「教育研究活動支援機能の強化」としてビジョンに掲げ、適切に運営している。

1-2 運営組織

【状況】

- 「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降、実質的な運営組織上の大きな変更はない(図 1-1)。
- 中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館(保健学類図書室を含む。以下同じ。)の 3 館体制で運営している。
- 附属図書館には館長及び副館長が、医学図書館には分館長として医学図書館長が置かれている(金沢大学附属図書館規程・資料 6)。
- 附属図書館の運営に関する重要事項を審議するため、図書館委員会を設置している。
- 医学図書館は、医学図書館運営部会により運営されている。

- 「図書館委員会の下に作業部会等を置くことができる」とされており（金沢大学図書館委員会規程・資料7）、表1-1のとおり年度毎に必要な部会等を設置している。

図1-1 運営組織図（平成26年5月1日現在）（「図書館概要2014」を基に作成）

■運営組織図

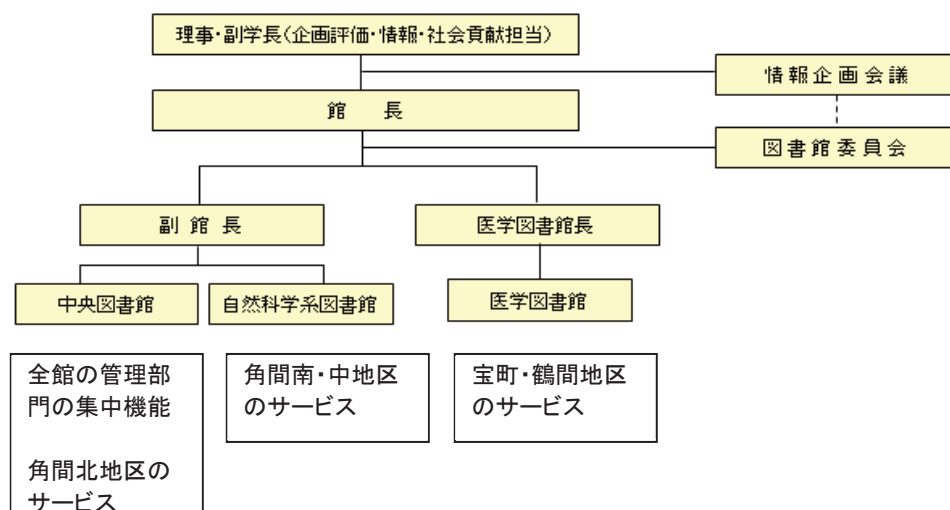


表1-1 図書館委員会の下に設置された作業部会等

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
学生用図書選定部会	●	●	●	●	●	●	●
学術情報基盤整備 WG	●	●	●	●	●	●	●
自然科学系図書館引用 WG	●						
附属図書館自己点検・評価 WG	●						●
医学系分館将来構想検討 WG		●					
環境学コレクション整備 WG			●	●	●	●	●
ラーニング・コモンズ運営部会			●	●	●	●	●

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

中央図書館、自然科学系図書館及び医学図書館の3館が、学生・教職員が利用しやすいようそれぞれの分野に合ったサービスを提供している。

附属図書館の運営については、全学組織の図書館委員会で重要事項を審議し、必要に応じて部会、WGを設置し、機動的かつ効率的に運営しているほか、医学図書館では、医学図書館運営部会を設置してサービス対象部局の特色を加味した運営を行うなど、利用者の目線に立った柔軟な運営を行っている。

しかし、附属図書館長が3館の館務を掌理し、医学図書館長が医学図書館の館務を掌理する規程となっており、ガバナンスの観点から一考を要する。

1-3 事務組織と職員

【状況】

- 事務組織は情報部に属し、情報企画課の一部と情報サービス課全体が図書館業務を所掌している。
- 事務組織は、「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降、以下のとおり変遷し、平成26年5月1日現在は図1-2のとおりになっている。
 - H20.4 学域学類制発足に伴い、医学部分館係を医学系分館係に名称を変更
社会貢献室を情報企画課から総務部へ移行
 - H23.4 情報企画課を総務係、情報企画係、コンテンツ第一係、コンテンツ第二係の4係から、総務係、図書情報係、雑誌・電子情報係の3係に再編。それまで情報企画係が行っていた業務のうち主なものは、リポジトリに関する業務は雑誌・電子情報係、リテラシー教育に関する業務は情報サービス課中央図書館係、その他、キャンパスインテリジェント関係の業務は情報化推進室に振り分けられた。
 - H26.4 医学系分館係を医学図書館係に名称を変更
- 平成26年度5月1日現在の附属図書館の職員の現員数は、合計44名（うち非常勤職16、派遣職員4、時間外開館担当業務要員を除く。）で、職員一人あたりの学生数は、302.3人で、時間外担当業務要員29名を加算した場合は182.2人である。「平成26年度文部科学省大学情報基盤実態調査」によると、国立大学平均では166.2人であり、それぞれ、1.81倍、1.09倍となる。（文部科学省大学情報基盤実態調査の職員数には、時間外担当業務要員を含む大学と含まない大学がある。）
- 職員の構成及び職員数の推移は表1-2のとおりである。
- 中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館の3館体制により、図書、雑誌、電子ジャーナルの選定、契約、受入、目録作成に関する業務がほぼ一元化された一方、資料形態の多様化（冊子、電子資料）や、研究経費の多様化による各部局への確認作業や個別契約の必要性が生じたことにより、各係、特に図書情報係において業務量が増大している。
- 国立大学図書館協会の活動への参加、各種講習会への講師派遣など、館外の図書館活動にも貢献している。
- 「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」では、職員の育成について、「大学職員としてより広い視野を持った職員の確保や、育成体制の確立」を課題として掲げ（資料1 p.13）、「金沢大学附属図書館長期ビジョン」等に「新

- たな任務を積極的に果たす」という目標が記載された。
- 大学間連携共同教育推進事業「図書館機能強化プログラム」の一環として、職員の情報リテラシー教育の実施及び企画に関する能力の向上を図るため、研修等を企画した（「6-5 (p. 54)」参照）。
 - 図書系以外の職員が配置されるようになり、大学職員としてより広い視野を持った職員が確保されている。

図 1-2 事務組織図（平成 26 年 5 月 1 日現在）

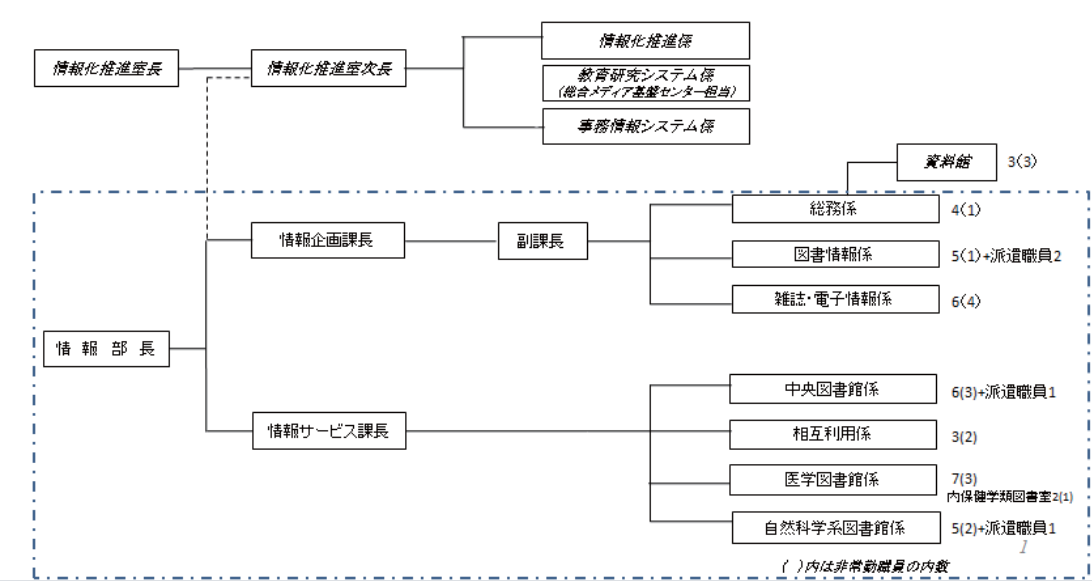


表 1-2 職員数の推移（「図書館概要」及び平成 27 年 7 月調べ）

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
職員総数	専任	27	27	27	27	26	26	24	24
	臨時	16	18	16	16	17	17	18	16
	派遣	0	0	0	0	0	0	2	4
	計	43	45	43	43	43	43	44	44

【上記表の内訳】

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
管理職		5	5	5	4	4	3	5	4
一般(庶務・会計)	専任	3	3	3	3	3	3	3	3
	臨時	1	1	0	0	1	1	1	1
	計	4	4	3	3	4	4	4	4
専門(図書館業務)	専任	19	19	19	20	19	20	16	17
	臨時	15	17	16	16	16	16	17	15
	計	34	36	35	36	35	36	33	32
派遣		0	0	0	0	0	0	2	4
合計		43	45	43	43	43	43	44	44

【うち司書数】

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
司書	専任	19	19	18	17	16	18	16	16
	臨時	12	12	11	12	12	11	10	8
	派遣	0	0	0	0	0	0	0	2
	計	31	31	29	29	28	29	26	26

(外教)時間外学生アルバイト	18	18	21	22	22	24	26	29
----------------	----	----	----	----	----	----	----	----

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

事務組織は、従来の附属図書館を単位とした組織から、事務局 10 部の一部署である情報部が附属図書館を所掌しており、附属図書館の業務だけではなく、資料館、情報化推進室の業務も担う幅広い組織となっている。

附属図書館の職員数としては、従来からの人員数を維持している。司書資格を有する職員の定年退職後の後任補充の一部を一般職員で行うほか、図書館職員に一般事務部門を経験させることによる組織の活性化を図るなどの工夫を行っているが、職員の欠員による派遣職員の代替も生じており、改善を要する面がある。

物理的に離れた場所にある 3 館のサービスに係る業務に関する問題点を情報サービス課でまとめ、日常業務を行うほか、平準化が可能な業務の整理を行うなど業務の省力化に努めている。各館間での人事異動を定期的に行い、定例の打合せも行い、意思の疎通は十分に図られている。

1-4 図書館業務用システム等

【状況】

- 図書館業務用に活用しているシステム等については、表 1-3 のとおり更新した。
- 図書館システム（図書の購入、文献複写・相互貸借）に関しては、教職員の発注依頼データ入力段階での予算執行支援システムとの連携がなされておらず、システム的に部局経理責任者の事前承認を得ることができていない。

表 1-3 図書館業務用システム等の更新状況

H21. 4	図書館業務システムの利用者データをアカンサス・ポータルと連携（注 1）
H24. 3	図書館業務用ソフトウェア NALIS を更新。OPAC に統合検索機能を追加し OPAC plus とする。（注 2）
H24. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリの運用を開始
H25. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリを金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに統合（注 3）

（注 1）図書館システムと本学の教職員・学生用ポータルサービスであるアカンサス・ポータルとの連携が実現し、図書館の利用者データの登録作業が不要になった。

（注 2）平成 24 年 3 月のシステム更新により、OPAC に統合検索機能が追加され、本学で所蔵する蔵書、大学で契約している電子ジャーナルのタイトル及び機関リポジトリのコンテンツを一括検索できるようになった（OPAC plus）。ただし、こ

の統合検索機能については、全国の他大学で導入が進みつつあるディスカバリーサービス(図書館が提供する様々なリソースを同一のインターフェイスで検索できるサービス)で可能な、電子ジャーナルの論文単位までを含む高度な統合検索までは実現していない。

(注3) 平成24年度に附属図書館で所蔵する貴重資料等を電子化し、一般公開するため「金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリ」の運用を開始した。平成25年度からは、資料館で運用している「金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム」との統合を行った。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

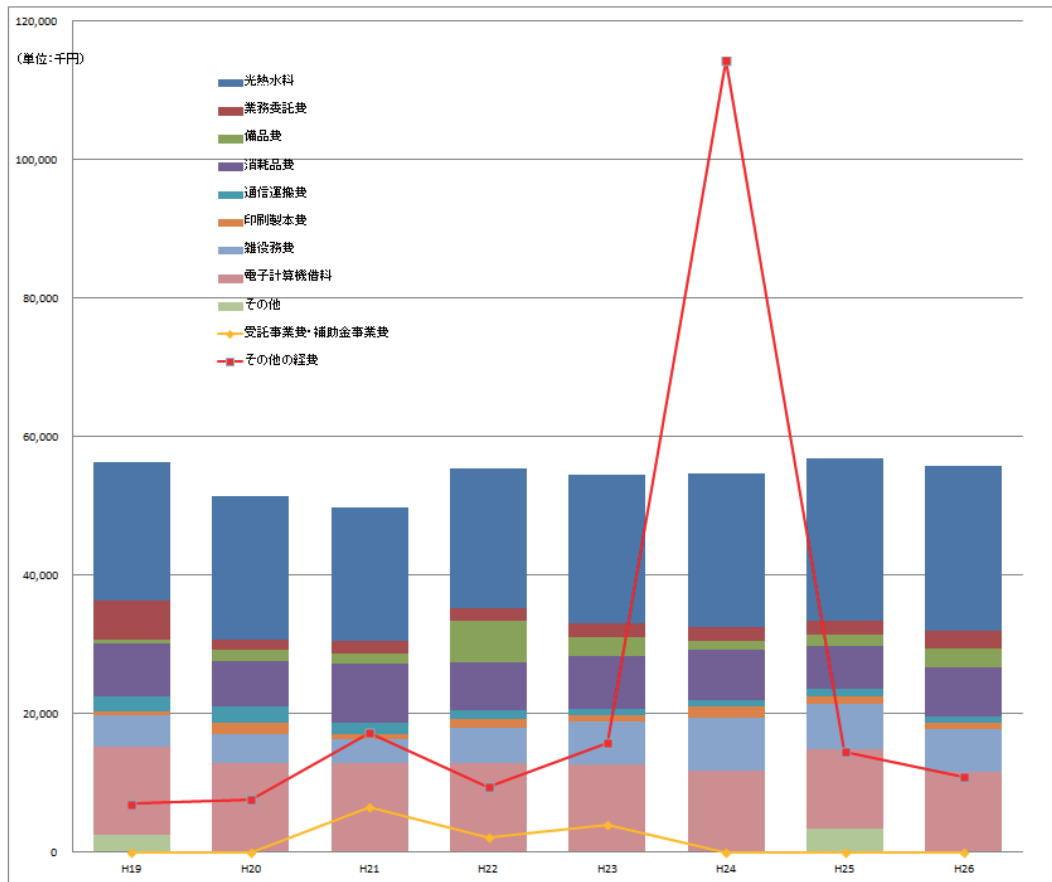
金沢大学附属図書館蔵書検索システム(OPAC plus)については、平成23年度末の更新により、所蔵する蔵書、電子ジャーナルのタイトル及び機関リポジトリのコンテンツを一括検索できるようになったが、電子ジャーナルの論文単位までを含む統合検索まではできない状況である。図書館業務システム導入時から、契約、受入、目録作成等の一連の業務はシステム化しているが、予算執行支援システムなど業務に直接関連する学内システムとの連携が不十分であり、改善する余地がある。

2 経費

【状況】

- 図書館運営費の推移は図 2-1、2-2 のとおりである。
 - ・その他の経費の主なものは、大学から配当される戦略経費、設備充実費、移転費、建物新営設備費、キャンパスインテリジェント経費及び寄附金経費がある。
 - ・平成 21 年度に、中央図書館にラーニング・コモンズ整備費用として約 15,500 千円が配当された。
 - ・平成 23 年度に、医学図書館の仮図書室への移転費用として 10,000 千円が、配当された。
 - ・平成 24 年度に、医学図書館増改築に係わる経費として、移転費約 6,700 千円、建物新営設備費約 78,900 千円の配当があり、また、十全同窓会から約 22,500 千円の寄付があった。
 - ・平成 25 年度に、医学図書館増改築に係わる経費として、十全同窓会から約 4,200 千円の寄付があった。
- 本学の資料費（図書館で契約している資料）の推移は図 2-3 のとおりである。
 - ・平成 23 年度は、特別整備事業「電子ジャーナルの拡充」の要求に対して、約 115,600 千円が、科学研究費間接経費で配分された。
- 図書館に配当されている資料費の推移は図 2-4 のとおりである。
- 資料費のうち、特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移は図 2-5 のとおりである。

図 2-1 図書館運営費の推移 (「図書館委員会決算資料」)

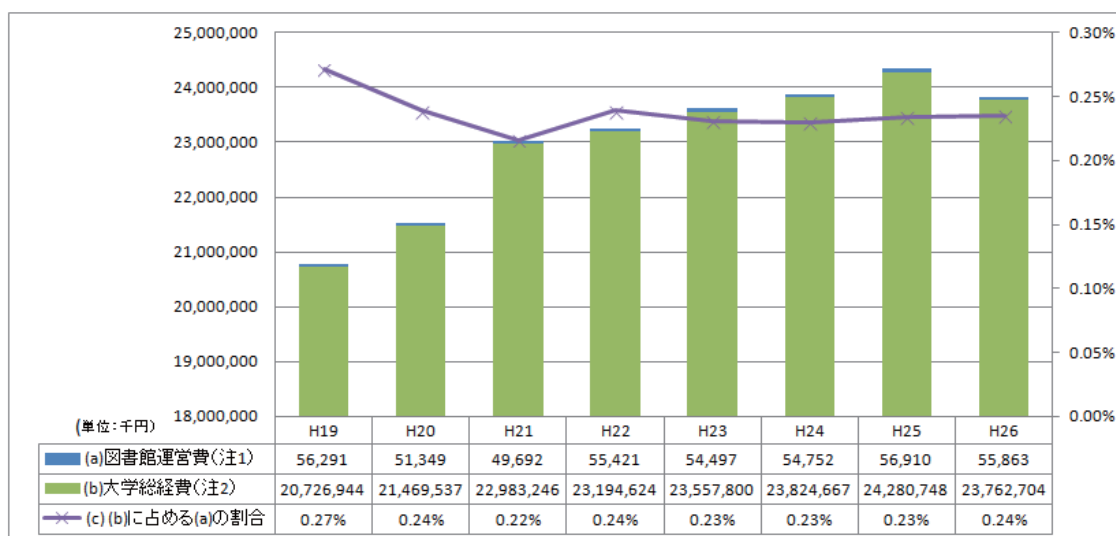


(単位:千円)

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
運 営 費	光熱水料	19,977	20,562	19,199	20,189	21,522	22,211	23,401	23,868
	業務委託費	5,584	1,586	1,821	1,802	1,953	1,994	2,109	2,654
	備品費	551	1,565	1,462	5,910	2,635	1,350	1,637	2,653
	消耗品費	7,687	6,534	8,542	7,039	7,623	7,154	6,091	7,010
	通信運搬費	2,107	2,306	1,623	1,257	997	995	1,150	1,056
	印刷製本費	642	1,676	663	1,200	919	1,681	1,032	798
	雑役務費	4,486	4,184	3,516	5,188	6,103	7,628	6,545	6,117
	電子計算機借料	12,677	12,677	12,677	12,677	12,586	11,587	11,587	11,587
	その他	2,580	259	189	159	159	152	3,358	120
	運営費小計	56,291	51,349	49,692	55,421	54,497	54,752	56,910	55,863
	受託事業費・補助金事業費	0	0	6,500	2,208	4,000	80	0	0
	その他の経費	7,000	7,656	17,345	9,448	15,797	114,269	14,580	10,944
	総計	63,291	59,005	73,537	67,077	74,294	169,101	71,490	66,807

(注) 医学図書館の光熱水料を除く。

図 2-2 図書館運営費と大学経費の推移 (「図書館概要」及び「大学財務諸表」)



(注 1) 特別管理経費及び図書館事業費

(注 2) 財務諸表「損益計算書」の経常費用から人件費、受託研究費及び受託事業費を引いたもの

図 2-3 全学の資料費(図書館執行分)の推移 (「図書館概要」)

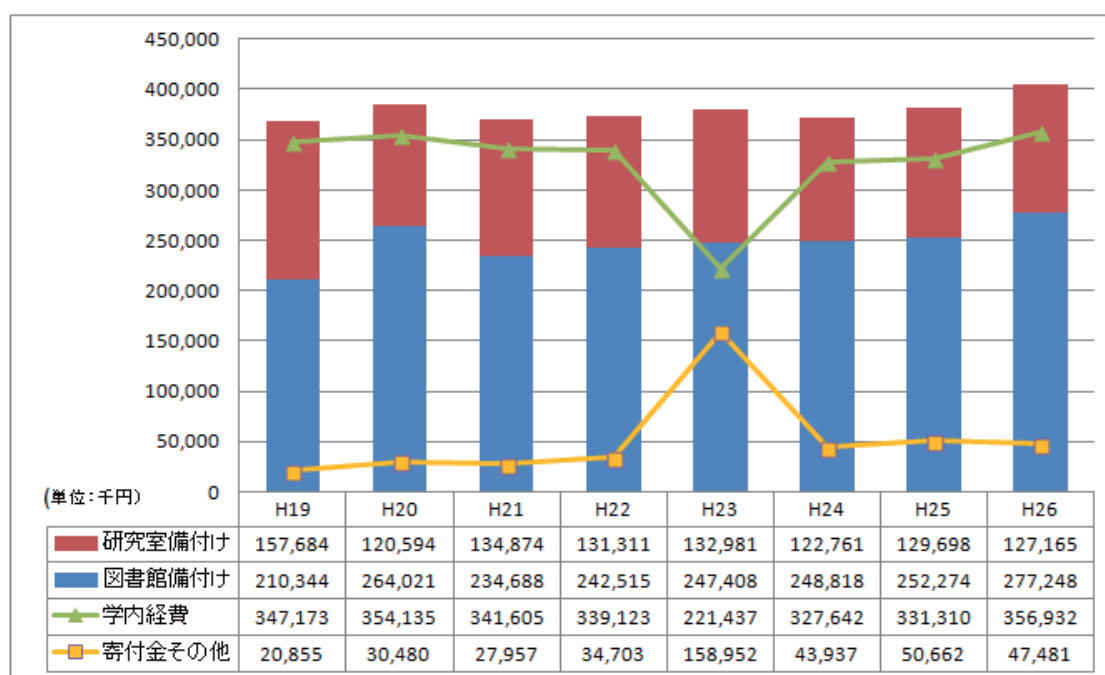


図 2-4 図書館配当図書費の推移 (「図書館委員会決算資料」)

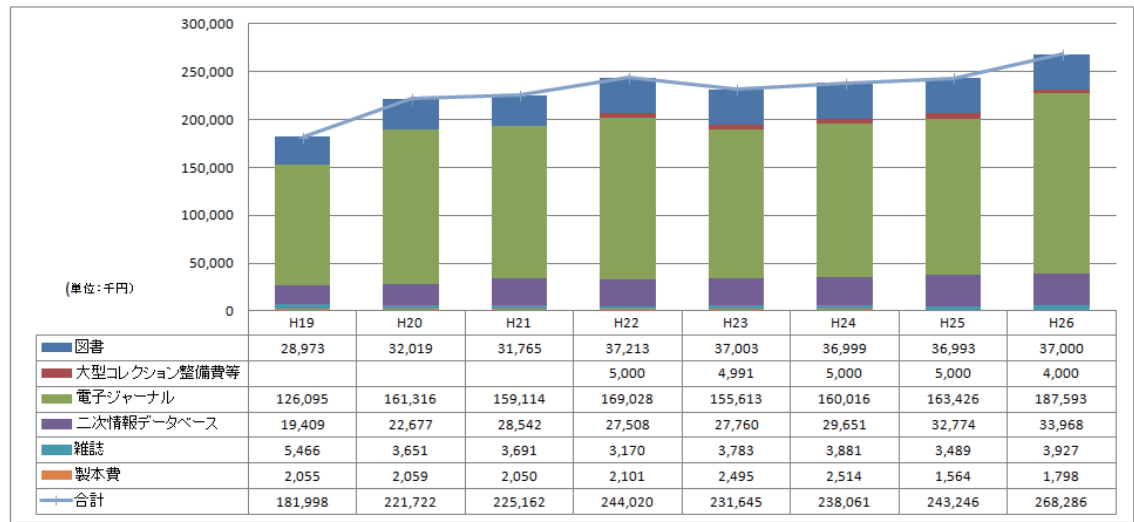
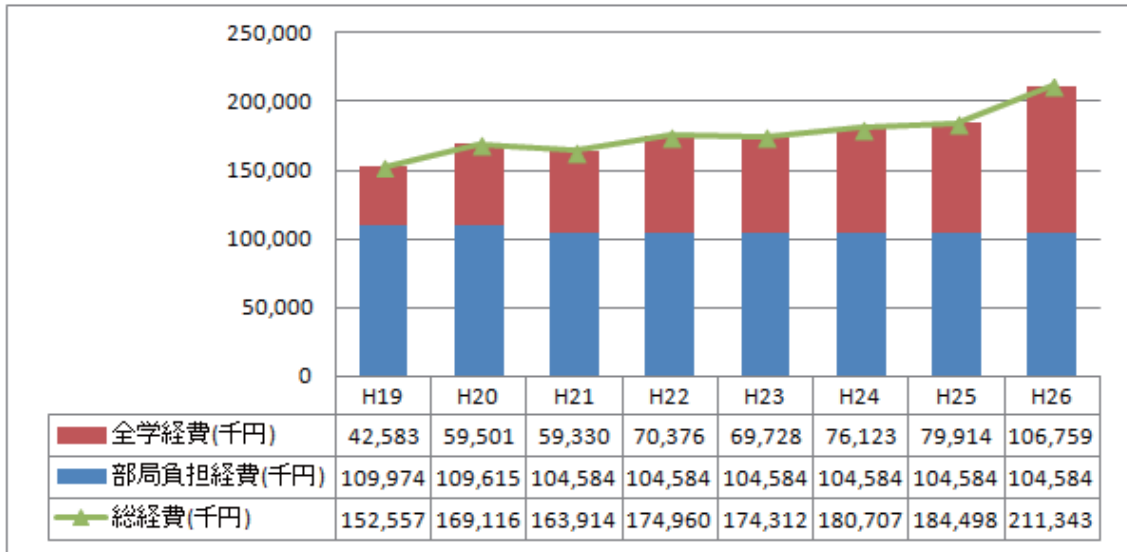


図 2-5 特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移 (「平成 21 年度及び平成 26 年度学術情報基盤整備 WG 資料」)



【分析・評価】

評価： □非常に良好である ■概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

図書館運営費は、一時期減少傾向が見られたが、その後回復し、概ね安定的に確保している。図書館運営費は、光熱水料及び電子計算機借料の固定経費の割合が高いが、光熱水料については、これまでも抑制に取り組み、これ以上の削減は困難な状況である。将来的な課題としては、プライベートクラウド化や Web システム導入の検討等、電子計

算機借料の削減を模索していく必要がある。

本学の資料費、図書費及び電子ジャーナル経費は、概ね増加しており、そのための予算を確保している。しかし、電子ジャーナルについては、価格の上昇並びに消費税の新規課税及び税率の変更が予定されているという状況を勘案すると、今後の購入タイトル数の維持について楽観できない状況である。

(注) 光熱水料について、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。高効率タイプのエアコン導入が予定されており、光熱水料の削減が見込まれる。

3 施設・設備

3-1 施設

【状況】

- 3館の施設の概要は表3-1のとおりである。
- 平成20～26年度の主な整備状況は表3-2のとおりである。
- 「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で挙げられた建物・書架等の整備に関する問題点(資料1、p.17)とその対応状況は表3-3のとおりである。
- 利用者アンケート(平成27年2月実施)では、設備のアメニティ、安全性、アクセス等に関して多くの意見が寄せられた(資料9)。

表3-1 施設概要(建物、閲覧席、収蔵能力) (平成27年4月1日調べ)

	閲覧座席数・面積・主な施設等		蔵書数 *	収蔵能力**
中央図書館 平成元年竣工 平成22年3月改修	972席 10,456㎡	電動集密書架、特別資料室、特別閲覧室、AV室、グループ学修用スペース(オープnstudio、グループstudio、ブックラウンジ(ほんとかふえ。))、マイクロ資料室	1,198,192冊	809,167冊
			書架収容率 148%	
自然科学系図書館 平成17年竣工	726席 6,513㎡	自動化書庫、貴重書室、AVホール・グループ学習室、研究個室、演習室、国際交流ルーム	391,823冊	508,222冊
			書架収容率 77%	
医学図書館 昭和44年竣工 平成24年3月増改築	343席 3,185㎡	電動集密書架、十全記念貴重資料室、グループ学修用スペース(オープnstudio、十全記念studio、グループstudio、ブックラウンジ(プラタナスカフェ))、研究個室、自習室	243,469冊	151,917冊
			書架収容率 160%	
保健学類図書室 平成12年竣工	58席 356㎡	集密書架 グループ学習室	44,492冊	31,542冊
			書架収容率 141%	

* 地区の部局所蔵含む

** 25冊/0.9m(棚長)として計算

表 3-2 建物、設備等の年度別の整備状況

	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
H20	冷房用室外機 1 基を冷暖房用に交換 無線 LAN 設備の増強 PC 用コンセント増設		1F 閲覧室什器を一部更新 1F 閲覧室天井灯交換 無線 LAN 設備の設置
H21			情報ラウンジの検索用パソコンの追加 図書無断持出禁止装置及び入退館ゲートを更新 2F 閲覧室什器を一部更新
H22	ラーニング・コモンズ(オープンスタジオ、グループスタジオ、ブックラウンジ(ほんとかふえ。)、インフォスクエア、マルチメディア・ラーニングスペース)の設置 書庫及びトイレの照明の人の感センサー化資料館側扉の自動ドア化		
H23	大学会館側玄関(屋外)にパラソルを設置(冬季を除く)	環境学コレクションに AV ブースを設置 入館ゲートを更新	増改築工事の開始に伴い、附属病院旧外来診療棟に仮移転
H24	オープンスタジオの壁面の全面ホワイトボード化 音声・拡大読書機を設置	音声・拡大読書機を設置	医学図書館竣工 ブックラウンジに自動販売機設置 音声・拡大読書機を設置
H25	3F 書架を増設		玄関横にモニュメントを設置
H26	ブックラウンジの音響設備の更新 3F 書架を増設 2F トイレ改修	演習室の 1 つを国際交流ルームに転用 国際交流ルーム用什器の整備	ブックラウンジにプラタナスカフェを設置

表 3-3 建物・書架等の整備に関する課題と対応状況

	課題	対応・予算要求
中央図書館	書庫の狭隘化への対応	一部、書庫資料の自然科学系図書館自動化書庫への移動により対応 平成 28 年度施設整備費補助金に概算要求「中央図書館・資料館棟の改修」
	学修環境を時代に合わせて変更する必要	平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置。ただし、大学の授業のアクティブ・ラーニング化に対応し、グループ学習スペースや個人学修のための個室スペースが不足
	冷暖房設備の老朽化への対応	平成 28 年度施設整備費補助金に概算要求「中央図書館・資料館棟の改修」
	電動集密書架の更新	平成 28 年度基盤的設備等整備概算要求「中央図書館電動集密書架の改修」
自然科学系図書館	空調の改善	空調期間の延長により対応
医学図書館	施設の老朽化への対応	平成 24 年度末に医学図書館の増改築が竣工
	地区学生数に対する座席数不足への対応	
	医学部旧書庫から自然科学系図書館開館時に同館保存書庫に仮置きされた図書の収蔵スペースの確保	増改築を行った医学図書館の 3F 書庫に書架が未設置 平成 28 年度基盤的設備等整備概算要求「医学図書館への集密書架の設置」

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

【中央図書館】

書架収容率が高く、収蔵能力を超えている。すでに中央図書館狭隘化対策 WG で検討、提言（資料 14「中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書、平成 24 年 3 月 12 日」）されているように、書架の整備に加え、蔵書を減らす、受け入れ図書を減らす等の対応が必要である。

時代に合わせた学修環境を提供するために、平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置し、機能的で快適な学修支援の場としての図書館の機能を高めるための設備の整備を進めている。今後は、授業のアクティブ・ラーニング化に対応したグループ学修のスペース拡大や、個人学修のための個室スペースの増設など、学修形態の多様化・ニー

ズに合わせた整備が必要である。

冷暖房設備の老朽化や集密書架の改修も、引き続きの課題である。

【自然科学系図書館】

前回の報告書ですでに自動化書庫内を含めた換気・空調、照明調節の運用等に課題が指摘されていた。PFI 事業のため、設備の整備面では対応ができていないが、冷暖房期間の延長により対応している。

【医学図書館】

施設の老朽化が指摘されていた医学図書館が増改築され、平成 24 年度末に竣工された。老朽化による書籍の収集・保存機能の不足や座席数の不足など、安全面での問題等、医学図書館の直面していた多くの問題を改善した。しかし、増改築を行った医学図書館 3 階の書庫の書架が未設置であり、収蔵能力の不足が見られる。医学部旧書庫の蔵書が、自然科学系図書館保存書庫に仮置きされており、書架の整備が必要である。

【保健学類図書室】

書架収容率が高く、収蔵能力を超えており、蔵書を減らす、受け入れ図書を減らす等の整理が保健学類図書室でも必要である。

(注) 冷暖房の老朽化については、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。また、医学図書館 3 階集密書架の設置及びラーニング・コモンズのスペースの拡大については、平成 27 年度国立大学改革基盤強化促進費(国立大学法人施設整備補助金)で整備されることとなった。

3-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等

【状況】

- 「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で挙げられた課題(資料 1、p. 18)とその対応状況は表 3-4 のとおりである。
- 視聴覚設備の対応状況は表 3-5 のとおりである。自然科学系図書館の AV ルームのプロジェクターは照度が落ちて見にくい、平成 17 年度以降更新されていない。
- 各館の利用者用機器の整備状況は表 3-6 のとおりである。「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降の主な整備状況は以下のとおりである。
 - ・平成 22 年度以降、各館にブルーレイプレーヤーを導入
 - ・平成 24 年度、視覚障がい学生(弱視)への対応のために各館に音声・拡大読書機「よむべえ」を設置

- ・学生のパソコン必携化に対応し、メンテナンス業務の省力化を図るため、自然科学系図書館の利用者用パソコンを平成 19 年度 99 台から平成 26 年度 19 台に大幅に削減した(表 3-7)。
 - ・平成 25 年度以降、各館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、管理業務の軽減を図った。
- 各館のネットワークカメラの整備状況は表 3-8 のとおりである。自然科学系図書館のネットワークカメラは平成 17 年度以降更新されていない。

表 3-4 情報・ネットワーク関連機器に関する全館的な課題と対応状況

	課題	対応状況
全館	図書館内の利用者用パソコンについて、学生の必携パソコンの携行実態を見ながらセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立を図ること	平成 21 年度末の中央図書館でのラーニング・コモンズの設置後、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、順次、全館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。
	図書館内の無線 LAN アクセスポイント及び情報コンセントを整備すること	情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、接続が不安定だった、全館の無線 LAN 環境を順次改善した。
	多機能 IC カードを導入すること	平成 22 年度から、IC カード化されている学生証及び職員証を使って、図書の貸出等の手続きが可能になった。

表 3-5 視聴覚設備等の対応状況

	対応状況
中央図書館	平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置した際、従来の利用者用パソコンコーナーをインフォスクエアとして整備し、什器類を更新。ただし、利用者用パソコンについては、学生のパソコン必携化に伴い、設置台数は増やしていない。
	平成 26 年度、ブックラウンジの音響設備の更新
自然科学系図書館	平成 23 年度に環境学コレクションを設置した際に視聴覚資料の視聴用ブースを整備
医学図書館	平成 23 年度末の増改築の際、2 階オープンスタジオにシンククライアントパソコン 29 台を設置した PC コーナーを整備

表 3-6 各館別機器数一覧 (平成 26 年度末現在) (平成 27 年 7 月調べ)

視聴覚機器等	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
マイクロリーダー	4	0	0
ビデオプレーヤー	10	11	1
LD/DVD/ブルーレイプレーヤー	18	13	6
音声・拡大読書機等	2	1	2

表 3-7 各館別利用者用パソコン数の推移

(「文部科学省学術情報基盤実態調査(※)」及び平成 27 年 7 月調べ)

(※) H19～21 は視聴覚閲覧用、H22 以降は利用者用

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
中央図書館	22	22	22	22	28	31	31	31
自然科学系図書館	99	90	85	79	98	37	24	24
医学図書館	13	13	19	19	13	29	29	29
計	134	125	126	120	139	97	84	84

表 3-8 ネットワークカメラの整備状況

	実施内容
H24	医学図書館の増改築時にネットワークカメラを導入
H25	中央図書館と自然科学系図書館で増設
H25～26	中央図書館のカメラの老朽化に伴う修理費の増大に対応するため、学内のキャンパスインテリジェント化予算により中央館図書館分のネットワークカメラを更新

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

図書館内の利用者用パソコンのセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立が課題であったが、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、平成 21 年度末の中央図書館ラーニング・コモンズでの整備から始めて、順次、全館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。

無線 LAN アクセスポイントや情報コンセントの整備が課題であったが、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、全館の無線 LAN 環境の改善を進めた。

多機能 IC カードである学生証及び職員証の図書館業務への導入が検討されていたが、平成 22 年度から IC カード化されている学生証及び職員証で、図書の貸し出し手続きが可能となった。

セキュリティ対策として、ネットワークカメラの整備を進めている。当面の課題としては、自然科学系図書館のネットワークカメラの更新が必要である。

4 情報資源・資料

4-1 資料の収集方針と保存

【状況】

- 図書館資料の収集に関しては、「金沢大学附属図書館資料整備要項」(資料10)、「金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針」(資料11)、「金沢大学附属図書館資料受入取扱基準」(資料12)に基づいて実施している。
- 「金沢大学附属図書館基本理念と目標」では「前身校等から受け継いだ資産の保存管理体制の整備」、「金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン」では「電子的資料の積極的導入と蔵書の電子化」という目標を掲げている。
- 資料保存に関しては、3館体制に基づき、各館の専門に対応した資料を各館の書庫で保存する体制としている。また、各キャンパスの研究室から返納された図書・雑誌についても、対応する館の書庫に保存している。
- 資料の除籍については、「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項」(資料13)に基づいて、重複所蔵資料について実施している。
- 中央図書館の狭隘化対策については、平成23年度に図書館職員によるWGを組織し、蔵書の保存基準等の見直しによる対策をまとめたが(資料14)、日常業務と並行した作業になることもあり、大きく進展していない。さらに近年、団塊の世代の教員の定年退職、アクティブ・ラーニングの導入により図書室として利用していた部屋の改装等に伴い研究室等から多数の図書が返納されており、狭隘化がさらに進行している状況である。
- 書庫の狭隘化問題については、他大学図書館でも問題になっているため、東海北陸地区で共同書庫を建築し、バックナンバー等を集中化する構想もあり、名古屋大学から概算要求を行う予定である(YAMAZAKI プラン2014)。
- 中央図書館の保存書庫には、和装本が帙に入れず配架されている。
- 平成26年度には、医学図書館閲覧室、中央図書館保存書庫等で、資料のカビが確認された。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

資料の収集方針及び重複所蔵資料の処分方針は妥当であり、適正に運用している。ただし、書架の狭隘化は大きな問題となっており、さまざまな観点からの工夫が必要である。

資料収集の質と量の充実については、予算規模の問題もあり旧帝国大学など大規模な

大学に及ばないのは致し方ないが、3館体制を活かしながら、利用者の声を反映させつつ、長期的視野に立って資料の選択収集に務めていく必要がある。

保存状況については、平成26年度に確認されたカビの発生という事態を教訓にし、今後は保存状態の管理について見直しが必要である。

4-2 図書の整備

【状況】

- 図書の蔵書数(研究室利用図書を含む。)は、平成19年度の合計1,758千冊から平成26年度の1,878千冊に増加した(図4-1)。
- 図書の年間購入冊数(研究室利用図書を含む。)と除籍数は図4-2のとおりである。
- 平成19、20年度は、角間キャンパスにある2つの図書館が持っていた資料を、分野による分担収集の考えに基づく重複調整に伴い、自然科学系図書館で所蔵しているタイトルについては中央図書館の製本雑誌を除籍した。
- 学生用図書整備費は、平成22年度以降は、学術情報基盤整備計画の中で年間3,700万円の整備費を確保し、学生1人あたり3,500円程度の学生用図書の整備が可能となっている(図4-3)。
- 学生用図書の選定は、中央図書館と自然科学系図書館に関しては、図書館委員会の下に置かれた「学生用図書選定部会」で選定を行っている。
- 医学図書館及び保健学類図書室に配架する学生用図書については、主として医薬保健学域の各研究室からの推薦に基づいて選定を行っている。
- 利用者アンケート結果(資料9)では、現在の選定基準には含まれていない資料(学術的な資料以外の小説や軽い読み物、新書、文庫等)の購入希望が多数あった。

図4-1 蔵書数の推移 (「図書館概要」)

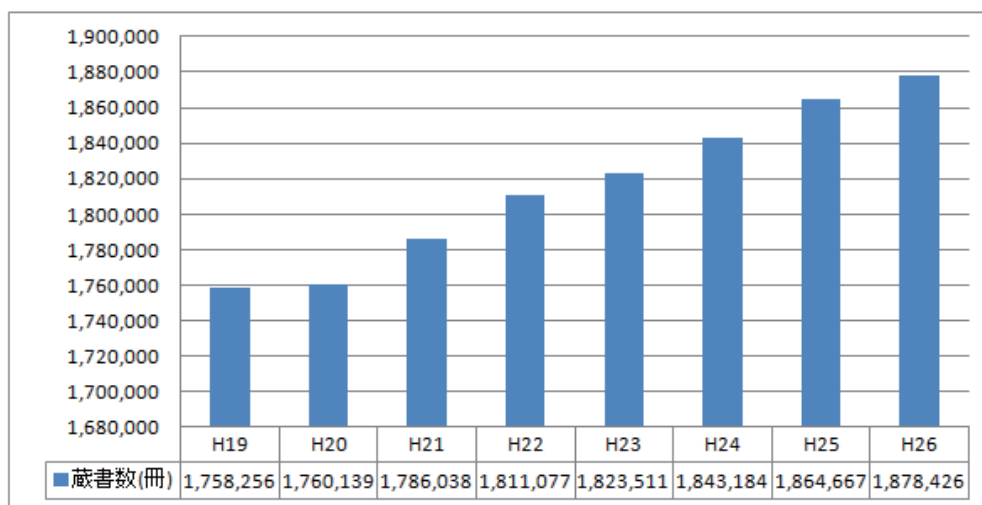


図 4-2 年間購入冊数及び除籍冊数の推移(「図書館概要」及び平成 27 年 7 月調べ)

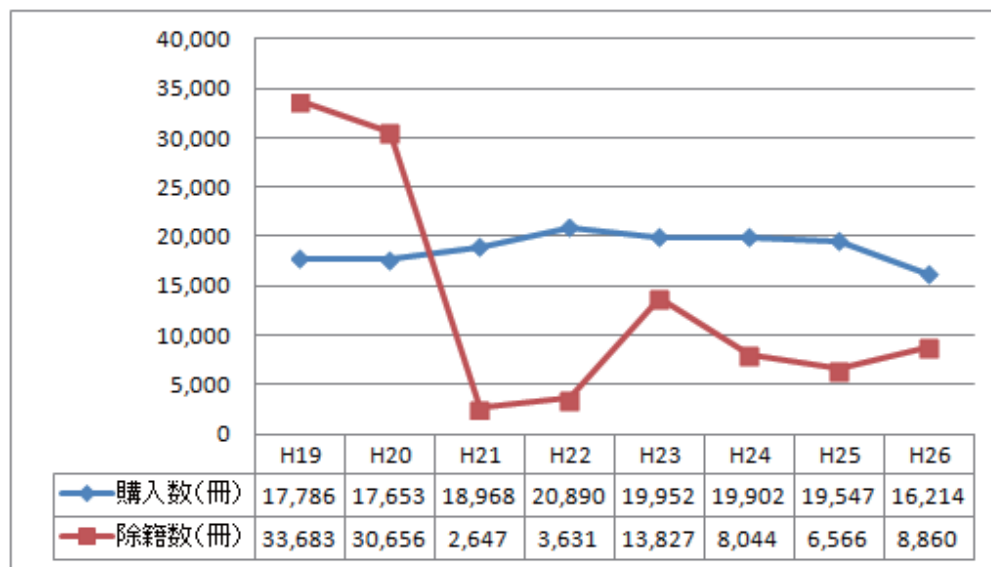
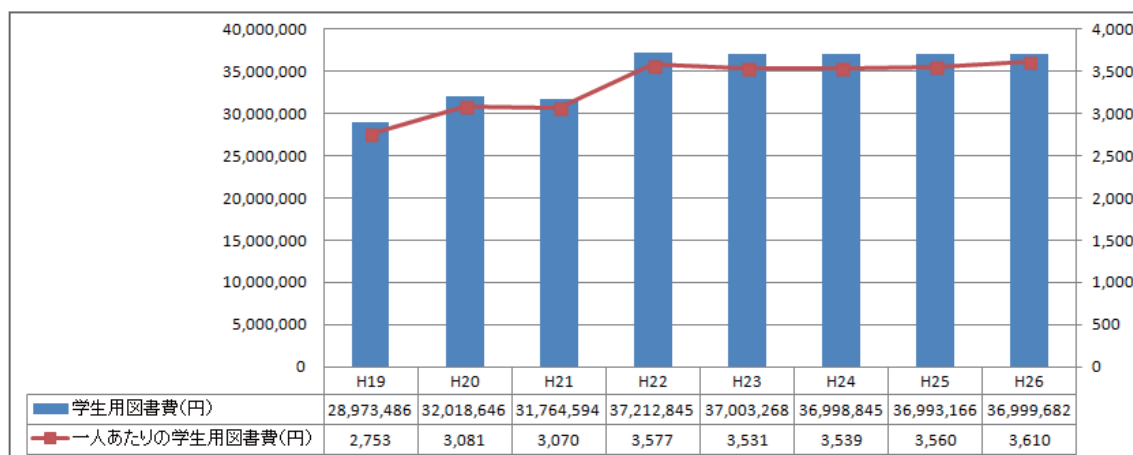


図 4-3 学生用図書費の推移(「図書館委員会決算資料」及び「大学概要」)



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

平成 17 年の自然科学系図書館の開館を機に、平成 19、20 年度に大量の重複資料を廃棄し、その後は定期的に重複調整を行っている。また、学生用図書費を安定的に確保している。図書選定を学生用図書選定部会及び各学類からの推薦によって適切に購入している。さらに、利用者(学生、教員)からの購入希望に迅速に対応している。

ただし、学生用図書のより良い利用環境のためには、利用頻度の高い図書については複数本を揃えるといった工夫が必要であり、改善の余地がある。また、大学全体としては、専門性の高い図書の収集について他の研究大学などの状況を把握した上で、今後の

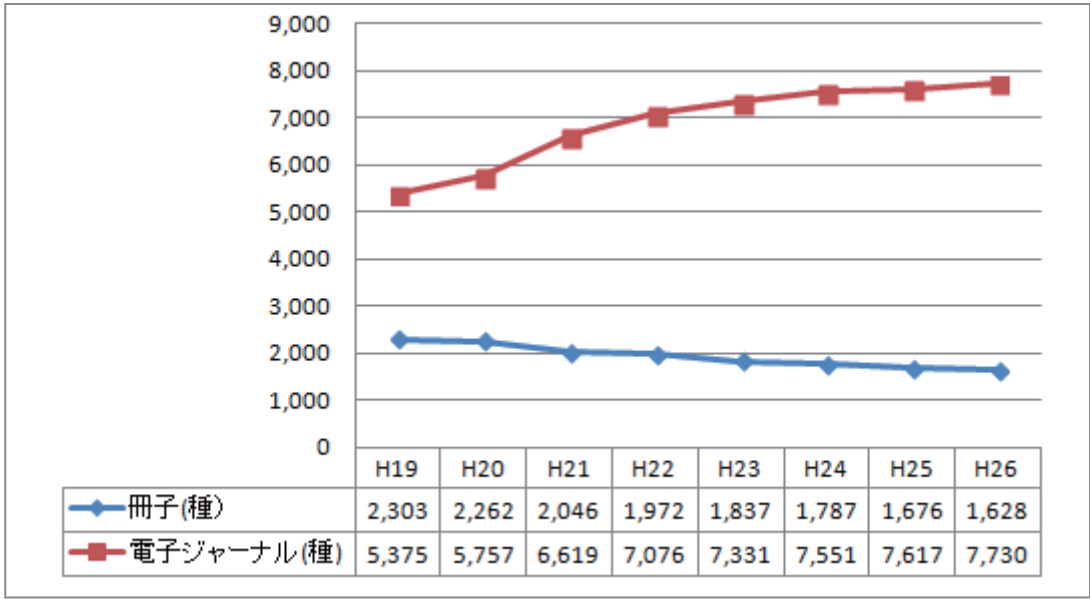
整備に活かしていく必要がある。

4-3 雑誌（紙媒体）の整備

【状況】

- 紙媒体の学術雑誌の購読タイトル数は、重複調整及び電子ジャーナルへの移行が急速に進んだため、図 4-4 のとおり減少傾向にある。

図 4-4 購読雑誌数の推移（「図書館概要」）



【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

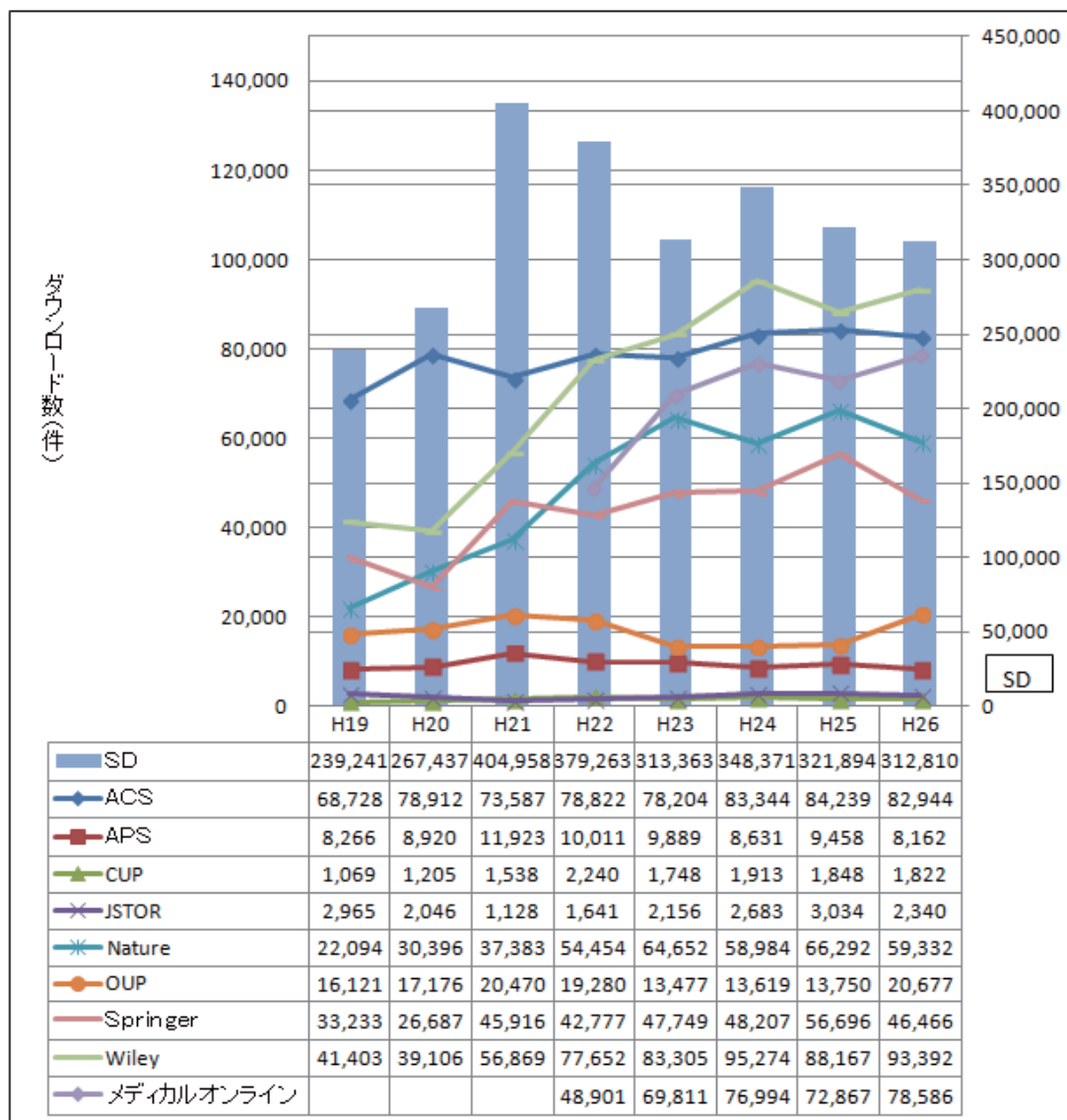
電子ジャーナル、データベースの充実に伴い、紙媒体の雑誌の購読数は減少の一途をたどっている。予算規模の大きい一部の大学では、紙媒体の雑誌も購入を続けており、それは万一の場合（電子ジャーナルを出版している会社の倒産など）を考えれば望ましいことではあるが、本学では紙媒体の雑誌購読数の減少は致し方ないとする。したがって、紙媒体の雑誌の整備としては、利用度の高い外国雑誌などで、バックファイルが紙媒体しかない場合に、製本雑誌の保存状態に注意を払う必要がある。

4-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備

【状況】

- 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備については、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」及び「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」で「教育・研究を支える先進的な学術情報基盤とアクセス手段の提供」「電子ジャーナルの安定的な確保」を最優先の目標として掲げている。また、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」では、「第3期中期目標・中期計画期間中の整備計画の策定」を掲げており、平成27年度前半に策定予定となっている。
- 電子ジャーナルについては、「ビッグディール（大手学術雑誌出版社が提供する全タイトルを閲覧できるパッケージ単位での購入）」が定着し、利用できるタイトル数が増加する一方、価格は高騰している。
- 電子ジャーナル及び二次資料データベースについては、平成22～27年度の第2期学術情報基盤整備計画により、共通経費化した部局経費（期間中は定額）と、法人が負担する特別整備事業費で購入している。
- 導入するタイトルについては、原則として3年間継続した後、各部局からの要望、費用対効果等を勘案し、図書館委員会の下の学術情報基盤整備WGで見直しを行っており、平成26年度現在、7,730タイトルが利用可能となっている（図4-4）。
- 学術情報基盤整備計画では、最新号を利用することができる出版社系の電子ジャーナルを中心に購入し、アグリゲータ（多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービス）系の電子ジャーナルパッケージの購読は少ない。
- 二次資料データベースについても学術情報基盤整備計画、図書館事業費により整備を行っており、平成26年度現在で19タイトルが利用可能となっている
- 電子ジャーナルの利用状況は、図4-5となっており、活発に利用されている。
- 電子ジャーナル及び二次資料データベースに関する学内研究者の満足度、意見については、平成25年度末にアンケート調査を行って把握し（資料15）、概ね満足という回答であった。また、結果については第3期学術情報整備計画の策定の際に参考にした。

図 4-5 主要電子ジャーナルパッケージの利用の推移(毎年度末雑誌・電子情報係調べ)



【分析・評価】

評価： □非常に良好である ■概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

ここ 10 年間にわたり、本学では学術情報基盤整備計画として、電子ジャーナル、データベースの安定的な提供を目標に、予算の確保と効率的な購読努力をかさねてきた。その結果、購読タイトル数は増加し、多くの利用件数（論文ダウンロード数）からも窺えるように、本学の学術基盤として不可欠のものとなっている。しかし、その購読価格の上昇が社会問題となっており、大手出版社のパッケージ契約を中止する大規模大学がある中で、本学は三大大手出版社（Elsevier、Springer、Wiley）の電子ジャーナル

パッケージ契約を継続しており、結果として大規模大学よりも良好な研究環境を維持している。

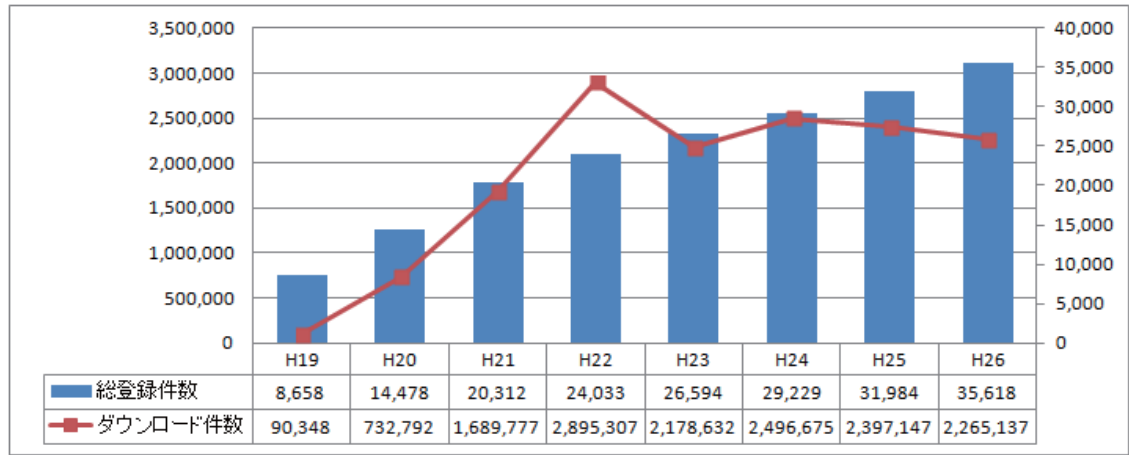
ただし、それは三大出版社に限ったことであり、研究分野によっては基幹的な雑誌の購読が行われていない分野もある。そこに大規模研究大学との差が現れている。今後とも、限られた予算から学術基盤としてふさわしい購読タイトルの選定に留意し、今後の大学財政の状況に応じて、より良い負担の仕方を継続的に模索する必要がある。

4-5 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）

【状況】

- 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）の整備については、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」及び「金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン」において、「金沢大学の知的研究成果の発信」及び「コンテンツのさらなる充実」を目標として掲げ、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」では、「学術雑誌掲載論文等の登録義務化をめざす」とされている。
- KURA は、平成 18 年 6 月に、本学教職員等が教育・研究活動の結果として生み出した学術論文、紀要等の全文を登録し、インターネットを通して世界中に発信するために公開した。公開以来、図 4-6 のとおり、順調に登録件数を増やし、毎年 25 万件以上のコンテンツがダウンロードされている。
- 「第 4 期科学技術基本計画(平成 23 年 8 月閣議決定)」、「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（平成 24 年 7 月科学技術・学術審議会学術基盤作業部会(審議まとめ)」等、我が国における研究成果のオープンアクセス化の動きは加速している。

図 4-6 KURA のコンテンツ累積登録数と利用件数（「図書館概要」及び雑誌・電子情報係調べ）



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

ここ数年はダウンロード回数が横ばい状態にあるが、登録数は一定の割合で増加しており、整備状況は良好である。今後、研究成果のオープンアクセス化は加速することが予想され、全学的なオープンアクセスに関する方針を定める必要がある。また、博士論文全文の登録の流れの効率化、科研費による研究成果のオープンアクセスの義務化への対応が今後の課題である。

4-6 目録情報の電子化

【状況】

- 大学で所蔵する蔵書の目録情報については、平成25年度末現在、図書所蔵856,117件、雑誌所蔵43,761件がオンライン蔵書目録(OPAC plus)で検索可能となっている。
- OPAC plusの検索結果画面に表示される研究室名は、学域学類制発足前の名称を使用している。
- 現在未登録の図書の目録情報の遡及入力については、研究室から附属図書館に資料が返納された際に各館で実施しているが、近年、研究室の狭隘化に伴い、研究室全体の資料を大量に図書館に返納するケースが増えており、作業が追いついていない状況である。
- 前身校から引き継いでいる旧四高の蔵書、暁烏文庫の資料については、主として和装本、漢籍等の遡及入力が終わっておらず、石川師範学校や金沢高等師範学校の図書は、殆ど遡及入力が終わっていない(表4-1)。

表4-1 前身校等の蔵書の目録の電子化状況(平成27年7月調べ)

	登録済	未登録	所蔵冊数(図書原簿から算出)
暁烏文庫	22,189	27,409	49,598
第四高等学校	34,451	62,908	97,359
石川師範学校	5,626	30,459	36,085
金沢高等師範学校	235	7,746	7,981

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

目録情報の電子化は1990年代はじめの新規購入資料について始まり、その後の遡及

入力も経て今日に至っている。それらの目録情報は金沢大学附属図書館蔵書検索システム(OPAC plus)によって日々利用されており、図書館利用ツールの根幹を成している。図書館所蔵資料については、前身校から引き継いだ蔵書を除き、ほぼ検索可能になっているが、一方で電子化以前の研究室(コース)所蔵資料の目録情報は電子化されていないものも多く、その結果、総蔵書数187万冊余のうちOPAC plusで検索可能なのは86万冊弱、すなわち全体の半分に満たないのが現状である。非オンラインあるいはオンラインでの検索方法を独自に工夫しているコース・研究室もあるが、不便を感じている研究室(コース)もあり、更なる遡及入力による効果的なオンライン検索環境の整備が必要である。

4-7 コンテンツの電子化

【状況】

- 「金沢大学附属図書館理念と目標」「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」で記載のとおり、電子的資料の購入や蔵書の電子化に取り組んでいる。
- 電子ジャーナルやデータベースに加えて、電子書籍の購入を進めている(表4-2)。
- 電子ジャーナル、データベースの整備については「4-4(p.32)」で記載済
- 所蔵資料の電子化については「7-4(p.58)」で記載する。

表4-2 電子書籍の購入タイトル総数の推移 (平成27年7月調べ)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
和図書	0	0	0	0	0	1	153	213
洋図書	0	0	5	1	3	8	1,371	108
合 計	0	0	5	1	3	9	1,524	321

【分析・評価】

評価: ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント:

和書における電子図書の普及は進んでいないが、洋書については多くの電子図書が販売されている。しかし、本学で整備されているのは環境学コレクションなどごく少数に限られ、ほとんど整備されていない状況にあり、大規模研究大学との格差が生じている。電子図書の整備は学生の学修・研究にとっても大きなメリットがあり、導入促進が今後の検討課題である。

4-8 各種コレクションの整備

【状況】

- 金沢大学附属図書館独自のコレクションとして、次の表 4-3 のようなコレクションがある。これらには、前身校から引き継いだもの、寄贈によるもの、図書館の方針で重点的に整備しているものが含まれる。
- 今回の評価期間中、新たなコレクションとして、自然科学系図書館の「環境学コレクション」と「北陸銀行文庫（中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館）」が加わった。

表 4-3 コレクション一覧（「図書館概要 2014」及び平成 27 年 7 月調べ）

文庫名	内容	冊数
第四高等学校蔵書	金沢大学の前身である旧制第四高等学校が所蔵していた図書	97,359
暁烏文庫	石川県白山市北安田町浄土真宗大谷派明達寺元住職、暁烏敏師旧蔵の図書。各分野に渡る膨大な蔵書。このうち 13,500 冊が仏教関係図書。	49,124
阿閉文庫	元金沢英和学校校長で、エスペラント語を広めたことでも知られる畜産業家阿閉政太郎氏寄贈の蔵書。	245
井田文庫	教育者、井田竹治氏寄贈の蔵書。享保 9 年から天保 8 年までの浄瑠璃本のコレクションを含む。昭和 25 年 12 月に本学に寄贈された。	111
浦井文庫	元第四高等学校教授、浦井鯉一郎氏及び同教授記念事業会寄贈の図書。西洋史に関する文献が多い。	487
金戸文庫	元県立中学校の数学教諭、金戸貞敬氏寄贈の和算書についてのコレクション。	500
岸文庫	元第四高等学校教授・元本学講師、岸重次氏寄贈の蔵書。英語・英文学関係図書中心。語学以外の資料は金沢市立図書館に寄贈。	1,001
駒井文庫	元第四高等学校教授、駒井徳太郎氏寄贈の蔵書。加賀藩刊行の図書・郷土資料等や経書類が多い。	5,492
鈴木文庫	元教養部教授、鈴木直治氏旧蔵のコレクション。古代漢語に関する資料が中心。	5,075
北条文庫	元第四高等学校校長・元学習院院長、北条時敬氏寄贈の蔵書。江戸期の写本が中心。日本青年館、日本棋院、石川県立図書館等にも寄贈。	1,713

用和堂文庫	旧加賀藩礼法指南役、渡辺家寄贈の蔵書。礼法及び有職故実に関する図書が中心。この蔵書は渡辺篤氏が四高在学中に寄贈したもの。	919
宮本文庫	元滋賀大学学長で第四高等学校卒業の宮本憲一氏寄贈の蔵書。財政学、環境経済学、地域経済学、地方自治論、公害問題など	7,562
和田文庫	元法文学部教授、和田三良氏（専門は経済史）寄贈の蔵書。経済史学を中心として、法文経済系図書が多い。	1,647
北陸銀行文庫	平成20年度、本学と北陸銀行との間に締結した「包括的連携協力協定に関する覚書」事業の一環として寄贈を受けた図書を各館に配架している。	529
環境学コレクション	本学の第二期中期目標・中期計画で掲げている、学士・修士一貫の環境教育プログラムの基本資料とするために、平成22年度から国内外の環境に関する資料を収集し、自然科学系図書館に設置している。平成24年7月には、中央図書館に、ユネスコスクール・セクションを設置し、ユネスコスクールやESDに関する報告書や事例集・パンフレットなどを収集・配架している。	4,155

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

さまざまな蔵書コレクションを有する中で、特に第四高等学校蔵書は、本学の源流を成すものであり、歴史ある本学をアピールするものとして貴重な資料群である。

平成20年度以降では、「北陸銀行文庫」や「環境学コレクション」を設置し、短期間で充実した資料の整備を行っている。

5 サービス

5-1 開館日・開館時間

【状況】

- 現在の開館状況は、表 5-1 のとおりである。
- 自然科学図書館については、「(1) 閉館後のセキュリティが確保できない、(2) 冷暖房なしの状態であり、滞在しうる学習環境を提供できない、(3) カードキーを持たない学生(文系・医系・理系 1～2 年生)が利用できない」という理由により(資料 16)、平成 21 年度以降、24 時間開館を中止した。その一方で、中央図書館、医学図書館の開館時間を 20 時から延長し、全館の通常時の平日の開館時間を 22 時とした。
- 平成 25 年度実績で本学と規模や附属図書館の構成の点で共通点の多い、旧六大学との運用を比較した結果は、図 5-1、図 5-2 のとおりである。
- 利用者アンケート(資料 9)では、開館時間延長についての要望が多数あった。

表 5-1 3 館の開館時間一覧(平成 26 年 5 月 1 日現在)

館 名	開 館 時 間		
	平日	土曜日	日曜日
中央図書館	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	9:00-17:00 休業期休館	9:00-17:00 休業期休館
自然科学系図書館	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期休館	休 館
医学図書館	8:30-22:00 休業期 8:30-22:00	10:00-16:00 休業期 10:00-16:00	休 館
保健学類図書室	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期閉室	休 室

図 5-1 同規模の国立大学附属図書館中央図書館の開館状況(平成 25 年度)の比較
(平成 26 年度調べ)

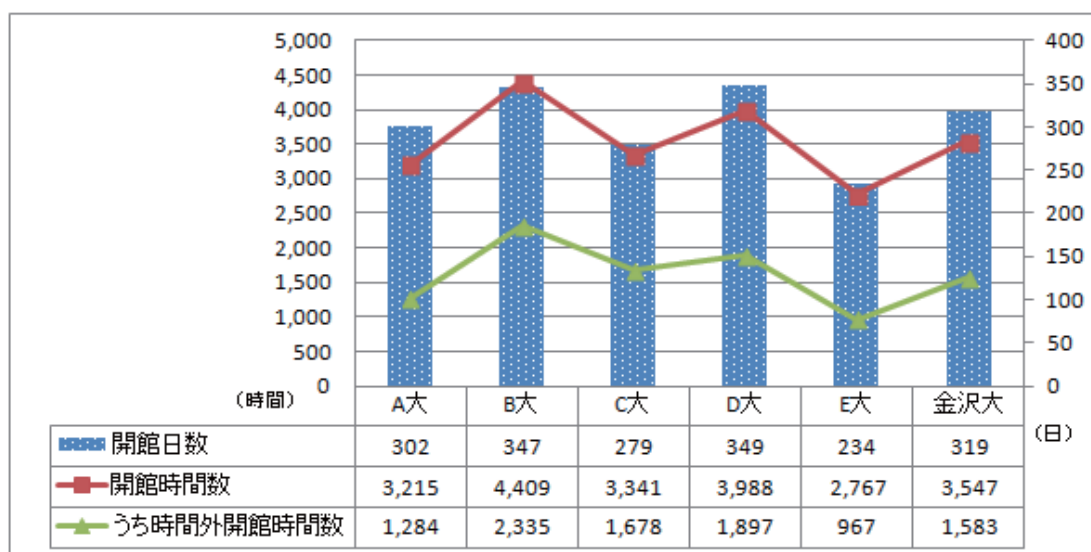
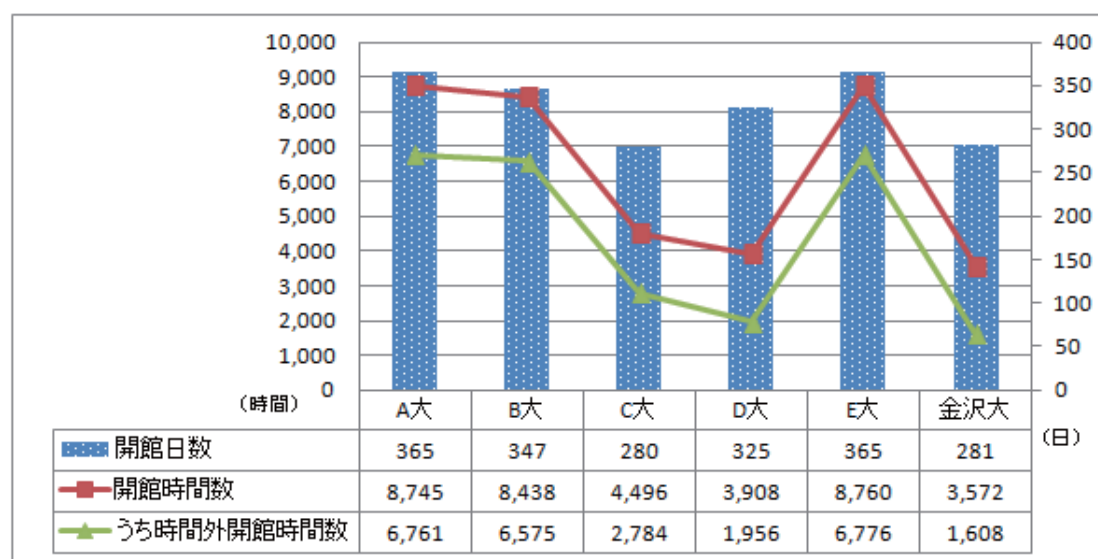


図 5-2 同規模の国立大学附属図書館医学図書館の開館状況(平成 25 年度)の比較
(平成 26 年度調べ)



※ A 大、B 大、E 大は 24 時間開館

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

同規模国立大学との運用を比較した結果、中央図書館の開館状況は平均程度だが、医学図書館の開館状況については、学生サービスの観点から、開館時間数の点で検討の必

要がある。

5-2 来館利用及び貸出冊数

【状況】

- 入館者数、貸出冊数の推移は、図 5-3、5-4 のとおりである。

図 5-3 総入館者数及び貸出冊数の推移 (「図書館概要」)

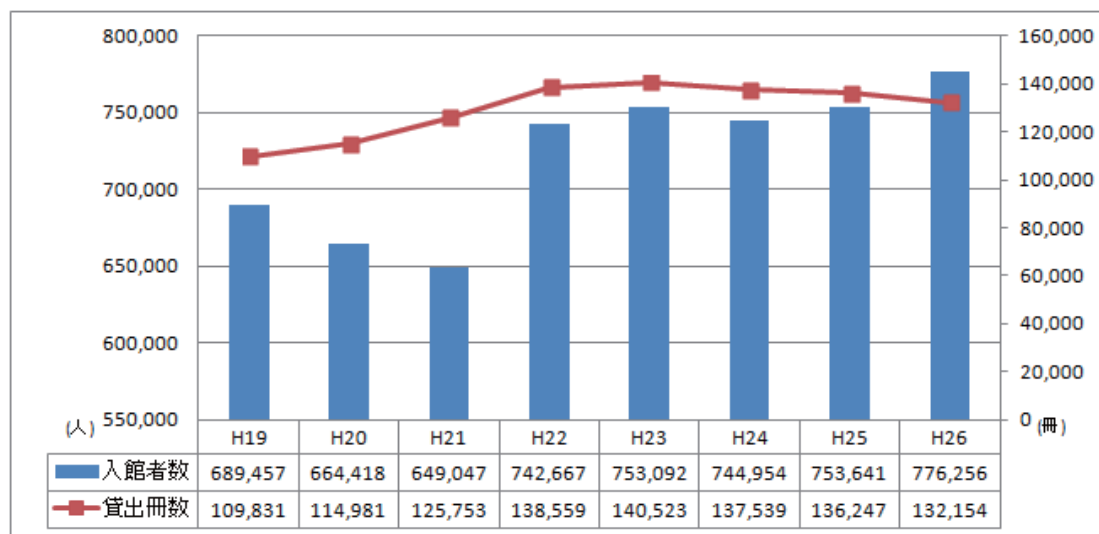
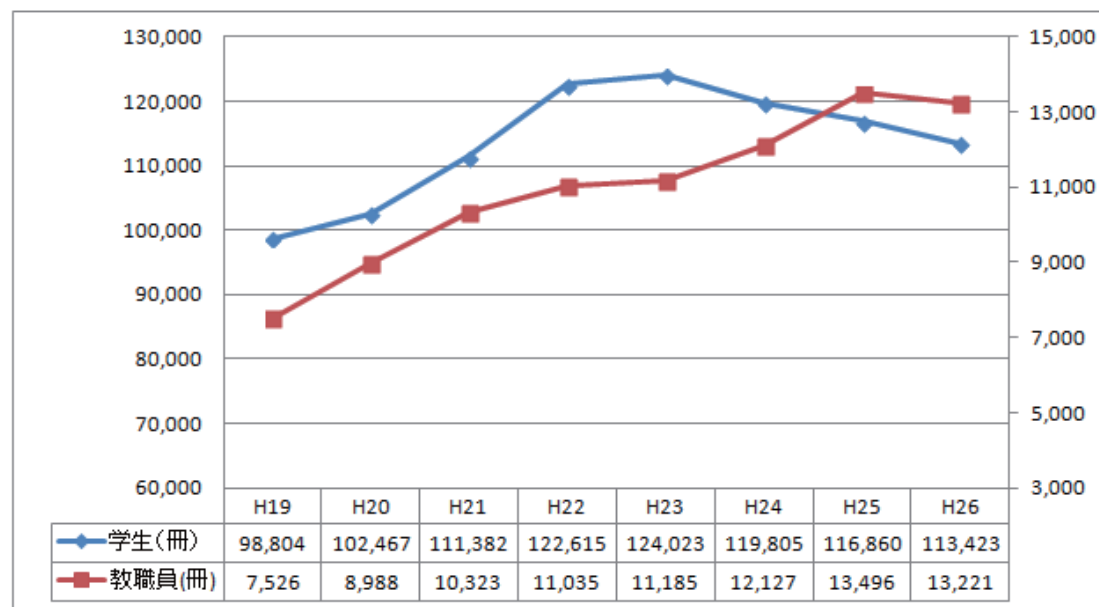


図 5-4 貸出冊数の推移(学生・教員別) (「図書館概要」)



【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

入館者数は、平成 21 年度末の中央図書館ラーニング・コモンズの設置後、大幅に増加している。また、貸出冊数は、学生、教職員とも「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」の時点より増加している。

5-3 図書館職員が行う利用者サービスの質

【状況】

- サービス全般について、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」では、「すべての利用者へのきめ細やかな支援の提供。一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスの具体化」「3 館の特性を生かした、利用者ニーズに応えるサービス」としている。
- 利用者アンケートでは、貸出・返却等の窓口サービスについて「満足」「やや満足」「普通」と回答した割合が 91%となっている（資料 8-1-質問 3）。
- 「図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしていると思いますか」という質問については、「そう思う」「ややそう思う」と好意的に感じている人の割合が 62%となっている（資料 8-1-質問 4）。
- 利用者アンケート（資料 9）では、職員に対して、多くの意見が出されている。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

貸出・返却等の窓口サービスについて大半のアンケート回答者が、普通以上の満足度を感じていることから、適切にサービスが提供されている。一方、「一人一人を大事にしていると思うか」と質問では、好意的に感じている人の割合が 62%にとどまっており、今後、利用者の個別のニーズに対応する必要がある。

5-4 ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）

【状況】

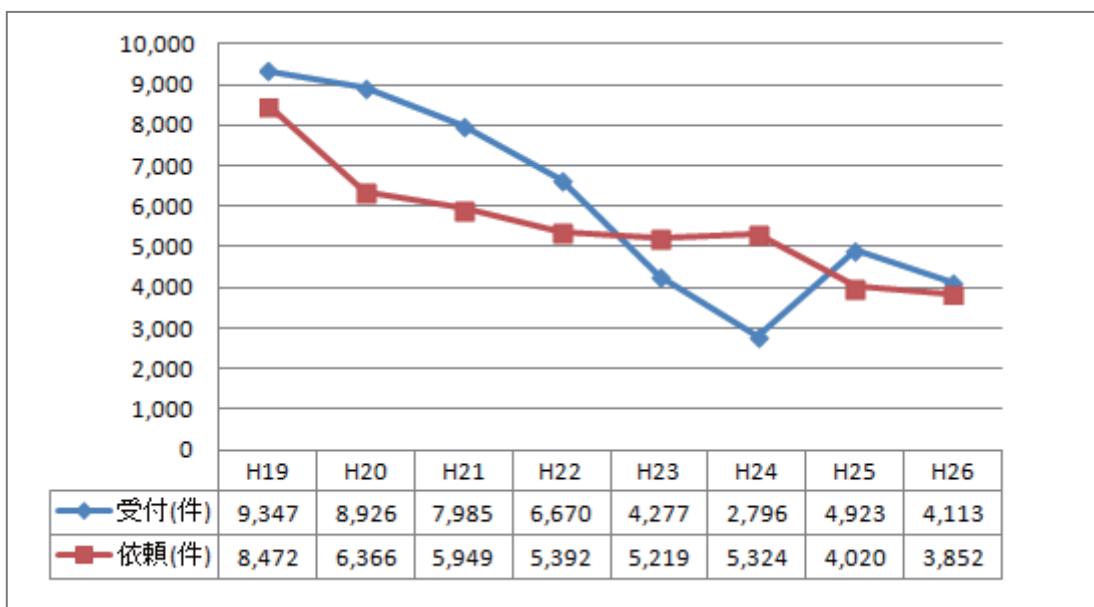
- 現物貸借（図 5-5）については、平成 20 年度以降、「貸出」と「借受」はほぼ拮抗している。なお、石川県内の公共図書館等との現物貸借については、「7-1 (p. 55)」で記載する。
- 文献複写（図 5-6）については、件数が激減している。また、医学図書館が改装工

事を行っていたため受付を停止していた平成 23～24 年度を除くと、一貫して「受付」が「依頼」を上回っている。

図 5-5 他大学との図書現物貸借数の推移（「図書館概要」）



図 5-6 他大学との文献複写数の推移（「図書館概要」）



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

文献複写件数が減少しているが、大学の研究活動における電子ジャーナル利用の定着と各大学の紀要を含む学術雑誌のオープンアクセス化の進展によるところが大きいと考えられる。

5-5 イベント

【状況】

- 平成 20～26 年度のイベントの実施状況は資料 20 のとおりである。平成 21 年度末に中央図書館にラーニング・コモンズ設置後、ブックラウンジ等を活用した図書館主催のイベントが大幅に増えた。
- この期間に実施した特徴的なイベント、新規に始めたイベントとしては、次のものがある。

① 明後日朝顔プロジェクト（平成 21～25 年度）

明後日朝顔プロジェクトとは、平成 15 年にアーティストの日比野克彦氏が新潟県十日町市荻平で地元の住民との交流を促進する目的で、住民と朝顔を育てたことから始まり、年々全国各地に広がった。金沢大学附属図書館では、平成 21～25 年度までの 5 年間にわたって活動し、苗植え式や収穫祭には多くの学生や教職員が参加した。

② EU カフェ（平成 22 年度～現在）

附属図書館には、金沢大学 EU 情報センターが設置されている。平成 22 年度からは、本学学生、教職員及びその他図書館利用者に対し、今日の EU の経済状況についての理解を深めてもらうことを目的とし、毎年 5 月 9 日のヨーロッパデーにあわせた日・EU フレンドシップウィーク期間中に開催している。

③ 金沢美術工芸大学との共催による展覧会・講演会（平成 22～24 年度）

本学と金沢美術工芸大学との間で「大学間交流に関する包括協定」を締結したのを機に、中央図書館ブックラウンジで、展覧会と講演会を並行して行った。

④ ブックリユース市（平成 22 年度～現在）

不要になった図書(私物)を学内でリユースしようという趣旨ではじまった。春と秋に開催している。

⑤ 金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクール（平成 24 年度～現在）

「7-3 (p.56)」で記載する。

- 図書館報「こだま」と連動した、教員おすすめ図書の展示については、従来は中央図書館のみで実施していたが、平成 22 年度からは医学図書館でも実施を行うことにした（中央図書館での展示期間終了後、医学図書館に移動）。
- 平成 25 年度以降、自然科学系図書館でも図書館職員の企画による企画展示を継続的に行っている。
- 利用者アンケート（資料 8-1-質問 28）によると約 52%の学生が図書館内でのイベント、展示等の活動について「関心がある」「やや関心がある」と回答している。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

中央図書館を中心に、各種イベントを積極的に開催し、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の拡大を図っている。

5-6 広報

【状況】

- 附属図書館の広報出版物として、広報誌「こだま」を年 3 回発行し、KURA に登録し、Web 上で公開している。また、平成 26 年 7 月には、過去分の「こだま」（著作権処理済のもの）を KURA に一括登録した。
- 冊子版の「こだま」については、新入生特集号を全新生に配付しているが、その他の号については、教員に配付するほか、来館者用に図書館内に置いている。また、利用者アンケートでは、「こだま」を「読んだことがない」と回答した人が 65%に上った（資料 8-1-質問 15）。
- メールマガジンとして全教員に随時送信していた「ひかり」は、平成 25 年 12 月に 100 号を以て配信を中止し、お知らせすべき事項、イベントがあるたびに、アカンサス・ポータル等を通じて、一斉送信を行うことに変更した。
- 平成 25 年 7 月からは、附属図書館公式 Facebook ページを開設し、SNS を活用した広報を開始した（表 5-2）。
- 「附属図書館概要」については、従来は 2 年に 1 回の発行としていたが、平成 23 年度からは、前年度の実施事業の報告的な意味合いも含め、年 1 回発行することに変更した。
- 「図書館利用案内リーフレット」は、全館情報をまとめたものを毎年 4 月に作成し、全新生に配付している。その他、「一般利用者向けリーフレット」、「英文版リーフレット」も作成し、閲覧カウンター等で配布している。
- 図書館ウェブサイトについては、平成 25 年度にデザインを更新した。

表 5-2 Facebook の閲覧数 (平成 27 年 7 月調べ)

	H25	H26
閲覧数	7,346	21,071
いいね!数	195	38

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

利用者アンケートによると、「図書館 Web サイトは利用者が自力で情報を見つけられるように作られている」という質問に対し、約 65%が「思う」「やや思う」と回答している一方、自由意見で出された意見を分析すると、「公式 Web サイトの改善」の要望も多く、今後の課題である。その他、「図書館の利用方法等に関する広報の充実」「留学生向け利用案内の充実」「利用者向けの読書案内の充実」への要望も多く、施設や資料の利用についての周知及び知的好奇心を満たす取り組みが今後の課題である。

5-7 利用者満足度

【状況】

- 利用者アンケート中の「サービスの質全般について評価をして 10 点満点で点数をつけてください」という質問（資料 8）について、「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」と比較すると、6.13 から 7.13 にポイントが上昇し、全般的な利用者満足度は高まった。
- 以下、具体的な質問について、前回と今回での満足度の比較を行った結果は表 5-3 のとおりである。

表 5-3 利用者アンケートにおけるポイントの変化

番号	質問	利用者アンケートのポイント数（10 点満点で比較）	
		H20	H26
Q9	文献検索等の講習会は役立っている	4.95	6.74 ※ただし、今回「参加したことがない」と回答した人が 72%だった。前回はこの選択肢がなかったため、相対的に「役立っている」と回答等した人が増えたことも考えられる。
Q10	図書館員は利用者からの学習に関する質問に回答できる知識を持つ	6.08	5.75 ※前回に比べると、図書館職員に対する

	ている		要望が増えている印象
Q13	ILL サービスは役立っている	5.75	8.04
Q14	図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしている	5.63	6.56
Q15	図書館の開館時間	5.79	5.30
Q16	図書館 Web サイトは自力で情報を見つけられるように作られている	5.85	6.85
Q17	学習や研究のために必要な蔵書	6.00	6.05
Q18	学習や研究のために必要な電子ジャーナル	5.71	5.98
Q19	オンライン蔵書目録	6.18	6.80
Q20	人に頼らずに資料に簡単にアクセスできる	5.94	6.60
Q23	図書館は安全で安心できる場所である	5.94	6.60

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

図書館のアメニティ（空調、トイレの老朽化等）を中心に、利用者アンケートの自由記述では多数の要望が出されている。しかし、前回報告書に比べて入館者数が増加している点を考えると、医学図書館の増改築、中央図書館のラーニング・コモンズの設置等、施設の整備と各種活動の活性化に伴い、全般的に利用者の満足度は高まっている。より良い環境を提供するため、引き続き、老朽化が進む施設の改修が必要である。

（注）冷暖房の老朽化については、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。また、中央図書館のトイレについては、平成 27 年度 3 月に 2 階、平成 27 年 9 月に 3 階の改修を行った。

6 学修支援

学修支援については、前回は独立した評価項目となっていなかったが、大学図書館の果たすべき機能として近年重視されていることを受け、今回から独立した評価項目とした。

6-1 情報リテラシー教育

【状況】

- 情報リテラシー教育として、平成 20～26 年度は表 6-1 のような活動を実施した。
- 「授業との連携」については、平成 18 年度以降、共通教育機構がカリキュラム改編を行った際に新しく設けられた「大学・社会生活論」及び「情報処理基礎」の中の 1 コマ又は 2 コマを図書系職員が担当し、全新入生を対象に情報リテラシー教育を行うことが定着している。図書館利用法の基本、蔵書検索、日本語学術論文の検索についての内容が中心で実習を含んでいる。授業は、情報サービス課の職員のみならず全図書系職員が分担して実施している。
- 図書館内で図書系職員が行う「レポート作成基礎講座」、「文献収集法講座」等の説明会・講習会を平成 21 年度末のラーニング・コモンズを設置後、定期的に行っている。
- 平成 24 年度以降は、留学生を対象としたオリエンテーションを国際交流関係の学生サークル等の協力を得て実施している。
- 職員による金沢大学附属図書館学術情報リテラシー教育推進 WG の活動により、平成 25 年度及び平成 26 年度東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテストで、附属図書館として、それぞれ優秀賞、最優秀賞を受賞した。
- 平成 26 年度に、OPAC plus の利用案内動画（日本語版、英語版）を作成した。

表 6-1 附属図書館における学修支援活動の推移 (平成 27 年 7 月調べ)

#	区分	名称		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	備考			
1	共通教育科目 選択科目の講師担当	大学・社会生活論	回数	14	14	14	14	14	14	14	全新生対象			
			人数	1,827	1,821	1,801	1,814	1,806	1,726	1,780				
		情報処理基礎	回数	32	35	35	35	35	35	35	全新生対象			
			人数	1,827	1,821	1,801	1,814	1,806	1,726	1,780				
		大学・学問論	回数	1	1	1	1	1	1	1				
人数	120		154	117	134	102	84	42						
2	授業・ゼミ等でのオンデマンド講習会等 * 依頼に応じて実施		回数	9	3	1	12	13	14	14				
			人数	131	42	2	231	379	332	336				
3	図書館職員による 講習会	レポート作成基礎講座	回数			5	6	9	6	6	H26は病院秘書 対象講習会 H23-24は大教 セ教員との共催			
			人数			38	43	31	10	49				
		文献収集法講座	回数				4	3	3	3				
			人数				21	14	25	15				
		その他の講習会	回数							2				
			人数							24				
		教員との共催による 講習会	回数				5	2				H23-24は大教 セ教員との共催		
			人数				73	13						
		4	学外担当者による 講習会等 * データベース 業者等が担当	SciFinder	回数	1	1	1	1	1		1	1	
					人数	53	54	50	60	47		45	22	
WoS(EndNote)	回数			3	2	2	2	2	2	4				
	人数			59	32	50	52	23	100	72				
Scopus	回数			2										
	人数			37										
EBMR	回数								1	1				
	人数								31	15				
UpToDate	回数									1				
	人数									10				
WestLaw	回数			2		1								
	人数			8		8								
ジャパンナレッジ	回数						1	1						
	人数						5	1						
日経テレコン	回数								2	1				
	人数								38	24				
教育著作権セミナー	回数				1			1			放送大学と共催			
	人数				35			37						
その他	回数		3				5							
	人数		78				115							
5	ビブリオバトル		回数						6	6	大教セ教員と 共催			
			人数						144	155				
6	留学生オリエンテーション		回数					2	6	5	学生サークルと 共催			
			人数					18	25	55				
合計			回数	64	60	60	81	84	96	94				
			人数	4,062	4,037	3,867	4,247	4,277	4,401	4,379				

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

オンデマンド講習会への参加者や、ビブリオバトルの参加者など利用者学修支援活動の利用者数は概ね増加傾向にある。しかし、データベースの利用に係る外部者による講習会では利用者数が少ない講習会もある。認知度の問題であるのか、ニーズの問題であるのか、今後の動向を注視する余地もあるが、多様な情報リテラシー教育の機会を提供しているといえる。

6-2 学修支援制度

【状況】

- 平成 25 年度以降、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の枠組みの中で補助金を獲得し、次のような学修支援活動を実施した。

① ラーニング・アドバイザー制度による授業関連の学修支援（平成 25 年度後期～平成 26 年度）

- ・ 学士課程学生の自学自習の充実及び学習の質を高めるため、教員の推薦を受けた院生や学類生 3、4 年生をラーニング・アドバイザーとして雇用し、図書館内のラーニング・コモンズや学類等で実施した。
- ・ 平成 27 年度以降、上記の授業関連のラーニング・アドバイザー制度は、別途金沢大学が採択されている「大学教育再生加速プログラム」の枠組みの中でアクティブ・ラーニング・アドバイザーが実施することとなった。附属図書館では、平成 26 年度までの方式を変更し、授業時間外における自学自習の充実及び学修の質の高度化に特化する形で、附属図書館内の学修支援デスクに常駐するラーニング・アドバイザーが学生からの質問に対応する対面形式による学修支援を実施予定である。

表 6-2 ラーニング・アドバイザーの実施状況（平成 27 年 7 月調べ）

		平成 25 年度（後期のみ）	平成 26 年度
LA 登録人数		34 人 ※学士 23 人、修士 10 人、 博士 1 人	37 人 ※学士 11 人、修士 20 人、 博士 6 人
利用科目数		12 科目	17 科目
実施述べ時間数		648 時間	541.5 時間
支援人数		796 人	3,202 人
活動 内容 (重 複あ り)	補習指導	5 科目	10 科目
	レポート指導	7 科目	10 科目
	実験事前事後支援	1 科目	2 科目
	プレゼン指導	0 科目	1 科目

②学修支援相談所（平成 25 年度～現在）

- ・ 学生の学習面での疑問や悩みに応え、アドバイスやサポートを行うために、大学教育開発・支援センターの協力のもと、中央図書館内に「学習支援相談所」を平

成 25 年 5 月から開設した。相談は、大学教育開発・支援センターの教員が担当している。

- ・相談日は、平成 25 年度は、週 2 回だったが、平成 26 年度からは、週 1 回開設している。相談日時が合わない場合は、個別対応も行っている。相談内容は、レポート・論文の書き方、プレゼンテーション方法、講義の受け方、ノートのとり方、テキストの読み方、資料や文献の探し方など多岐にわたり、実績は表 6-3 のとおりである。

表 6-3 学修支援相談所の実施状況 (平成 27 年 7 月調べ)

	H25	H26
相談所開設日及び個別相談実施 (回)	59	35
相談人数 (人)	19	15
相談件数 (件) * 1 人で複数件の相談あり	28	16

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

制度を導入してから数年であるものの、ラーニング・アドバイザーによる相談支援人数は非常に多い。また、科目内容も複数に及んでおり、自立型学修支援制度が本格化するなかで、利用機会の増加が見込まれる。他方で、教員による学修支援相談所については、前年度に比べて開催日・実施回が半減しているが、相談人数が劇的に減少しているわけでもない。利用者アンケート結果によれば、学修支援に対するニーズが比較的多く見られる。今後、日本人学生のみならず、外国人留学生にも対応できるような国際化への取り組みが課題である。

(注) 本学が文部科学省に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業で、留学生に対する自学自習の充実及び学修の質の高度化を図るため、附属図書館において留学生ラーニング・コンシェルジュ制度 (英文名称: Learning Concierge for International Students, 通称: LeCIS (レシス)) 制度を平成 27 年度以降後期から導入した。

6-3 学修環境

【状況】

- 平成 21 年度末に、中央図書館にラーニング・コモンズを設置し、グループ学習が可能な学修スペースを整備した。
- 平成 24 年度に、医学図書館の改装を行い、学修スペースの拡充を図った(資料 18)。
- 各館の学修支援スペースの利用状況は表 6-4 のとおりである。

表 6-4 附属図書館の学修支援関係スペースの利用状況（「附属図書館概要」）

中央図書館

部屋名	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AV室	214	3,507	222	3,820	259	3,067	269	3,186	300	4,017	314	4,082	292	4,158	291	4,359
演習室, グループスタジオ	328	2,108	384	2,332	587	3,552	574	3,162	806	4,854	1,012	6,408	1,021	6,790	998	6,313
オープンスタジオ(予約利用のみ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	126	1,592	80	818	90	1,422
ブックラウンジ(イベント 利用のみ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	703	24	925	46	1,183
合計	542	5,615	606	6,152	846	6,619	1,417	9,510	1,912	13,725	2,481	19,193	2,438	19,481	2,423	19,590

平成21年度まで演習室, 平成22年度よりグループスタジオ, 演習室, グループ学習室はまとめて計上

自然科学系図書館

部屋名	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AVホール	60	3,674	45	1,458	144	3,317	186	3,010	172	3,727	215	6,563	280	5,811	221	5,807
演習室	105	651	194	1,531	167	1,355	363	1,897	379	1,979	423	2,638	351	2,593	485	2,810
グループ学習室	693	2,042	424	1,458	554	1,588	699	2,125	720	2,262	1,030	2,794	565	1,756	707	2,142
研究個室	182	195	482	484	475	481	605	614	584	595	1,465	1,481	1,024	1,053	1,122	1,151
合計	1,040	6,562	1,145	4,931	1,340	6,741	1,853	7,646	1,855	8,563	3,133	13,476	2,220	11,213	2,535	11,910

演習室, グループ学習室, 研究個室はまとめて計上

医学図書館

部屋名	平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数
十全記念スタジオ	94	2,745	144	4,615
グループスタジオ	3,640	13,173	4,044	17,421
研究個室	709	709	1,441	1,441
オープンスタジオ(予約利用)	0	0	0	0
ブックラウンジ(イベント 利用)	3	1,070	7	252
合計	4,446	17,697	5,636	23,729

演習室, グループ学習室, 研究個室はまとめて計上

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

開館時間の延長などの影響もあるためか、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館のすべてにおいて、学生の利用者数は概ね増加傾向にある。ラーニング・コモンズのほか、グループ学習が可能な施設の利用状況は活発であるとともに、施設・スペースの内容や利用方法を必ずしも熟知していない学生がおり、主体的・自立的な学修環境を求める潜在的なニーズは多いと思われるため、さらに積極的に広報活動を行い、利用増を目指す必要がある。

(注) 本学が文部科学省に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業費及び平成27年度国立大学改革基盤強化促進費（施設補助金）で、平成27年度に中央図書館・医学図書館のラーニング・コモンズを拡大し、自然科学系図書館にラーニング・コモンズを設置する予定である。

6-4 学生との協働

【状況】

- 平成21年度に、学生の自主的な活動を図書館業務にも生かすため図書館学生ボランティア制度「とぼら」を設置し、主に中央図書館で、学生の視点による選書、展

示、イベントの企画等を行っている(表6-5)(表6-6)。

- 中央図書館では、サークルや授業と協働した資料展示や、授業と協働した「短歌コンクール」等を企画した。

表6-5 図書館学生ボランティア「とぼら」の人数の推移 (「図書館概要」)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人数	12	9	15	15	11	9

表6-6 図書館学生ボランティア「とぼら」の主要活動記録(「こだま」より抜粋)

	主な活動
H21	愛称を「とぼら」に決定 ブックラウンジにとぼらが選書し、利用者が気軽に読むことのできる本や雑誌を集めた「ほん和か文庫」を設置 オープンスタジオで Tobora Desk+ 開始(現在は休止)
H22	新着図書コーナー横に「とぼら選書コーナー」を設置 ブログ PechaKucha とぼら開始(現在は休止)
H23	新入生向けサポートデスク設置 ランチョンセミナーで活動報告(新入生勧誘イベント) ぶつくとくかふえ
H24	ランチョンセミナーで活動報告(新入生勧誘イベント)
H25	ランチョンセミナーで活動報告、活動報告パネル展示(新入生勧誘イベント) 自然科学系図書館に「ほん和か文庫」設置
H26	とぼらトーク in オープンキャンパス

【分析・評価】

評価: ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント:

図書館学生ボランティア「とぼら」に関しては、発表・公表の場、専門職体験型の環境を提供し、ブックラウンジやカフェスペースにおいて有効に機能している。ボランティアとしての経験の意義や企画の意義を見直すなど、人的資源であるボランティア学生数の確保とともに、活動内容に係る認知度の向上や企画趣旨の明確化などが今後の課題である。

6-5 関連イベント

【状況】

- 職員の情報リテラシー教育の実施及び企画に関する能力の向上を図るため、大学間連携共同教育推進事業「図書館機能強化プログラム」として、図書館職員を含む関係者を対象に表 6-7 のとおり講習会等を開催した。

表 6-7 情報リテラシー教育関連講習会等の実施状況

	講習会等	講師等 () は当時の所属	参加人数
H24	シンポジウム「大学図書館における学習支援のこれから」	山田政寛(九州大)、岡部幸祐(名古屋大)、村田勝俊(金沢大)	50
H25	学習支援と大学図書館－図書館職員が持つべき学習支援力とは何か－(平成25年度石川県大学図書館協議会との共催)	井上真琴(同志社大)	41
	アクティブ・ラーニング基礎理解研修	NKS能力開発センター	47
	「図書館機能強化プログラム」シンポジウム「大学図書館におけるこれからの学習支援：ラーニング・コモンズを超えて」	長澤多代(三重大)、鹿田正昭(金沢工大)、鎌田均(京都ノートルダム女子大)	53
H26	「図書館機能強化プログラム」講演会「大学職員のためのレポート作成指導法講座」	戸田山和久(名古屋大)、久保田進一(金沢大)	52

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

外部から講師を招くことで、他大学における知見を共有し、図書館職員を含む大学教職員に対する情報リテラシー教育に関する能力向上を図る目的で、平成24年度から実施されており、参加人数も安定している。内容は、当初は学修支援の方法論や枠組みなどのハード面での情報共有から、直近ではレポート作成などの具体的な教育内容などソフト面についても扱っている。引き続き、情報共有とスキル獲得の機会を設け、職員の能力向上を図る必要がある。

7 地域連携・社会貢献

7-1 県内公共図書館等との連携

【状況】

- 石川県内図書館横断検索（システム提供：石川県立図書館）に参加し、石川県内他図書館の蔵書の横断検索が可能となっている。
- 石川県立図書館が中心となって実施している石川県立図書館協力宅配便事業に参加し、平成26年現在、県内公共図書館38、県内大学図書館5、他県図書館4と相互貸借及び文献複写を行っている(表7-1)。
- 平成25年度末には金沢市図書館、金沢美術工芸大学附属図書館と「金沢大学附属図書館、金沢美術工芸大学附属図書館及び金沢市図書館における貸出カードの共通使用に関する覚書」を締結し、平成26年度からは、これらの館の図書館利用券を本学の図書館利用券として利用することが可能となった。

表7-1 石川県内の公共図書館との相互利用件数の推移（平成27年7月相互利用係調べ）

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
貸借	依頼	43	60	170	211	137	89	266	357
	受付	97	122	80	67	88	212	271	337
複写	依頼	0	3	0	0	0	0	0	0
	受付	62	89	42	54	50	44	48	29

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

石川県内図書館横断検索システム及び石川県立図書館協力宅配便事業などに参加することによって、石川県内他図書館との連携は従来よりも確実に強化されてきている。利便性の向上の結果、金沢大学附属図書館と県内公共図書館との相互利用件数（貸借の依頼・受付など）も年々増加しており活動の成果が現れている。

7-2 一般市民の利用

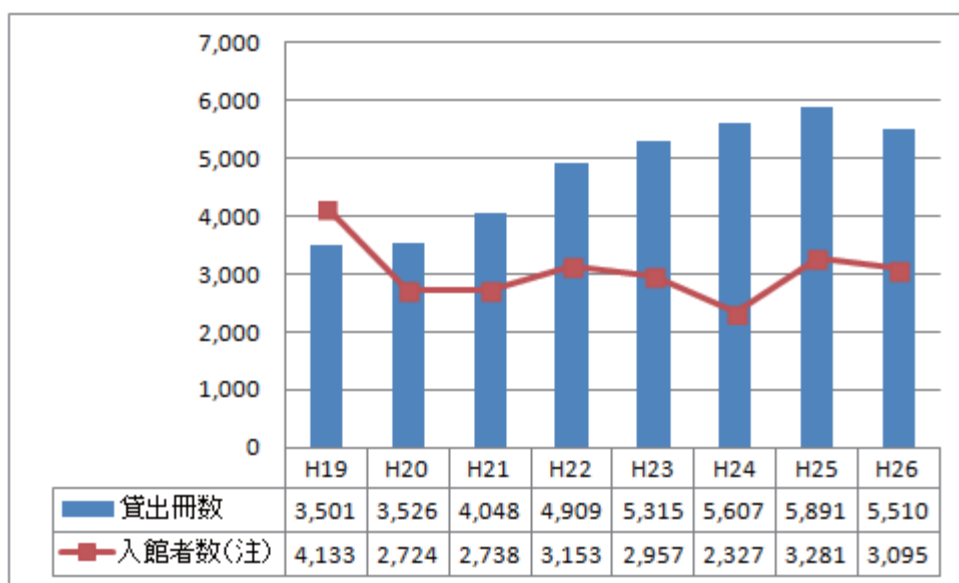
【状況】

- 「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」では、「地域住民の生涯学習を支援する空間の提供」「地域社会や国際社会との連携の推進とサービスの充実」を目標とし

て記載している。

- 各館への一般市民等の入館及び資料の館内閲覧については、従来から図書館利用券の発行なしで誰でも可能となっている。入館者数は、図 7-1 のとおりである。
- 来館者への資料の館外貸出については、従来から、北陸 3 県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施しており、年間貸出冊数は図 7-1 のとおりである。

図 7-1 一般市民への貸出冊数及び入館者数の推移（「図書館概要」）



(注)「一般利用者来館受付票」記入数

【分析・評価】

評価： ■非常に良好である □概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

従来から一般市民の金沢大学附属図書館への入館及び資料の館内閲覧は図書館利用券の発行無しで可能である。また、来館者への資料の館外貸出については北陸 3 県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施している。この結果、一般市民の入館者数は 3,000 人前後、年間貸出数 5,000～6,000 冊前後で推移し、一般市民の利用が定着しており、地域に貢献している。

7-3 イベント等

【状況】

- 平成 24 年度以降、環境学コレクションの周知のために、地域の小中学生を対象として金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクールを開催し、各年、表 7-2 のとおり作品

の応募があり、優秀作品については、学長大賞、附属図書館長賞等の表彰を行った。
また、応募を考えている小中学生を対象として「なんでも相談会」を行い、毎年、
本学の学生と図書館職員の協働で指導を行ってきた。

- 平成 25 年度以降、ECO 学習コンクールの PR の一環として、毎年 8 月に開催される「いしかわ環境フェア」に出展している。
- ECO 学習コンクールの実施による地域社会の学術情報共有の新たな場の構築等、情報通信の利活用を通じて教育研究活動の普及発展に貢献したことが評価され、附属図書館長が、平成 25 年度に北陸情報通信協議会表彰を受賞した。
- 一般市民等を主な対象とした講演会として、平成 21 年度までは暁烏文庫の寄贈者暁烏敏(あけがらす はや)師の功績をたたえる暁烏記念式及び記念講演会を開催していたが、平成 22 年度以降は、宗教以外のテーマを含むシンポジウムを 2 年に 1 回程度実施することとし、表 7-3 のとおり実施した。

表 7-2 ECO 学習コンクール応募数の推移

	H24	H25	H26
小学校	44	34	29
中学校	19	27	19

表 7-3 附属図書館シンポジウムの実施状況

	テーマ	講演者	参加人数
H23	芸術の普遍性を創る風土（ローカルティ）の衝撃	秋元雄史（金沢 21 世紀美術館長）	70
		日比野克彦（東京藝術大学教授）	
		宮下孝晴（金沢大学教授）	
H25	地球と人類の CO2 物語	神谷信夫（大阪市立大学教授）	71
		中澤高清（東北大学客員教授）	
		本多了（金沢大学助教）	
		鳥谷真佐子（金沢大学特任助教）	

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

平成 24 年度から地域の小中学生を対象として ECO 学習コンクールを開催しており、地域のイベントとして定着しつつある。本活動は北陸情報通信協議会表彰を受賞するなど地域からも高く評価されている。また、一般市民を対象とした大学図書館らしいテ-

マのシンポジウムを適切に企画・実施している。

7-4 所蔵貴重資料等の提供

【状況】

- 附属図書館所蔵の貴重資料は、「金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項」(資料 19)に基づいて選定されており、中央図書館特別資料室、自然科学系図書館貴重資料室、医学図書館十全記念貴重資料室に保存している。
- 貴重資料の書籍等への転載、テレビ等での放送、展覧会等での展示のための貸出状況は、表 7-4 のとおりである。
- 貴重資料の電子化・インターネット公開については、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトにより実施しており、以下の資料が利用可能となっている。平成 26 年度末現在、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている附属図書館所蔵資料は表 7-5 のとおりである。

表 7-4 貴重資料の貸出数の推移(「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」及び平成 27 年 7 月調べ)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
申請数(件)	3	データなし	18	27	19	20	30	38

表 7-5 金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている附属図書館所蔵資料数(平成 27 年 7 月調べ)

平成 26 年度末

資料名	登録件数
第四高等学校教育掛図	211
石川師範学校郷土教育アルバム	14
金沢城古写真	11
成瀬日記	57
金沢医学図書館図面	67
儀式風俗図絵	24
加賀藩年中行事図絵	39
計	423

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

金沢大学附属図書館所蔵の貴重資料のメディアへの提供や展覧会等への貸出件数は確実に増加しており、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトの効果も大きいと推察される。今後は、資料館と協働で、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムの一般市民への認知度やアピール効果について調査するなど、本学が所蔵する貴重資料の公開の促進について検討が必要である。

7-5 環境への取り組み

【状況】

- 平成 24 年 7 月に、いしかわ事業者版環境 ISO 登録事業所として石川県の登録を受け、地球温暖化防止につながる活動を継続している。
- 平成 26 年度、先駆的・模範的な環境保全活動に積極的に取り組み、顕著な成果があった事業者として石川県知事から「いしかわ事業者版 ISO 優良活動表彰」を受けた。館内コンピュータサーバを総合メディア基盤センターのサーバ室に移転し、冷却用空調に係る電気使用量を削減するとともに、閲覧室や事務室の空調運転時間の短縮を実施したことで、電気使用量の削減に顕著な成果を上げたこと、さらに、いしかわ環境フェアへの出展、いしかわクールシェアの施設登録、環境に関する国内外の図書を集めた環境学コレクションの充実、小中学生を対象とした ECO 学習コンクールの実施等、多方面にわたる環境保全活動が評価されたものである。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

コンピュータサーバの移転、閲覧室・事務室の空調運転時間の短縮による電気使用量の削減など実務的な環境対策ばかりでなく、環境学コレクションの充実、いしかわ環境フェアへの出展、ECO 学習コンクールの実施など、利便性との両立も考慮しつつ、多角的視点から多方面にわたる環境保全活動を展開している。

○金沢大学図書館委員会規程

(平成16年4月1日規程第145号)

改正

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢大学附属図書館規程第7条第2項の規定に基づき、金沢大学図書館委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、金沢大学附属図書館に関する次の事項を審議する。

- (1) 規程等の制定及び改廃に関する事項
- (2) 運営に関する重要な事項
- (3) 学長が諮問した事項
- (4) 委員が提議した事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 附属図書館副館長
- (3) 附属図書館医学系分館長
- (4) 各研究域から選出された教授 各2人
- (5) 国際基幹教育院から選出された教授 1人
- (6) がん進展制御研究所から選出された教授 1人
- (7) 金沢大学センター長会議において選出された教授 1人
- (8) 新学術創成研究機構から選出された教授 1人
- (9) 国際機構から選出された教授 1人
- (10) 情報部長
- (11) 情報企画課長
- (12) 情報サービス課長
- (13) その他委員会が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第4号から第9号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長は、委員2人以上の要求があるときは、委員会を招集しなければならない。

4 委員長に事故があるときは、副館長が議長の職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、重要な議事については、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

3 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(作業部会等)

第7条 委員会に、専門又は特定の事項を審議するため、作業部会等を置くことができる。

(議事録)

第8条 委員会には議事録を備え、次の事項を記載しなければならない。

(1) 開会の日時及び場所

(2) 出席者の氏名

(3) 議事の要項

2 議事録は、次回の委員会で確認を得なければならない。

(事務)

第9条 委員会の事務は、情報部情報企画課において処理する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 5 月 15 日から施行する。

附属図書館利用者アンケート 集計結果概要(令和元年7月実施)

実施期間： 令和元年7月5日(金)～7月25日(木)
対象者： 金沢大学の学生、院生、職員

回答総数:407
前回と選択肢が異なる場合は備考欄に記載した。

問1:
図書館の中でいちばんよく利用する館を1つ選んでください。

	今回%		前回%	
中央図書館	273	67%	503	54%
自然科学系図書館	58	14%	265	29%
医学図書館	39	10%	69	7%
保健学類図書室	19	5%	84	9%
利用したことがない	18	4%	6	1%
合計	407	100%	927	100%

問2:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
図書館への来館頻度を教えてください。

	今回%		前回%		備考
ほぼ毎日	41	10%	206	22%	
週に3～4回	66	16%			
週に1～2回	114	28%	405	44%	週1回程度
月に数回程度	95	23%	233	25%	月1回程度
年に数回程度	52	13%	75	8%	3ヶ月に1回程度
試験期間中に利用する	13	3%			
利用したことがない	19	5%	8	1%	
未回答	7	2%			
合計	407	100%	927	100%	

問3:
図書館を利用する目的を次の中から選んでください。(複数選択可)

	今回%		【その他の内訳】	
自学自習	209	51%	ほん和カフェ	文献の複写
授業等の予習・復習	151	37%	イベント参加や運営	文献複写
資格試験勉強	40	10%	イベント実施	科研費による図書購入手続／KURA
定期試験勉強	102	25%	サークル活動(2)	講演会などでのAV教室の利用
図書の閲覧・貸出	290	71%	セミナー等	講義に係るAVルーム等の利用
雑誌・新聞の閲覧	77	19%	ミーティング(2)	英字新聞閲覧のため
電子ジャーナルの利用	25	6%	仕事	
電子ブックの利用	5	1%	公開講座などへの出席	
グループ学習	70	17%	十全記念スタジオのセミナー聴講	
インターネット・WiFi・プリントアウトの利用	64	16%	学修支援	
休憩	89	22%	学外文献入手	
利用したことがない	15	4%	文献のコピー	
その他	19	5%		
合計	1156			

問4:
附属図書館Webサイトから電子資料にアクセスする頻度を教えてください。

	今回%		前回%		備考
ほぼ毎日	13	3%	29	3%	
週に3～4回	28	7%			
週に1～2回	63	15%	141	15%	週1回程度
月に数回程度	170	42%	178	19%	月1回程度
年に数回程度	74	18%	208	22%	3ヶ月に1回程度
試験期間中に利用する	7	2%			
利用したことがない	43	11%	371	40%	使ったことがない
未回答	9	2%			
合計	407	100%	927	100%	

問5:
現在図書館で行っている次のサービスをご存知ですか。知っているものを選んでください。（複数選択可）

	今回%	
他の図書館への文献複写依頼, 他図書館からの借用サービス(ILLサービス)	303	74%
図書館職員が担当する「情報処理基礎」「大学・社会生活論」などの授業	185	45%
図書館が開催する「ランチョンセミナー」や文献検索などについての講習会・ワークショップ	228	56%
ゼミ・研究室単位の図書館利用説明会	51	13%
留学生のための図書館利用説明会	91	22%
ラーニング・アドバイザー(LA)による学修支援相談	232	57%
留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)による学修支援相談	141	35%
アカデミック・アドバイザー(AA)による学修支援相談	114	28%
図書リクエスト(希望図書の購入)	235	58%
附属図書館報「こだま」	197	48%
金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)	189	46%
未回答	14	3%
合計	1980	

問6:
現在図書館で行っている次のイベント・展示等の活動をご存知ですか。知っているものを選んでください。（複数選択可）

	今回%	
ブックリユース市	288	71%
図書館ビブリオバトル	291	71%
EU情報センター(Eui)関連イベント(EU資料展, 図書館グローバルカフェなど)	164	40%
英会話を楽しむイベント(English Hour!など)	250	61%
本の企画展示	222	55%
図書館学生ボランティア「とぼら」の企画イベント(ほん和か文庫, とぼらシアター, とぼら読書会など)	194	48%
未回答	22	5%
合計	1431	

これからの質問は、図書館のサービス、資料、施設・設備などについて利用者のみなさまの満足度をお聞きするものです。

問7:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
図書館の開館時間は適切ですか。

	今回%		前回%	
満足	134	33%	226	24%
やや満足	113	28%	153	17%
普通	80	20%	185	20%
やや不満	32	8%	248	27%
不満	11	3%	108	12%
利用したことがない	18	4%	7	1%
未回答	19	5%		
合計	407	100%	927	100%

平均値		
R1	H26	H20
6.77	5.3	5.79

問8:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
図書館の開館日は適切ですか。

	今回%		前回%	
満足	156	38%	228	25%
やや満足	81	20%	182	20%
普通	82	20%	216	23%
やや不満	35	9%	213	23%
不満	10	2%	81	9%
利用したことがない	18	4%	7	1%
未回答	25	6%		
合計	407	100%	927	100%

平均値	
R1	H26
6.86	5.57

問9:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
窓口で図書館職員が行う貸出・返却や利用案内等、調べものの相談への対応に満足していますか。

	今回%		前回%	
満足	181	44%	374	40%
やや満足	68	17%	236	25%
普通	78	19%	239	26%
やや不満	9	2%	27	3%
不満	3	1%	5	1%
利用したことがない	41	10%	46	5%
未回答	27	7%		
合計	407	100%	927	100%

平均値	
R1	H26
7.45	7.15

問10:
他の図書館への文献複写依頼、他図書館からの借用サービス(ILLサービス)は役立っていますか。

	今回%		前回%		備考	平均値		
満足	77	19%	260	28%	思う	R1	H26	H20
やや満足	42	10%	122	13%	やや思う	7.08	8.04	5.75
普通	46	11%	17	2%	どちらともいえない			
やや不満	6	2%	12	1%	やや思わない			
不満	4	1%	2	0%	思わない			
利用したことがない	209	51%	514	55%	利用したことがない			
未回答	23	6%						
合計	407	100%	927	100%				

問11:
図書館職員が担当する「情報処理基礎」「大学・社会生活論」などの授業は役立っていますか。

	今回%		前回%	
満足	56	14%	175	19%
やや満足	67	16%	305	33%
普通	82	20%	156	17%
やや不満	6	1%	80	9%
不満	4	1%	54	6%
利用したことがない	170	42%	157	17%
未回答	22	5%		
合計	407	100%	927	100%

平均値	
R1	H26
6.53	6.21

問12:
図書館が実施する「ランチョンセミナー」や文献検索など利用者向けの講習会・ワークショップは役立っていますか。
(H26時の設問: 図書館内で実施している利用者向けの文献検索等の講習会等は役立っていると思いますか?)

	今回%		前回%		備考	平均値		
満足	34	8%	74	8%	思う	R1	H26	H20
やや満足	27	7%	104	11%	やや思う	6.94	6.74	4.95
普通	33	8%	53	6%	どちらともいえない			
やや不満	2	0%	17	2%	やや思わない			
不満	0	0%	7	1%	思わない			
利用したことがない	287	71%	672	72%	参加したことがない			
未回答	24	6%						
合計	407	100%	927	100%				

問13: 「ラーニング・アドバイザー(LA)」「留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)」「アカデミック・アドバイザー(AA)」による学修支援相談は役立っていますか。

	今回%	
満足	22	5%
やや満足	20	5%
普通	22	5%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
利用したことがない	317	79%
未回答	26	6%
合計	407	100%

平均値
R1
7.00

問14: オンライン蔵書目録(OPAC plus)は、使いやすいですか。

	今回%	
満足	75	18%
やや満足	97	24%
普通	111	27%
やや不満	28	7%
不満	4	1%
利用したことがない	68	17%
未回答	24	6%
合計	407	100%

前回%			備考			平均値		
			R1	H26	H20			
239	26%	思う	6.34	6.8	6.16			
297	32%	やや思う						
125	13%	どちらともいえない						
67	7%	やや思わない						
18	2%	思わない						
181	20%	使ったことがない						
927	100%							

問15: 附属図書館のWebサイトは、必要な情報を見つけやすいですか。
(H26時の設問: 図書館Webサイトは、利用者が自力で情報を見つけられるように作られていると思いますか?)

	今回%	
満足	51	13%
やや満足	90	22%
普通	148	36%
やや不満	43	11%
不満	6	1%
利用したことがない	43	11%
未回答	26	6%
合計	407	100%

前回%			備考			平均値		
			R1	H26	H20			
256	28%	思う	5.81	6.85	5.85			
347	37%	やや思う						
122	13%	どちらともいえない						
77	8%	やや思わない						
14	2%	思わない						
111	12%	利用したことがない						
927	100%							

問16: 図書館の広報誌(附属図書館報「こだま」)の内容に満足していますか。

	今回%	
満足	27	7%
やや満足	38	9%
普通	99	24%
やや不満	6	1%
不満	0	0%
利用したことがない	211	52%
未回答	26	6%
合計	407	100%

前回%	
65	7%
140	15%
109	12%
7	1%
5	1%
601	65%
927	100%

平均値	
R1	H26
6.01	6.55

問17: 金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)は、学修・研究に役立っていますか。

	今回%	
満足	36	9%
やや満足	34	8%
普通	71	17%
やや不満	15	4%
不満	1	0%
利用したことがない	223	55%
未回答	27	7%
合計	407	100%

前回%			備考			平均値	
			R1	H26			
90	10%	思う	6.13	7.08			
91	10%	やや思う					
41	4%	どちらともいえない					
12	1%	やや思わない					
5	1%	思わない					
688	74%	利用したことがない					
927	100%						

問18：
図書館の各種サービスについて、ご意見、ご提案等がありましたらご自由にお書きください。
129件

問19：
学修や研究のために必要な紙の図書や雑誌は充実していますか。

			前回%			備考			平均値		
今回%									R1	H26	H20
満足	59	14%	172	19%	思う				5.95	6.05	6
やや満足	112	28%	377	41%	やや思う						
普通	100	25%	152	16%	どちらともいえない						
やや不満	48	12%	117	13%	やや思わない						
不満	12	3%	68	7%	思わない						
利用したことがない	44	11%	41	4%	利用したことがない						
未回答	32	8%									
合計	407	100%	927	100%							

問20：
学修や研究のために必要な電子ジャーナルやデータベースは充実していますか。

			前回%			備考			平均値		
今回%									R1	H26	H20
満足	42	10%	124	13%	思う				5.64	5.98	5.71
やや満足	74	18%	254	27%	やや思う						
普通	98	24%	134	14%	どちらともいえない						
やや不満	41	10%	93	10%	やや思わない						
不満	15	4%	45	5%	思わない						
利用したことがない	106	26%	277	30%	利用したことがない						
未回答	31	8%									
合計	407	100%	927	100%							

問21：
学修や研究のために必要な電子ブックは充実していますか。

			今回%			平均値		
						R1		
満足	36	9%				6.13		
やや満足	34	8%						
普通	71	17%						
やや不満	15	4%						
不満	1	0%						
利用したことがない	223	55%						
未回答	27	7%						
合計	407	100%						

問22：
図書館の所蔵資料について、ご意見、ご提案等がありましたらご自由にお書きください。
66件

問23：
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
冷暖房の実施時期や設定は適切ですか。

			今回%			平均値		
						R1		
満足	93	23%				5.86		
やや満足	73	18%						
普通	98	24%						
やや不満	69	17%						
不満	19	5%						
利用したことがない	17	4%						
未回答	38	9%						
合計	407	100%						

問24:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
個人学修のための机・椅子の数は十分ですか。

	今回%	
満足	96	24%
やや満足	56	14%
普通	99	24%
やや不満	70	17%
不満	13	3%
利用したことがない	34	8%
未回答	39	10%
合計	407	100%

平均値
R1
5.91

問25:
図書館内のほん和かふえ。・プラタナスカフェの広さは十分ですか。

	今回%	
満足	56	14%
やや満足	48	12%
普通	91	22%
やや不満	91	22%
不満	13	3%
利用したことがない	74	18%
未回答	34	9%
合計	407	100%

平均値
R1
5.29

問26:
問1で「よく利用する」と回答した館についてお答えください。
図書館内のオープンスタジオ・国際交流スタジオ・グループスタジオは使いやすいですか。

	今回%	
満足	67	16%
やや満足	71	17%
普通	87	21%
やや不満	7	2%
不満	6	2%
利用したことがない	133	33%
未回答	36	9%
合計	407	100%

平均値
R1
6.56

問27:
図書館の施設・設備・環境について、ご意見、ご提案等がありましたらご自由にお書きください。
特にほん和かふえ。の広さや座席数、メニューなどについてご意見をお願いいたします。
121件

問28:
金沢大学附属図書館のサービス、資料、施設・設備全般について評価して、
10点満点で点数をつけてください。

	今回%	
1	1	1%
2	1	1%
3	2	1%
4	7	2%
5	34	8%
6	41	9%
7	97	24%
8	115	28%
9	50	12%
10	21	5%
未回答	38	9%
合計	407	100%

平均値		
R1	H26	H20
7.35	7.63	6.13

問29：あなたは図書館のサービスで何を重視しますか。次の中から3つまでお選びください。

	今回%		【その他の内訳】 温度などの環境 開館時間 電子ジャーナル充実のため 駐車場 Comparing to libraries in other universities
1. 静かで集中できる環境	286	25%	
2. グループ学習・研究のためのスペース	91	8%	
3. 紙の図書や雑誌の充実	269	24%	
4. 電子ジャーナルやデータベースの充実	137	12%	
5. 電子ブックの充実	64	6%	
6. 休憩のための設備・スペース	124	11%	
7. 交流イベントや各種展示企画	31	3%	
8. パソコンやインターネットの利用環境	107	9%	
9. その他	5	0%	
未回答	18	2%	
合計	1132	100%	

問30：今後、図書館にどのようなサービスや資料、設備があればいいと思いますか？
また、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

80件

問31：あなたの身分を次から選んでください。

	今回%		【その他の内訳】 ポスドク 元教員 協力研究員 博士研究員 客員研究員 技術補佐員 事務補佐員 総合教育部 別科生 特別聴講学生 研究生 科目等履修生
1. 学類生(1年)	94	23%	
2. 学類生(2年)	40	10%	
3. 学類生(3年)	44	11%	
4. 学類生(4年以上)	38	9%	
5. 大学院生(修士課程)	21	5%	
6. 大学院生(博士課程)	10	2%	
7. 教員	48	12%	
8. 事務職員	37	9%	
9. 技術職員	14	4%	
10. その他	17	4%	
未回答	44	11%	
合計	407	100%	

問32：学生の方にお尋ねします。あなたの所属を選んでください。

1. 人間社会学域	147
2. 理工学域	47
3. 医薬保健学域	42
4. 人間社会環境研究科	11
5. 自然科学研究科	14
6. 医薬保健学総合研究科	11
7. 先進予防医学研究科	1
8. 連合大学院連合小児発達学	0
9. 法務研究科(法科大学院)	0
10. 教職実践研究科	0
11. 新学術創成研究科	2
12. 上記以外	41

問33：職員の方にお尋ねします。あなたの所属を選んでください。

1. 人間社会研究域	31
2. 理工研究域	20
3. 医薬保健研究域	23
4. 国際基幹教育院	8
5. 附属病院	12
6. 附属研究所・その他	7
7. 附属学校園	2
8. 事務局(室を含む)	17
9. 上記以外	42

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

資料9[1-4]図書館業務用システム等に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	アカンサスのホーム画面からOpacに直結するボタンがあると使いやすい。
2	中央	学類生(2年)	個人的に、検索した時に開架の本だけが出てくると嬉しい。
3	中央	学類生(3年)	OPACplusが、タイトルなどを一言一句違わず正確に入力しないと検索にひっかからないのが少し面倒。
4	中央	学類生(4年以上)	opacでもう少し単語で調べた際に一字一句一緒じゃないと検索でないのではなく、にた内容を含むものを全部だしてもらえると嬉しい。
5	中央	大学院生(修士)	所属している研究室に所蔵されている文献であったとしても所蔵先の表記が複数あり、誤って借りられない文献だと判断してしまう。学生目線のシステムになっていないため、もう少し学生が使いやすい、わかりやすい表記にいただきたい。
6	中央	未回答	OPACでの図書の所蔵箇所がわかりにくくなった。特に複数の研究室をまとめた表示(人社・人間科学系など)だととても探しにくい。
7	自然	大学院生(修士)	OPACのキーワード検索がどのような基準でヒットしているのかわからないため、キーワードを打ってもヒットしないことがあります。 メールで貸出期限を送ってくれるシステムはありがたいです。 研究室貸し出しの本を借りたいときにどうして良いかわからないので、明記して欲しいです。
8	自然	大学院生(博士)	(OPACで)所在が研究室所蔵の場合に、どこにあるかももう少し明確にしてほしい。略称が何を指しているのかわからないし、どこの棟の何階にあるかもわからない。場所によっては直接確認に行くことも可能なはずだが、現時点だと他学部の場合は借用申込しなくてはならず大変である。
9	中央	教員	OPACで文献を検索する際、情報を入力してもうまくヒットしてくれないことがある。
10	自然	技術職員	Webでの書籍の検索について、十進分類の番号に当てはまる書籍の一覧をダウンロードできれば便利です。
11	保健	技術職員	蔵書検索のページがなかなか探せず時間がかかるので、もっとわかりやすく辿り着けるようにしてほしい。
12	中央	教員	オンラインサービスの頁が使いにくい。まず「あなたへのお知らせ」が目飛び込んでくる形になっており、使いたいサービスに関する内容が頁の下部に配置されているため、一度スクロールしなければならない煩わしさがある。両者を一目で確認・活用できるデザインにできないか。
13	自然	学類生(4年以上)	文献検索が楽になるサービス

資料9[2-2]図書の整備に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(4年以上)	図書リクエストについて、紙と電子ブックとを分けてみたかどうか。
2	中央	学類生(4年以上)	図書リクエストでリクエスト可能な書籍の明確な基準を設けてほしい。専門書籍、特に大部の歴史資料や図版などになると価格も高額となるためおいそれと買ってこれとはいえない。どの程度までであれば購入可能かという指標がほしい。
3	自然	大学院生(修士)	もっと読みたい本がたくさんあるが、リクエストで購入希望が出せるので助かっている。
4	中央	学類生(3年)	クラシック音楽のCDがもっとあると良いです。
5	中央	事務職員	中央図書館にEXCEL操作関係の図書が増えると嬉しいです。
6	中央	学類生(3年)	青チャートを置いて欲しい
7	中央	大学院生(修士)	学術書をもう少し充実してほしい
8	医学	学類生(4年以上)	新しい教科書を増やしてほしい。
9	医学	教員	基本的リファレンス資料が、文理問わず欠けている。大学の教育研究水準を引き下げている。
10	中央	学類生(1年)	もっと資格をとる向けの図書をたくさん集めてください
11	中央	事務職員	資格試験の問題集・過去問題集
12	中央	学類生(1年)	今後の就職活動で必要とされてくるスキルなどや、身に着けると役立つ技能などがわかりやすく理解できる資料。
13	自然	事務職員	大学図書館なので、専門書中心は理解できるが、実用や娯楽目的に少しでよいので使えるとありがたい。近くにそうした施設があればよいが街なかから距離もあるので、どうにかならないか
14	中央	学類生(1年)	欲しい文学の本が見つづらい 大きい本だけでなくもう少し手に取りやすい小説があると良いなと思いました
15	中央	学類生(1年)	小説がもう少し増えると嬉しい。
16	中央	学類生(1年)	土曜日、日曜日でも利用できるスペース。 小説を増やしてほしい。
17	中央	学類生(2年)	小説をもっと増やしてほしい。
18	中央	学類生(3年)	小説をもっと置いて欲しいです。
19	中央	学類生(4年以上)	金沢大学の卒業生である井上靖の書籍があまり充実していないように感じます。特に、井上靖の自伝3部作のうち「しろばんば」「北の海」はあるのに「夏草冬波」がないのは井上靖の卒業校として恥ずかしいと思います。
20	中央	事務職員	現代の小説が少ない。
21	中央	未回答	堅い本も大事だけど、気軽に手に取れる小説がもっと増えればもっと行きたいと思う
22	中央	学類生(1年)	新しい本を増やしてほしい。
23	中央	学類生(1年)	読んだことのない本に出会いたいです。 本にはカバーをしないのですか？
24	自然	大学院生(博士)	新しい本が多くあり、早く借りれるのであれば他に求めるものはありません。
25	医学	学類生(2年)	もっと最新の情報が記載されている図書や、最新の本があっても良いと感じる
26	医学	学類生(4年以上)	臨床医学の新書を増やしてほしいです。古い版がどうしても多いので、
27	中央	学類生(2年)	法学の基本書が、版が古いものばかりで使いづらいものが非常に多いです。最新版を入れてくださるとありがたいです。
28	中央	学類生(2年)	法学の基本書の最新版を置いて欲しいです。

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
29	中央	学類生(3年)	法学、政治学についてやや古いものが多い印象がある。
30	中央	学類生(3年)	もっと新しい心理系の本を入れて欲しいです。
31	中央	学類生(2年)	精神医学の本がもっと欲しい。 北部か中部にもう1つ図書館を建てるべきだと思う。開架に置ける蔵書が他の大学に比べて乏しい気がしている。
32	中央	教員	人文社会系の蔵書が少ないように思う。
33	保健	教員	専門著書や学術雑誌があまり多くないので取り寄せていただくことが多いです。
34	保健	大学院生(修士)	助産分野です、周産期医療や女性医療図書、雑誌、育児本、地域保健図書などが増えたらいいと思います。
35	中央	教員	電子ブックなどはどこまで必要なのか、と疑問に思っている。(使ったら便利なのかもしれないが)。 所蔵資料を見返して、強みをもう少し前面に出してもよいと思う。金沢大の強みになるような関連資料を集めるとか、積極的に進めてもよいと思う。今あるのかもしれないが、広く浅く、という印象を受ける。
36	中央	学類生(1年)	蔵書が少ない。もっと多くして欲しい。
37	中央	学類生(1年)	概ね資料の豊富さは大学図書館に相応しくそれなりによいと思う。今後も随時増えて行けばなお良いと思う。
38	中央	教員	とにかく文系の資料は質量ともに少ない。 地域創造学類に観光コースができるのにも関わらず、観光系の基本書が全然ない。
39	中央	教員	蔵書数が少なすぎる。新図書館の建設を希望します。
40	中央	教員	新しいサービスよりも、蔵書(電子ジャーナルを含む)を拡充してほしい。
41	中央	大学院生(修士)	できれば資料や文献の数が増やしたらいいと思います。
42	中央	大学院生(修士)	もっと増やしてください。
43	中央	特別聴講学生	資料は少ない。。。
44	自然	学類生(4年以上)	もう少し増やしてほしい
45	保健	学類生(3年)	少ないから増やしてほしい
46	中央	学類生(1年)	保健学類図書館に保健学系書籍以外の本も充実させてほしい。
47	中央	学類生(3年)	もっと英語の専門書を増やしてほしいです
48	中央	教員	英語の教科書・専門書が圧倒的に不足していると感じます。
49	中央	学類生(1年)	もう少し新しい文庫本が入るとよいと思います。三島由紀夫の本があまりにも少ないため、ぜひ、購入の検討をしていただきたいです。
50	中央	学類生(1年)	本屋大賞受賞作品など、メジャーな文庫本もおいて欲しい。(あっても付属学校の図書館においてあって読めない)
51	中央	学類生(1年)	学習に必要な本だけでなく、勉強の息抜きに気軽に読めるような文庫本を充実させてほしい。
52	中央	事務職員	新書も含めて文庫本を一定の書架に集中して配架するとよいと思います。 文庫本などは学生も知識を得る際の取っ掛かりとしてよく利用すると思いますので、現在は文庫コーナー以外の書架に配架されている資料(講談社学術文庫など)も同じ場所に集めるとよいと思います。
53	利用なし	事務職員	読みたい本がない
54	中央	学類生(1年)	留学生向けの本を多くしてください
55	医学	大学院生(博士)	医学図書館には、日本語勉強用書は少ないですので、多い種類を増えたほうがよいと思います。

資料9【2-3】雑誌(紙資料)の整備に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	鉄道ファンを定期購読して欲しいです
2	中央	学類生(3年)	雑誌コーナーをもっと拡充してほしい(discover japanなどの情報誌を入れてほしい)
3	中央	学類生(3年)	論文が少なすぎる。学類の図書室も含め金沢大学にあるものがあまりなくてゼミの発表の準備が十分に行えない。
4	中央	学類生(4年以上)	雑誌を資料検索すると同じ雑誌でも数十年前のものはあるが、最近のものがありません。
5	中央	学類生(4年以上)	比較的新しいテーマを研究で取り扱っていますが、雑誌論文で新しいものがなかなか所蔵されていません。どの本を新しく入れるかは難しいところですが、もう少し充実させていただきたく存じます。
6	中央	教員	学術的に重要な雑誌が配架されていない。どのようにして購入雑誌がきめられているのか、情報を開示して欲しい。また、専門の学術雑誌の購入選択については、教員のアドバイスを受ける体制が整っているのでしょうか。 先日、日本の歴史学で最も重要な『史学雑誌』の最新号が配架されていないことを知り、愕然としました。
7	中央	大学院生(博士)	・医学図書館で利用したい雑誌が、研究室在中となっており、院生の利用に不都合がある。図書館と研究室の両方に置いてほしい。 ・海外の医学雑誌をタイムリーに読めるように工夫してほしい。
8	保健	大学院生(修士)	抜けのある雑誌などがたまに見かけられます。その抜けている巻が欲しい時もあり、残念に思うときがあります。

資料9【2-4】電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	心理学系の雑誌を更に充実させてほしい。
2	中央	学類生(4年以上)	ジャーナルの量を増やしてほしい(jstorとか)
3	中央	教員	JSTORなどの電子ジャーナルの閲覧可能雑誌数を増やして欲しい。研究大学を標榜するのあれば、研究環境の整備を拡充していただきたい。研究の国際競争力の強化のための基盤整備を強く求めます。
4	中央	教員	電子ジャーナルを拡充してほしい。研究に必要な論文を読めず困っています。
5	中央	教員	予算的に厳しいことはよく理解していますが、可能であれば電子ジャーナルなどのデータベースをより充実させていただけたら有難いです。

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
6	中央	大学院生(修士)	Not satisfied with electronic database. IEEE database is very import in EE(Electrical Engineering), CNKI is one of the biggest electronic databases of Chinese paper. I think it would be better if library can try to buy the right of usage of them.
7	中央	大学院生(博士)	・医学雑誌の充実を図ってほしい。
8	自然	教員	電子ジャーナルの充実を希望します。徐々に購読誌が減っているのは残念です。
9	自然	未回答	イギリス化学会のジャーナルの閲覧ができず困っています。
10	保健	教員	学術的論文を増やしてほしい
11	保健	教員	フリーでアクセスできる学術的論文を増やしてほしい

資料9【2-5】金沢大学学術情報リポジトリに関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	大学院生(博士)	・これまで修了された医学部生の博士論文を、常時読めるようにしてほしい。整備が途中で途切れている。
2	中央	元教員	科研費による図書購入、KURAへの登録と活用などで、日頃大変お世話になっております。有難うございます。

資料9【2-7】コンテンツの電子化に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(3年)	アクセス数が少ないサイトをずっと使っている人がいて見れない場合がある。
2	中央	学類生(3年)	電子ブックは(丸善など)品揃えが読みたい本があまりないように思う
3	中央	大学院生(修士)	Japan Knowledge の同時アクセス数を増やして欲しいです。利用したい時にアクセスできないことがよくあります。
4	中央	教員	今後出版される本は確実に電子ブックに移行していくはずですので、紙書籍から電子ブックへの移行が不可欠と考えます
5	医学	学類生(4年以上)	病気がみえる電子版の貸し出しとか無理ですか…?

資料9【3-1】開館日・開館時間に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	朝の開館時間をもっと早くしてほしい。
2	中央	学類生(1年)	土日祝の開館時間をもう少し長くしてほしい。
3	中央	学類生(1年)	土曜日、日曜日にもっと遅い時間まで開館してほしい
4	中央	学類生(1年)	中央図書館の通常の平日の開館時間を、8時からにしてほしい。
5	中央	学類生(1年)	土日とも平日と同じように開館してほしい。
6	中央	学類生(1年)	図書館の開館時間を長くしてほしい。24時間稼働してほしい。
7	中央	学類生(1年)	土日とも22:00までやってたらとても嬉しい
8	中央	学類生(1年)	週末に開館になったら良いと思う
9	中央	学類生(1年)	24時間利用できる
10	中央	学類生(2年)	日曜も開けるか、土曜の開館時間を22時までにするか、平日24時間開館にしてほしい。
11	中央	学類生(2年)	もう少し朝早くから開館して貰えると助かります。(中央図書館)
12	中央	学類生(2年)	中央図書館の開館時間をもう少し早くしていただきたいです。
13	中央	学類生(2年)	日曜日にも開館してほしいです。
14	中央	学類生(2年)	24時間開放してほしい。海外では大学の図書館が24時間開放されていることは多いので、とても羨ましい。貸し出しはできなくても、勉強する空間を提供してほしい。
15	中央	学類生(2年)	24時間開放
16	中央	学類生(2年)	24時間使えるスペース
17	中央	学類生(3年)	日曜も開館してほしいです。
18	中央	学類生(3年)	テスト期間は土曜日の開館時間も長くしてほしい。
19	中央	学類生(3年)	開館時間が、24時間であるとありがたい(人員確保が難しいならば、入館時に機械でのカードタッチを可能にするといった感じで対応できないか?)
20	中央	学類生(3年)	開館時間の延長、開館日の増設を是非ご検討ください。
21	中央	学類生(3年)	最終バスが22:40なので試験期間中は22:30までやって頂けたら嬉しいなと思います。
22	中央	学類生(3年)	土日の開館時間を伸ばして欲しい。
23	中央	学類生(3年)	自然研図書館を土日営業させてほしい。土日とも夜まで営業してほしい
24	中央	学類生(3年)	1限の前に新聞が少しでも読めるように、開館時間をもう少し早めにしてほしいです。
25	中央	学類生(3年)	図書館の開館時間が短い。 大学の図書館なら24時間に近い形で開館するべき。 ICカードの意味を考えてほしい
26	中央	学類生(3年)	広島大学のように図書館を長く開館して欲しい。 公務員講座の後に学習ができると非常に助かる。
27	中央	学類生(4年以上)	祝日にも可能な限り開館してほしい。1日程度の休日ならともかく、五月の大型連休や先だっの譲位に伴う長期連休において一回も開館しないというのは利用者から見て不便極まりない。
28	中央	学類生(4年以上)	休業日になるべくなくしてほしい。休業に勉強をしたいと思う学生をサポートしてほしい。
29	中央	学類生(4年以上)	できればテスト期間以外も8時から開館してもらえると嬉しいです。
30	中央	大学院生(修士)	開館時間を延長していただけると助かります
31	中央	科目等履修生	土曜や休日にも数日開館してほしい。
32	中央	教員	開館時間と日数、とくに長期休暇期間中の延長が必要だと思います。

附属図書館利用者アンケート 自由意見（令和元年7月実施）

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。（各設問の内容は資料8参照）

	館(室)	学年等	記入内容
33	中央	事務職員	光熱水費とか人の配置とか不審者対応などが大変だとは思うので全館とは言いませんが、24時間化は検討していただいてもよいのではないかと思います。
34	中央	事務職員	・学年暦における夏休み・春休み・冬休み中の土日の開館日を増やしてほしい。平日の開館時間をもう少し遅くしてほしい。（常勤職員が休日・時間外に利用しようと思って利用できないことが多いので）
35	自然	学類生(2年)	開館時間を8時くらいにしてほしい
36	自然	学類生(2年)	開館時間が短い
37	自然	学類生(2年)	日曜日も開館してほしい、土曜日も22:00まで開館してほしい。
38	自然	学類生(3年)	他大学ではサービスを限定して夜間も開館して常時オープンとなる図書館もあると聞きますが、本学の図書館では不可能でしょうか。
39	自然	学類生(3年)	休日の開館時間をもう少し遅くして欲しいです。19:00までだと嬉しいです。
40	自然	未回答	自然研図書館は、8月、9月の土曜日が、ほとんど休館日になっています。もっと開館してください。
41	自然	教員	開館時間をもう少し早め(8時00か8時30)にほしい 学休期間の開館時間を延長してほしい(夜7時ぐらまで、窓口業務が限定されてもいいです)
42	自然	教員	開館時間を、バスの始発から終発までに延長して欲しい。朝早くきたり、夜遅い時間の居場所として図書館が機能すれば良いと思います。
43	医学	学類生(2年)	医学図書館のことについてしか知らないが、閉館時間が早い。そして土曜日は4時まで、日曜祝日は休館にされるのがとても不満。他の大学図書館、私立大学国立大学関係なく、24時間開館しているところもあるし、年中やっているところもある。24時間365日やって欲しいとまでは言わないが、せめて長期休み期間以外は土日祝日も通常通り開館して欲しい。 他の学部はわからないが、医学図書館は学生が利用する頻度が結構高いので検討していただきたいです。
44	医学	学類生(3年)	医学図書館についてですが、閉館時間を12時にしてほしいです。
45	医学	学類生(4年以上)	試験期間が不規則になっているので、出来るだけ医学図書館は日曜日も16時までとかで良いので開館してほしい。
46	医学	学類生(4年以上)	365日開館してほしい。開館時間も長くしてほしい。理想は24時間。
47	医学	学類生(4年以上)	無人開館にして開館時間を12時くらいまで延長して欲しい。
48	医学	学類生(4年以上)	医学図書館を、日曜も開館してほしいです！ 22時とは言わず24時、もっと言えば24時間自習スペース使えたら嬉しいです！
49	医学	技術職員	休日の開館時間を延ばしてほしいです。
50	医学	技術職員	休みでも長時間使える自習室があればいいと思います。
51	医学	教員	特に困っている訳ではないですが、以前居た京大や阪大に比べると開館時間や開館日が少ないように思います。また、人数比にもよるのかもしれませんが、イベントなどは角間ばかりという印象があります。
52	保健	学類生(3年)	保健学類の図書館をよく使用するのですが、日曜日は休館日のため、日曜日に勉強する所がなく困っています。
53	保健	大学院生(修士)	夜中遅くまで、22時まで空いているより、朝もう少し早めに空いている方が良いのではないのでしょうか？
54	保健	教員	社会人院生が多いので休日にゼミをしています。休日も開館していると助かります。
55	保健	教員	毎日は難しいと思いますが、早朝、夜間に開館している曜日があってもいいのではないかと思います。

資料9【3-2】来館利用及び貸出冊数に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(4年以上)	雑誌の貸出期間をもう少し長くして欲しい。(学術系)3日は少し短すぎる。
2	自然	学類生(2年)	学習に利用しているため本の貸出期間をもう少し長くしていただけると幸いです。
3	医学	技術職員	医学図書館の延長を中央図書館と同じ2回にほしい。 長期貸出も行してほしい
4	保健	学類生(4年以上)	貸し出し期間の延長回数の制限をなくしてほしいです。そして、予約がはいったときのみ返却期間を設けてほしいです。
5	中央	学類生(2年)	借りたい本が無かった時の対応として、その本が返された時に、アカンサスのメールを通じて、連絡してくれるシステムがあるといいと思います。 また、医学図書館の本に関して、貸出延長を2回までさせてもらえるとありがたいです。
6	中央	未回答	附属図書館や研究室の本を読みたいけど予約の仕方がわからない
7	中央	教員	講義用のレジュメを作成する時などには、現在の貸出上限を超える数の図書が必要になることがあります。私がかつて所属した大学では、大学院生や教員に対しては図書の貸出可能数を通常の学生よりも多く認めていたので、可能であれば同様の制度を導入していただけたら有難いです。
8	自然	大学院生(博士)	貸出延長を最大回数した後に、もう一度貸出をする場合は1日待たなければならないルールを、「返却後すぐに再貸出可能」に変えてほしい。誰かが読むかもしれないので、と係員に説明されたが、その1日の間に違う人が借りるほど図書館を利用している人は多くないと思われるし、本当に必要な予約しているはずである。
9	中央	学類生(3年)	研究室貸出によって貸出したいものがないことが多くあるので、より貸出しやすくなるようになってほしいと思います。
10	中央	大学院生(修士)	研究室所蔵の書籍をもう少しスムーズに借りることができる仕組み
11	自然	大学院生(修士)	借りたい本が研究室貸し出しになっており、借りることができません。どうしたら良いか明記して欲しい。
12	保健	技術職員	そのときに出される課題に関連した図書が、貸し出されていて、全然情報を得ることができないときがあり、困るときがある。何か対応策があると助かる。
13	自然	大学院生(修士)	在庫が無い場合があるので、貸出が頻繁にある書籍については、複数冊ご用意して頂けると有り難いです。
14	中央	学類生(3年)	以前、webでは貸出可になっているのに3週間ほど本棚に返却されていない本があった。カウンターの方に聞いてもわからないといわれた。

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
15	中央	未回答	読みたい本があるはずの場所にないことが、非常に頻繁には言わないまでも、しばしばあります。開架についてそれが起きる原因は各利用者に書架への返却をさせているからではないかと思います。海外の大学図書館では利用者には本を棚に返却させず、数カ所の返本棚に返させ、職員やアシスタントが後であるべき場所に正確に返すということをしていると思うのですが。
16	医学	学類生(4年以上)	試験期間になくなる本などがあるがそれは致し方ないと思います。
17	中央	事務職員	カバーフィルムがついていない図書を借りるとき、損傷しないか心配になってしまいます。すべての図書にフィルムがつくとありがたいです。
18	医学	事務職員	なかなか角間まで行けないので、他館でもCDやDVDを借りることができるようにしてほしいです。
19	医学	事務職員	他館にあるCDやDVDも借りることができるになれば嬉しいです。
20	中央	学類生(2年)	図書館に入りやすくしてほしい
21	中央	学類生(4年以上)	書庫に学生証のタッチで入れるようにするなど、すぐに実現することは困難ですが、書庫に行くのがもう少しスムーズになればいいかと思っています。
22	中央	大学院生(修士)	開架部分はともかく、書庫については認知度・利用度が低いのではないだろうか。利用方法や存在を知ってもらう工夫が望ましいと考えられます。
23	自然	学類生(3年)	これは個人的なのですが、書庫に行くのが少し面倒というか、億劫です。
24	中央	学類生(4年以上)	雑誌の内、一般的な週刊誌、月刊誌、時刻表などは新聞と一緒にほんわかふえ。の方に置いてはどうか。書庫へのパソコン持ち込みを明確に許可してほしい。現在のところ筆記用具は持ち込み可能とあるが、パソコンに関しては禁止されているのかされていないのかよく分からない。現在ではパソコンも一種筆記用具と同じレベルで使用されている事を考えると、パソコンないタブレットの持ち込みに関する規定整備が必要と思われる。書庫への複写設備整備を強く望む。重く大部な冊子を多数持って書庫から二階に上がり、一ページ複写してまた戻すというのは非常に非効率と言わざるを得ない。可能であれば書庫の各フロア、最低でも書庫の一階に複写設備を設置してほしい。入庫票の交付を自動で出来るようにしてほしい。
25	中央	学類生(1年)	特に新書の新しい本と古い本を分けて置いて欲しいです。ブックレットを集めて置いて欲しいです。
26	中央	事務職員	資料も充実しており、また私の母校の図書館であれば、書庫に配架されているような資料も開架に配架されているため、素晴らしいと感じています。
27	自然	学類生(2年)	機械学習に関する本を探し出すのに時間がかかってしまうので、言語別に分けて所蔵して欲しいです。
28	自然	学類生(4年以上)	カミキリムシ大図鑑や、ゴミムシ大図鑑などは貸し出し可能なのに、蛾類標準図鑑だけは貸し出し不可なのはとても不便に思う。図書館に蛾を持ち込むわけにもいかなないので、禁帯出ではなく貸し出し可能図書にしてほしい。

資料9[3-3]図書館職員が行う利用者サービスの質に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	蔵書が一般に販売されているかとその価格も提示してほしい
2	中央	未回答	案内が分かりにくい。
3	自然	学類生(4年以上)	メールを見ない人も多いのでメール以外の宣伝方法を増やす
4	中央	学類生(4年以上)	県内の公共図書館との間の相互貸借に関して、周知や利用法の説明が不十分に感じる。非常に良い制度であることは確かなので、制度そのものや利用方法の周知徹底を図ってほしい。
5	中央	未回答	中央図書館において、以前に、図書館利用券を保有している一般利用者が、図書の予約が可能であるにもかかわらず、一般利用であることを理由に予約を断られたことがあった。基本的な利用ルールは把握して対応してもらいたいし、思い込みで対応するのではなくその都合確認をした上で対応してもらいたい。
6	中央	教員	カウンターに居るのがバイトなのか、専門的質問のできる司書なのか利用者にはわからない。識別できるようにしてほしい。
7	中央	教員	「中央図書館」 関連資料をいつも調べてくださったり、図書購入などにご尽力下さって、大変感謝している。この点はとても重要で、研究の大きなブースターとなってくださっていると感じており、強みとしてこのまま発展させてほしい。 新聞の過去記事サービスなどを充実してほしい。 科研費で購入する図書はいちいち理由を書かずに消耗品にしてさせてほしい。 図書館コピー機の性能が悪い。これは金沢大学全体に言えるが、きちんとゼロックスの高機能タイプ(スキャナーなどもついた速いもの)を入れて欲しい。これも研究上極めて重要だが、教員の方があまりわかっていないので、むしろ図書館などが積極的にリードしてほしい。スキャナーなどを使って地図や図版を読み込み、フォトショップやイラレなどを駆使してそれを編集したり、よりよいものにする技術も、例えば総合メディアセンターなどと協力して、学生たちに教えるワークショップみたいにしていただければ助かる(今私は個人的に教えているが、毎年するのもしんどいし、学生たちはそうした環境がそもそもなければ教えてもすぐ忘れていく)。資料を複写して、それを電子化(PDF化)して送ってくれるサービスがあるとありがたい(しかし権利関係上難しい?)。 図書購入を教員発注できるようにしてほしい。これは他大学に比べてとても不便な点。 「自然研図書館」 図書館内のルールについて、張り紙が多すぎる(昨年感じた。今は知らないが)。 各ワークショップルームを使う際の決まりが細かく、それを厳密に適用しすぎているために、むしろとても使いにくい。スタッフの方々がもう少し柔軟に対応してほしい。 ルールを守らせることに躍起になっているように感じてしまって、あまり行かないようになっている。
8	中央	学類生(3年)	新刊紹介コーナーの設置
9	中央	科目履修生	話題の図書の紹介、テーマを絞った資料情報の提供。
10	中央	学類生(3年)	図書館内で利用可能な貸出す電子書籍用タブレットの設置

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
11	中央	学類生(1年)	別の大学では許可されている所もある中、なぜ図書館内での飲食が禁止されているのか。せめて飴は許可してほしい。
12	中央	学類生(1年)	蓋付であれば飲み物を飲んでも良いというルールが非常に助かります。
13	中央	学類生(1年)	医学図書館に消しカス用のゴミ箱が欲しい。 中央図書館1階資料館側の時計を直してほしい。
14	自然	学類生(3年)	消しかすのゴミ箱をもっとたくさん配置してほしいです。
15	中央	学類生(3年)	消しかすやゴミを捨てるゴミ箱を何箇所かに設置してほしいです。あくまで図書館で出たゴミを捨てるためのもので、飲食物のゴミなどは捨てられないように注意喚起して設置すればいいと思います。
16	自然	教員	テスト期間に2席分を1人で(荷物等で)占拠されることがあるので、混雑時は簡単なしきりなどを置いて、対応してほしいです
17	中央	学類生(4年以上)	図書館の机を濡れたタオル等でこまめに清掃してほしいです。
18	自然	学類生(3年)	中央図書館の個人自習席は荷物だけ置いてあって使えないことがとても多いです。
19	自然	未回答	学習スペースは私物を置きっ放しにした場所取りなどが多く見られ、少数の人に占有されている。場所取り対策をしてほしいです。
20	自然	未回答	中地区からはいずれの図書館も遠いので、中地区に図書返却ボックスを置いてほしい。
21	自然	学類生(4年以上)	図書返却期限のリマインドメールに、図書館オンラインサービスへのリンクを貼ってほしい。
22	中央	学類生(1年)	尋ねたときには届いていなかった忘れ物(特に貴重品)が後日届いたときに、メールなどでお知らせしてくれるサービス。
23	中央	学類生(3年)	職員さん方がいつも優しく丁寧で、利用していて気持ちいいです。ありがとうございます。
24	中央	研究生	今は満足です
25	中央	教員	すでに書いたので省略。 重ねて書くと、中央図書館のスタッフの方々のお仕事ぶりには常に感謝しているし、高い能力を発揮して下さっていると感じている。
26	医学	事務職員	医学図書館を利用しています。 職員の方が、分からないことを教えてくださったり丁寧に接してくださり、ありがたいです。
27	保健	大学院生(修士)	図書館の方とても優しいです。ありがとうございます。

資料9[3-4]ILL(他大学等図書貸借及び文献複写)に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	大学院生(博士)	海外ジャーナルからの取り寄せを、支援していただけるとありがたい。論文執筆用の資料についてのアドバイスを、スタッフの方からいただけるとありがたい。
2	中央	事務職員	たとえば中央図書館にある本を自然科学系図書館で受け取れるなど、金沢大学附属図書館間での取り寄せを可能としてほしい。(知らないだけで、可能なのかもしれません)
3	中央	学類生(4年以上)	とくになし。取り寄せられるから問題に感じたことがない。

資料9[3-5]イベントに関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	ほん和かふえのイベントスケジュールがあると嬉しい。
2	中央	学類生(3年)	企画展示を楽しみにしています。
3	中央	学類生(4年以上)	ほん和かふえでイベントをするのはあまり良い印象がありません。座席が埋まってしまって残念です。
4	中央	事務職員	図書館に対する要望とは若干ずれますが、割と教職員や学生が集まる場所で、かつ学外の方も訪れる場所だと思うので、教員の研究成果や学生の諸活動に関する広報・展示をもう少し増やせればよいのかな、と思います。 資料館展示や、今やっている女性研究者の展示ほど大規模なものは難しいでしょうが、学会で使ったパネル展示や文科系サークルの展覧会作品を使い回すぐらいのことはできそうに思います。せっかく総合大学でいろいろな人が多彩な活動をしているのだから、大会館やロビー等も含め、教職員や学生の活動に関する情報発信は(金と人手に無理のない範囲で、ですが)、もう少し積極的にやってもよい気がします。
5	医学	技術職員	ブックリユース市を医学部で開催してほしいです。角間まで行くのは大変
6	医学	事務職員	医学図書館で、教員の方が本を10冊ほど紹介してくださるコーナーを楽しみにしています。 各々の先生方の考えでチョイスされていて、普段自分では選ばない本を手にとることができます。 これからもこの企画を続けていただきたいです。
7	自然	事務職員	自然研図書館でのイベントが少ない気がするので、もっと増やしていただけたらと思います。(中央は遠い)
8	保健	学類生(3年)	ブックリユース市を保健図書館でも行ってほしい

資料9[3-6]広報に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(2年)	図書館の開館カレンダーをすぐ見られるように、ホームページのトップに貼って欲しいです。
2	中央	学類生(3年)	図書館のWebサイトで開館日カレンダーをトップで見られるようにして欲しいです。
3	中央	教員	基本的には各種サービスには満足していますが、Webサイトのトップページに、開館カレンダーを見やすく配置していただきたいです。開館時間を見るのに、いつも一苦労してしまいます。
4	中央	事務職員	図書館のwebサイトについてなのですが、開館カレンダーをもっと大々的に表示して頂けると助かります。月期休みのときなどはその都度開館時間がバラバラだったりするので、よく確認していますが、カレンダーまでたどりつのに時間がかかってしまうので…。
5	自然	学類生(3年)	2019年の開館カレンダーがウェブで見つけられません。
6	自然	教員	webサイトの、開館カレンダー、館内マップ、交通アクセス、お問い合わせ などへのリンク表示が見つけにくい。PCで閲覧する際も文字が小さく見つけにくい上に、スマホだと画面の一番下に表示されてしまう。
7	保健	学類生(3年)	図書館の開館日時、時間が何処にかいてあるか分かりずらいです。

附属図書館利用者アンケート 自由意見（令和元年7月実施）

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。（各設問の内容は資料8参照）

	館(室)	学年等	記入内容
8	保健	大学院生(修士)	ウェブサイトは、携帯からの操作がしやすくなったらいいなとか、一度ページ戻るボタン押すとログインからやり直しになってしまう事が…

資料9【4】学修支援に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	事務職員	サービスは相当充実していると思います。ただ、それがうまく活用できていない、周知がいきわたっていないのが惜しいと思います。事務職員にとっても有益な資料・情報が数多くあるので、職員向けの説明会を引き続き開催するのがよいかと思います。
2	中央	事務職員	職員も参加できる国際交流のイベントがあれば嬉しいです。宝町で働いているので、昼休みなどの時間では参加が難しく、終業後にも参加できるイングリッシュアワーなどの取り組みがあれば参加したいと思います。
3	医学	学類生(3年)	I am interested in regular English study course.
4	医学	学類生(3年)	I am interested in events in English language for example- medical title and practical skills in medicine.

資料9【5-2】一般市民の利用に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	医学	学類生(4年以上)	金沢大学生ではない人(具体的には近隣の高校生)の量が増えてきており、そのせいで自校の生徒が自由に使えないことに少し疑問に思う。
2	保健	技術職員	学内利用者以外でも貸し出し冊数を増やしてほしい。
3	中央	事務職員	研究などは行わない身分ですので、資料等の充実さはわかりません。が、引き続き、図書館の有効活用の方法などをアピールしていただければよろしいかと思います。 あと、充実した蔵書があっても特に学外からの利用が難しい。駐車場の整備・案内があると良いように思うが、各方面との調整が必要に思う。

資料9【7-1】施設・設備に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	トイレの数が少なく、混むことが多いので数を増やせるなら増やしてほしい
2	中央	学類生(4年以上)	ブックポストに入れると本が傷みそうで怖いです。クッションなど入れるといいと思います。
3	中央	学類生(1年)	自動貸し出し機で、軽い本を一冊おいただけでも、頻繁に「本が複数検出されました」と出てくるので、何度もやり直すのに手間がかかる。
4	中央	学類生(3年)	貸出の機械は1冊しか置いていないのに複数の本が検知されて、貸出完了までに時間がかかる。なんとかしてほしい。
5	中央	未回答	CDを聞ける場所をもっと増やしてほしい
6	中央	未回答	コンセントがある方の机にライトをつけてほしい 暗くて勉強づらい
7	医学	学類生(3年)	水が飲めるところがあればいいと思います
8	医学	学類生(4年以上)	荷物の持ち運びが非常に大変で負担が大きい。
9	自然	事務職員	荷物を預けられるロッカー 手荷物が多。置いていってはいけないうら、用意してもらえるとありがたい
10	中央	学類生(3年)	資料館と図書館との間についているドアを、中からも外からも使えるようにしてほしい
11	医学	技術職員	医学図書館1階の自販機のあるスペースを歩くと「きゅっきゅ」と音が鳴ります。気になります。
12	中央	学類生(1年)	自習席のコンセプトが使える席を増やしてほしい。図書館の窓が開いてるとき、外からの声がすぐ自習席に聞こえてきてうるさい。
13	中央	学類生(1年)	自動車の騒音対策
14	医学	学類生(3年)	カフェのクッキー美味しいのでもっと営業増やしてほしい
15	中央	学類生(3年)	スターバックス
16	中央	学類生(1年)	昼寝できるスペース
17	中央	学類生(3年)	休憩スペースの増設
18	中央	学類生(1年)	2階、道路側のコンセントが約1か月前から使用できなくなっていますが、自分もですが、自分以外の利用者も困っている様子があったので、利用できる状態にしてほしいです。もしくは、できないのであれば、入り口に掲示、メールに送信をしてほしいです。このようなことをしていたのであれば、十分に認知されていないと思います。
19	中央	学類生(1年)	パソコン用のコンセントを増やすともっと便利になると思います。
20	中央	学類生(2年)	もっとコンセントを利用できるスペースがあれば嬉しいです。
21	中央	学類生(3年)	パソコンの利用のためのコンセントが少ないので増設されるとうれしい。
22	中央	教員	学生からは、中央図書館の冷房が弱い、パソコンを充電するためのコンセントの数が足りないと言います。
23	中央	学類生(1年)	パソコンを使うときはコンセントがもっとあったらいいなと感じる。 ほんわかふえは狭いと感じる時がある。
24	中央	学類生(3年)	冷房がついているのかいないのか分からないほど微弱。 最近図書館で勉強する人が多い気がするの、机や椅子が増えるとうれしい。特にコンセント付きの机はすぐ埋まる
25	医学	学類生(4年以上)	電源の延長コードの貸し出し。
26	自然	学類生(4年以上)	テスト期間中に席が足りないことがよくあります。特に仕切りのある席を増やしていただければありがたいです。
27	自然	学類生(2年)	研究個室が増えてほしい
28	保健	教員	一人ひとりが集中して勉強できるスペースが広いといいと思います。
29	中央	教員	ほん和カフェ閉店時に利用できる自販機

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
30	中央	元教員	どこの図書館にも共通する問題ですが、書庫のスペース確保が喫緊の課題だと思います。
31	中央	学類生(1年)	書庫の匂いが苦手です。もう少し軽く出来ませんか。
32	中央	研究生	カフェについては一人でカフェを飲んでちょっと休みたい時に、カフェで勉強しているグループが多くて、席が見つからなくて、やめました。
33	中央	教員	ほん和かふえで購入しても座る場所がない。4人掛けのテーブルを一人で占拠して学習している学生がいたり、持ち込みの飲食物を広げている学生もいたりして、どうにかならないかと思う。カフェが置かれたあのスペースをどう利用させるのかということを図書館はもっと真剣に考えるべきではないか。
34	中央	学類生(1年)	ほん和かふえがもっと換気されると、とても良いと思う。
35	中央	学類生(1年)	ほん和かふえはもっと換気をするべきだと思う。長居できない。
36	中央	学類生(1年)	冷房の効が悪い、ほんわカフェの空気がこもっている
37	中央	学類生(3年)	ほんわかふえの空調をしっかりとしてほしい
38	中央	学類生(3年)	先ほど書いてしまったが、ほんわかふえの空気が悪いので、換気をしてほしい
39	中央	学類生(1年)	ほんわかカフェを開店時間をもう少し早くしてほしい。
40	自然	技術職員	難しいですが、自然研図書館にもほん和カフェがあればいいですね。
41	自然	教員	カフェは、できるだけ広くて良いです。自然研図書館にも、カフェの併設をお願いします。
42	自然	教員	カフェがあれば良い。しかも学期期間外も年中営業しているものを希望します。
43	中央	大学院生(修士)	エリアに限りがあるため仕方ないと思うが、やはり席数が少ないこと、長時間利用者がいるためなかなか席に座れないこと、テーブル席の個人利用の多さが挙げられる。最も問題なのは、中央図書館に併設されているため、文系学生の利用者が多いことはわかるのだが、最近理系学生の利用者が目立つことである。もちろん誰にでも開かれた公共空間であるため、大変喜ばしいことではあるが、自然研の方にそういった飲食のできる、談笑できるスペースが少ないことに原因があるのではないかと。混雑を分散させるためにも、学生にとってよりよい環境を整えるためにも、何か手を打っていただきたい。
44	中央	大学院生(修士)	「ほん和かふえ」非常に盛況なようです。「ほん和かふえ」の拡大と営業時間(営業日)延長を行い、学食の代替的存在になってくれたら…と考えています。
45	中央	教員	カフェは、より充実できると思うが、あそこだけをどうこうと言って、ほんわかふえや図書館だけのせいにするのは可哀想すぎる。これは金沢大学のそもそものロケーションの悪さや、他にカフェがない、などの事情がある。図書館だけでなく、大学全体で協議し、もっと「学内の場所を心地よくすることが、研究や勉強の質を高め、加速し、時に融合研究などのきっかけになる」ということを、大学上層部が知るべきだともう。科研をいくらとったって、こうした環境が充実している大学には負けるし、教員は流出する。文化や価値が生まれる場所として、国内外の「良いと言われている」大学のカフェや食堂を視察して真似してほしい。学生たちはそうした体験の意味をそもそもまだわかっていないので、彼ら・彼女らの満足度をあてにしている意味がない。
46	中央	事務職員	ほん和かふえ。のスペースはいつも比較的人が多いので広くなるに越したことはないと思いますが、館のスペース全体とのバランスを考えると、拡大は難しいかと思います。(むしろ、学内のいろいろな場所に「プチほん和かふえ。」的なスペースを作ることを考えてほしいですが、これは図書館に頼む話ではないですね。)
47	中央	学類生(1年)	カフェの商品の値段が非常に高い。ぼったくりと言う他ない。
48	中央	学類生(1年)	美味しくていつも食べてます。
49	中央	学類生(1年)	ほん和かふえのケーキの数が少なすぎると思います。
50	中央	学類生(1年)	ほん和かふえのサンドイッチ、マスタード抜きにできませんか。
51	中央	学類生(1年)	ほんわかふえのメニューでどれか覚えてないけど高いと思った
52	中央	学類生(1年)	ほんわかふえのごはん系のメニューを少し増やして欲しいです。
53	中央	学類生(1年)	ほん和かふえ。について 曜日限定のメニューがあるが、私は今日が何曜日からすぐに忘れてしまうため、カレンダーを設置して、今日が何曜日で何を注文できるかわかるようにしてほしい。 ケーキの値段を書いてほしい。 期間限定ホットサンドのことはカウンターに行くとかかるが、カウンターに行く前にメニューを見て考えるため、カウンター横にも今日のホットサンドについて分かるような紙が何かを掲示してほしい。 夏限定のフルーツスムージーがとても美味しかった。
54	中央	学類生(1年)	ほん和かふえ。の座席数が若干少ないと感じる。まだコーヒーしか飲んだことがないが、今のところ満足。冷凍のスコーンやクッキーを温めて販売してほしい。
55	中央	事務職員	ほん和かふえがとっても好きなので、学生のころからよく利用していました。ドリンクメニューは、普通のカフェの6、7割くらいの値段で飲めるのでとてもお得感があります。大学生からすると高いのかもしれませんが…(笑) 広さについて、学生の頃は席が空いていないことも多々あったのですが、時々終業後(17:30以降)に行くと、いつも座れるのであまり気になりません。 ポイントカードのシステムもあり、気に入っています。
56	自然	学類生(3年)	ほんわかふえにタピオカドリンクあったら結構な頻度で飲みたいと思います。
57	自然	技術職員	ほんわかカフェのメニューは減ってもいいので値段をリーズナブルにしてほしいです。
58	中央	学類生(1年)	ほん和かふえの二人席を増やしてほしい。四人席に二人席が座るのは少し引き目を混雑時に感じてしまう。
59	中央	学類生(1年)	ほん和カフェの座席数が少なく、昼時に利用できないことがよくある。
60	中央	学類生(1年)	ほん和カフェの場所が足りない
61	中央	学類生(1年)	ほん和かふえでほん和かふえの商品を食べながら学習をしたいのですが、いつも席が埋まっていて利用できないことが多いので、座れる席をもう少し多いので増やしてほしいです。
62	中央	学類生(1年)	ほん和かふえをもう少し広くしてほしい
63	中央	学類生(1年)	ほんわかふえは大体いつも満員で利用しづらい。もう少しスペースを広くしてほしい。
64	中央	学類生(1年)	ほん和かふえ。はもう少し座席があるとよいと思う。

附属図書館利用者アンケート 自由意見(令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
65	中央	学類生(1年)	ほん和かふえの座席数はもう少し増やすべきだと思います。また、横の雑誌を読む場所の席も増やしていただけたら、助かります。
66	中央	学類生(1年)	ほんわかふえにあるイス、テーブルのいくつかが歪んでいてグラグラすること。
67	中央	学類生(1年)	ほんわかカフェの座席がもう少し多いといいです。
68	中央	学類生(2年)	ほん和かふえのテーブルがもっとあればと思う。
69	中央	学類生(2年)	ほん和かふえを一人で利用する際、4人用のテーブルを使うのは気が引けるので、窓際のカウンターのような座席をもう少し増やしていただけたら嬉しい。
70	中央	学類生(2年)	ほん和カフェはもう少し座席数があってもいいと思う。
71	中央	学類生(2年)	いつも満席のイメージがあります
72	中央	学類生(2年)	ほんわかふえの1人席を増やしてもいいかも、？
73	中央	学類生(2年)	ほんわかふえの4・5人席を1人で座る人が多いので、2人席をもう少し壁際に増やすと解消されるかなと思います
74	中央	学類生(2年)	ほん和カフェは面積に対して机が多過ぎて密度が高く息苦しい。もう少し広くなると嬉しい。
75	中央	学類生(3年)	ほん和かふえ。は昼間によく混むので、座席数が足りないと感じます。
76	中央	学類生(3年)	ほんわかふえの1人席を増やして欲しいです。
77	中央	学類生(4年以上)	ほん和かふえの座席の数をもう少し増やして欲しいです。
78	中央	学類生(4年以上)	ほんわかふえが満席で座れないことがある。屋内の席を増やして欲しい。
79	中央	学類生(4年以上)	ほんわかふえは結構席が埋まっていることが多いのでもう少し座席数があると嬉しい(狭い印象がある)新聞読む用のブックラウンジのイスは動きやすいですが、せまいので、動きにくいイスの方がいい
80	中央	教員	ほん和カフェの座席数が足りていないと思います。
81	中央	教員	ほん和カフェは、いつも混んでいるので、もう少し広くてもよいと思います。
82	中央	大学院生(修士)	ほん和カフェのように、会話、飲食が可能なスペースが全然足りないと感じています。ほん和カフェを利用しようとすると、毎回席が確保できないことに困っています。
83	中央	別科	ほんわかふえの座席を増やして欲しい
84	中央	未回答	ほんわかふえが混雑しているのもう少し席が欲しいです。
85	自然	学類生(4年以上)	ほん和かふえ。の座席数は圧倒的に不足しているように思う。特にカウンター席を増やしてほしい。いっぱい入れないことの方が多い。
86	中央	学類生(1年)	ほん和かふえ。をもっと広くしてほしい。座席数も一人用より四人用の丸机のようなものを増やしてほしい。一人で勉強する人は、ほん和かふえ。よりも図書館を利用すると思うので、それと、ほん和かふえ。のメニューにサラダのようなものもあると嬉しい。
87	中央	大学院生(博士)	ほん和カフェを利用している。狭く座席数が少ないため、利用をあきらめることがある。また、授業中のみの営業のため、長い休暇中も研究を続ける者にとって、昼食に不自由を感じる人が多い。授業中以外も、昼だけでも営業してほしい。メニューが多様になると更に充実すると思う。
88	中央	教員	ほん和カフェを使いたいと思いますが、混みすぎていて使えなかったことがほとんどありません。休み期間も営業してもらいたいです。
89	中央	教員	とにかく椅子が少ない。ほんわかカフェは、満席が多い。冷房は5月ぐらいから稼働させるべき。
90	中央	学類生(1年)	ほん和かふえ。では安価でおいしいメニューを提供していただけてるのでよく利用しています。ほかのテーブルの席と当たってしまい、間隔がやや狭いと感じたこともあります。席がとれないことは稀なので座席数はちょうどよいのではないかと思います。
91	中央	学類生(3年)	ほんわかふえ。の一人用の席を増やしてほしいです。ドリンクの値段が少し高いと思います。図書館で、とてもむしむしするの、に、規定の温度に達してないからと、冷房をつけないのは酷だと思いました。
92	中央	学類生(3年)	冷房をもう少し早めの時期につけて欲しいです。雨の日など湿度の高い日は、除湿でもいいのでつけて欲しいです。お昼休み～3限にかけて、混むので人と隣合わずに座る場所が少なく窮屈です。ほんわかふえについては、もう少し広くて、1人用や2人用の座席が多くあると便利だと思います。メニューは豊富で接客が丁寧なので、気に入っています。
93	中央	学類生(4年以上)	ほん和かふえ。のメニューを注文しないのに座席で勉強などをしている人が少し不快です。メニューについては内容、価格ともに大満足です。
94	中央	学類生(4年以上)	ほんわかふえ。は窓がはめ殺して風が通りにくいので、冷房時期を早めた方がいいと思った。あと、経営元が違うので難しいかもしれないが、学生証のICカードでほんわかふえ。の支払いもできたら嬉しい。
95	中央	学類生(3年)	①施設内の床はカーペットで、もとも熱が籠りやすい造りとなっており、夏は施設内の温度が熱くなりすぎるので、扇風機をいくつか館内において空気を循環させるなど、今以上の工夫をしてほしい ②一人用のスペースをもう少し拡充してほしい ③図書館での食事が厳禁でブックラウンジでといわれているにもかかわらず、昼は特にほん和かふえが激込みで、座って食べられるところがないので、ほんわかふえの席数を増やすまたはオープンスタジオを昼のみ飲食可にするなど工夫をしてほしい
96	中央	学類生(3年)	ほんわかふえのテーブルと椅子を少し増やしてほしい。もしくは、図書館内に飲食可能なスペースを増やしてほしい。オープンスタジオやグループスタジオのプロジェクターなどの機材の質が少し悪い気がする。
97	中央	学類生(4年以上)	グループで会話できる画期的な場所である反面、おしゃべり等の娯楽の場所としての機能が目立つ。
98	中央	学類生(1年)	冷房をつけてほしい。オープンスタジオの席が少ない。カフェも含め友達と話しあいができる場所を増やしてほしい
99	医学	学類生(3年)	湿度と温度が高すぎるのに調節してくれないのが不満です。他にグループスタジオが実質一部屋しか使えないのも不満です。
100	中央	学類生(1年)	スタジオの席が少ない
101	中央	学類生(1年)	オープンスタジオの換気が不十分で、空気が悪くなっていき快適でない。
102	中央	学類生(3年)	ほん和かふえ。を無くしてオープンスタジオのようなグループ学習用のスペースを多くとってほしい

附属図書館利用者アンケート 自由意見(令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
103	中央	学類生(3年)	より多いグループ学習用施設。 ノンアドレスのような学習施設
104	中央	学類生(4年以上)	ホワイトボードマーカのインクが切れていることがある。誰が補充するのか?(利用者が申し出るのか)
105	中央	総合教育部(1年)	オープンスタジオの座席数を増やしてほしいです。
106	自然	学類生(2年)	オープンスタジオを広くしてもらえると試験期間は特に助かります。
107	自然	学類生(3年)	AV室やオープンスタジオのホワイトボードマーカはすぐ切れがちです。あとほんわかふえは広さに限界がありそうですが座席数がもう少しあるといいと思います
108	自然	大学院生(修士)	立ちながら本を読めるスペース、読書が好きな人が交流できるようなスペース
109	自然	学類生(2年)	どうしようもないことかもしれませんが、試験期間に図書館を利用する人が増え、座席が確保しづらいです。ただ、他の利用者の隣に座ることはなかなか勇気があるので、各テーブルの座席数を減らして、テーブルの数を増やしていただければより利用しやすくなるかと思ひます。一緒に勉強する場合はオープンスタジオの方に行くので、そこの座席数を増やして欲しいです。
110	中央	学類生(3年)	年間通して図書館内の酸素が薄い。 冷房をつける時期が遅い。 ほんわかふえ。の座席数が少ない。
111	中央	未回答	暑かったり、蒸し暑かったりするので、空調管理を全体で行き渡らせてほしい。管理をもう少し細かくしてほしい。
112	中央	科目等履修生	蒸し暑い日や、気温の高い日には冷房をもっと柔軟に入れてほしい。 吹き抜けのため、3Fが暑いときがある。
113	中央	学類生(1年)	勉強するときにとっても快適な空間だと思う。暑いときクーラーつけてほしい。
114	中央	学類生(1年)	エアコンが寒いです。
115	中央	学類生(1年)	エアコンを入れてほしい涼しいところで勉強したいのに暑すぎて集中できない
116	中央	学類生(1年)	冷房をつけてほしい
117	中央	学類生(1年)	夏の空調がもう少し過ぎやすくして欲しいです。
118	中央	学類生(1年)	冷房を入れて欲しい暑い
119	中央	学類生(1年)	夏の空調をもう少し過ぎやすくして欲しいです。
120	中央	学類生(1年)	冷暖房をつけるかどうかをもっと柔軟に判断してほしい。6月中に気温が30度を越える日があったのに、7月になるまで冷房がつかなかったのは利用者にとって不利益でしかないと思う。
121	中央	学類生(1年)	エアコンがないですか?
122	中央	学類生(1年)	冷房をもっと早い時期から入れてほしい。
123	中央	学類生(2年)	冷房は、日付よりも予想最高気温で使用判断をすべき。人はまだしも、書籍が傷む。
124	中央	学類生(3年)	冷房をもう少し早く付けてください
125	中央	学類生(3年)	利用者が少なくなる時間帯は1階または2階のみ学習可にすると光熱費が抑えられるのではないかな。蔵書の利用を考慮して電気は消せないにせよ、空調は消しても良いと思う。
126	中央	学類生(3年)	金沢大学全般に言えることだが、冷房くらいはやめにつけてほしい。窓をあけた状態の図書館で勉強するくらいなら帰ったほうがまし。
127	中央	学類生(3年)	もう少し早い時期から冷房が付いていると、勉強などするときに快適です集中できます。
128	中央	学類生(4年以上)	冬季期間が寒すぎる。十分にあったかい格好をしていたのに関わらず一日中図書館にいたことにより風邪を引いたことがある。
129	中央	学類生(4年以上)	前期の試験期間前に図書館をよく利用していると、空調を切った後の2時間程、図書館利用の環境が良いとは言えないと感じています。夜にも日中の暑さが残り、汗をかきながら図書館を利用していました。昨今の暑さを踏まえたと夜間でも空調の利用は必須であると考えています。様々な事情があり難しいかとは思いますが、ご検討いただけますと幸いです。
130	中央	学類生(4年以上)	夏場が少し暑いかもしれないです
131	中央	研究生	とても満足です。 時々寒くなって、熱くなって時があるですが、ほかにはコンピューターを利用したり、宿題を書いたり、本を探すことは楽です。
132	中央	事務職員	冷暖房の設備を新型・省エネ型に替えた方がよいと思います。私自身はそれほど苦には感じないのですが、一般の商業施設と比べると、どうしても冷暖房の効きが悪く感じてしまうため、利用者の方々のことを考えると設備は新調した方がよいと思います。 もしくは、あまりよい対策ではないかもしれませんが、閲覧席の部分のみ壁・パーテーションなどを取り付けて空間を区切れば、その中で空調が効くようにするのも手かと思ひます。 予算の都合でなかなか難しいと思いますが、ご検討いただければ幸いです。
133	中央	未回答	クーラーが効いてなさすぎて暑い
134	自然	学類生(2年)	空調温度が不適切。集中できない
135	自然	学類生(2年)	エアコンが暑すぎる
136	自然	学類生(2年)	冷房が弱すぎて集中できない
137	自然	学類生(2年)	エアコン
138	自然	学類生(3年)	暑いと感じることはありますが、エアコンがつけられないのはしょうがないと思います。 扇風機が少しうるさいと感じることがあります。
139	自然	学類生(3年)	エアコンで寒いことがあるので、夏場もひざ掛けの貸し出しをしてほしいです。
140	自然	学類生(4年以上)	自然研図書館のエアコンをつけてほしい。
141	自然	学類生(4年以上)	エアコンがついていない、効いていないことが大きく図書館で自習をしない。
142	自然	大学院生(修士)	研究個室に冷房が入る時期がやや遅い。
143	自然	大学院生(修士)	暖房が窓側までできていないので、改善して欲しいです。

附属図書館利用者アンケート 自由意見 (令和元年7月実施)

問18・問22・問27・問30の意見を内容により項目ごとにまとめたもの。館(室)は問1、学年等は問31による。(各設問の内容は資料8参照)

	館(室)	学年等	記入内容
144	自然	大学院生(博士)	・自然研図書館の風通しが悪すぎる。自然研本館の構造上しょうがないとはいえ、入り口前の廊下は風が吹いていて涼やかなのに、中は蒸し暑いということがよくある。横と縦に抜ける風があれば全然違うだろうし、電気代も浮くであろう。
145	医学	学類生(3年)	空調が弱くて暑いことが多い
146	医学	学類生(3年)	空調が弱くて夏は暑い 冬は強くて暑すぎる
147	中央	学類生(1年)	エアコンをつける基準を期間ではなく外の気温を基準にして判断してほしい。そして、試験が近くなると席が結構埋まっているので試験が近くなってきた時に少し机と椅子を増やしてほしい。
148	中央	学類生(3年)	空調をもっと管理して欲しい(熱中症など命に関わる場合があるため)。権限を持つて人が上の人でしょうが。 個人の机やスマホが充電できるようなコンセント付きの机を増やして欲しい。
149	中央	学類生(3年)	冷房のつく期間がくるのが遅いと思います。 また、よく席がなくなっているのを見るので、もう少し増やしてほしいです。
150	中央	学類生(4年以上)	個人用でなく、現在の大机のままで良いので、コンセントを使用可能な机をもう少し増やしてほしい。 空調の温度はあれで良いと思うが、湿度の調整は出来ないか。たぶん気温そのものよりも高湿度であることによる不快さが空調の温度設定に対する不満に変換されている部分が存在するに思われる。
151	中央	学類生(1年)	6人机だと間が空いてしまうことが多いので、十分に席がとられていないと思います。
152	中央	学類生(1年)	二人席がもう少し多いといいかな、と思う。
153	中央	学類生(1年)	テスト期間だけでも少し席の数が増えてほしい。
154	中央	学類生(2年)	図書館は、机と椅子が足りないと思う。もう少しあればいいと思います。
155	中央	学類生(2年)	もう少し席数を増やしてくれたら満席にならないと思う
156	中央	学類生(3年)	勉強するスペースをもう少し増やして欲しい
157	中央	学類生(4年以上)	個人の専用席
158	中央	事務職員	自習用の机・椅子を増やしてほしいです。学生時代にほぼ満席で席を見つけるのに苦労したことが多くありました。
159	医学	学類生(2年)	自習スペースの座席数が少ないと感じる。
160	医学	学類生(4年以上)	医学図書館の2階の席配置を変えても良いと思う。
161	保健	学類生(3年)	机に座らなくても本を探しているときに座って読めるようイスが所々にほしい
162	保健	大学院生(修士)	デスクもう少しあったら嬉しいです
163	中央	学類生(1年)	中央図書館は、座ると足が机の下にぶつかって十分に椅子を引けないため、勉強しにくい。医学図書館と自然研図書館は大丈夫だった。 中央図書館は暑い。医学図書館はやや寒い。 どの図書館も、自習中に遠くからでも見えるような大きな時計にしてほしい。
164	中央	学類生(4年以上)	・多く利用する人のために一定条件を満たすと固定席をもらえるシステムがほしい。テスト前などの利用する人が増えるタイミングで、いつも勉強している人が単位がほしいだけの人のせいで使えなくなることには不満がある。 ・夏場のエアコンを早くからつけてほしい。最も学業に力を入れている人々が大学という研究機関内では最も投資をされる必要があると思う。
165	医学	学類生(4年以上)	医学図書館ラウンジに女子高生がいますが良いのでしたっけ…？席数増やしてほしいです。 二階の自習スペースも席数増やしてほしいです。たまに暑すぎます…。
166	自然	大学院生(修士)	図書館の座席に仕切りがない大きい机が広い面積を占めていて、カバンなどを置かれるとそこに着席できません。暖房が窓側までできてこないため、窓側は寒いと感じます。
167	中央	学類生(2年)	カウンター席 座敷 16時ぐらいになったら閉まる自動ドアは、いっそのこと使えなくしてもいいと思います
168	中央	未回答	施設に満足しているので特にないです。
169	利用なし	事務職員	いきづらいです

資料9【7-2】情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等に関する意見

	館(室)	学年等	記入内容
1	中央	学類生(1年)	自分がほしい本がどこにあるかを検索できる機能が備わっているパソコンがあればいいと思う
2	中央	学類生(3年)	図書館内の所蔵図書検索用パソコンが少ない
3	中央	学類生(4年以上)	現在パソコンが並んでいる区画について、存在するパソコンの半分以上を電子ブック閲覧用に変えれば良いと思う。現在本学では学生用パソコンの購入が義務付けられているので、敢えて図書館のパソコンを使用する学生というのはそこまで多くないと思われる。そうして発生した余剰分のパソコンについて電子ブック・ジャーナルの閲覧や電子版辞書の使用に供することで利便性はより高まると考える。
4	中央	学類生(4年以上)	検索機がよく故障するので早急に取り換えてほしいです。
5	中央	事務職員	図書館の検索用パソコンがずっと壊れていて使えないので不便です。
6	自然	大学院生(博士)	・自然研図書館にある検索用PCを新しくしてほしい。処理速度が遅いし、マウスの反応がいつも悪い。
7	保健	学類生(3年)	コピー機を学生証でもできるようにしてほしい

○金沢大学附属図書館資料整備要項

〔平成22年12月6日
図書館委員会決定〕

第1 この要項は、金沢大学附属図書館規程第3条に定める図書館資料の整備(以下「資料整備」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2 この要項において「資料整備」とは、現在及び将来にわたる利用者ニーズにこたえるため、資料の収集、所蔵資料の管理や分析・評価、不用資料の選定、資料の保存、予算配分、利用者ニーズの調査等、図書館資料の構築、維持及び発展のために行う諸業務をいう。

(資料整備の資料区分)

第3 資料整備は、情報の記録媒体の種類にかかわらず、次の資料区分に従って行う。

- (1) 学習用資料
- (2) 研究用資料
- (3) 逐次刊行物
- (4) 参考資料
- (5) 金沢大学関係出版物
- (6) 特定コレクション
- (7) 郷土関係資料
- (8) 寄附申入れの資料
- (9) その他図書館資料の構成を補完するための資料

(資料整備に関する委員会)

第4 附属図書館の資料整備に関する基本的な事項については、金沢大学図書館委員会(以下「委員会」という。)が当たる。

(基本方針の策定等)

第5 附属図書館長(以下「館長」という。)は、委員会の議に基づき、資料整備に関する基本方針(以下「基本方針」という。)を策定する。

2 基本方針は、適宜見直しを行う。

(収集計画の作成)

第6 館長は、会計年度ごとに、委員会の議に基づき、年間資料収集計画(以下「収集計画」という。)を作成する。

(資料の収集)

第7 館長は、収集計画に基づき資料の収集を行う。ただし、資料の収集に伴う事務手続は、情報企画課において所掌する。

2 館長は、前項の結果を、翌年度の図書館委員会に報告するものとする。(分館等との連絡調整)

第8 館長は、資料整備に当たっては、分館長と連絡調整の上、購入、寄贈等により資料を受け入れ若しくは配置し、又は廃棄、売却等により資料の処分を行うものとする。

(予算の確保)

第 9 館長は、図書館委員会の協力を得て、資料の収集に必要な予算の確保に努め、収集計画に基づき適正な予算配分を行うものとする。

(雑則)

第 10 この要項に定めるもののほか、資料整備に関し必要な事項は、図書館委員会の議を経て館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成 13 年 12 月 21 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 22 年 12 月 6 日から施行する。

○金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針

〔平成 22 年 12 月 6 日
図 書 館 委 員 会 決 定〕

(趣旨)

第 1 この基本方針は、金沢大学附属図書館資料整備要項第 5 に基づき、附属図書館における資料整備の基本方針（以下「方針」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資料の収集)

第 2 附属図書館長（以下「館長」という。）は、附属図書館が、学習図書館機能、研究図書館機能、保存図書館機能及び電子図書館機能を果たすために、別紙に掲げる収書方針で必要な図書館資料（以下「資料」という。）の収集を図る。

2 館長は、資料を収集するに当たり、資料選定の具体的な基準を別に定める。

(資料の管理)

第 3 館長は、資料の効率的な利用と適正な管理を行うに当たって、適切な資料配置及び資料保存並びに資料の不用決定を行うとともに、適宜蔵書点検を行う。

(資料の評価等)

第 4 館長は、資料の効果的な収集と運用を図るため、必要に応じて所蔵している資料の分析・評価を行うとともに、利用者に対する要望等の調査を行う。

(方針の改正)

第 5 この方針は、研究・教育の動向、本学のカリキュラムの変更、利用者要求の変化及び資料構成の評価に基づき、必要に応じて改正を行うものとする。

(雑則)

第 6 この方針に定めるもののほか、方針に関し必要な事項は、金沢大学図書館委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この方針は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この方針は平成 22 年 12 月 6 日から施行する。

別紙(第2関係)

1. 学習用資料

(1) 本学に授業科目がある分野等

教育効果を最大限に高めるために、授業を担当する教員等の授業計画に沿って必要とする資料を、必要な時期にできる限り提供できるようにする。

(2) 一般的教養、社会問題等の関連分野

幅広い人間形成に役立つ必要な資料を選択的に収集する。

2. 研究・教育用資料

専門分野の研究及び授業を企画する教員が、必要な資料を整備する。

3. 逐次刊行物(新聞を含む)

(1) 調査・研究、教育及び学習活動を支援する各分野の主要な逐次刊行物は、全学的合意を得て計画的に整備する。

(2) 主要な逐次刊行物以外のものは、必要に応じて選択的に整備する。

4. 参考資料

(1) 逐次刊行物に相当する資料：基本的な参考図書を対象に、主題分野のバランスや利用度をもとに数年おきに見直しをする。

(2) その他の参考資料：調査・研究、教育及び学習活動に必要な辞典、事典、便覧、書誌等を積極的に整備する。

5. 金沢大学関係出版物

金沢大学資料館との協調の上、本学で刊行された出版物すべてを収集する。

6. 特定コレクション

金沢大学図書館委員会でコレクション等ごとに整備計画を定め、整備を進める。

7. 郷土関係資料及び寄付申入れの資料

調査・研究、教育及び学習活動に必要な資料を選択的に整備する。

金沢大学附属図書館受入資料取扱基準

図 書 館 委 員 会

平成 17 年 3 月 16 日

(趣旨)

第 1 この基準は、金沢大学附属図書館（以下「図書館」という。）が受入れる図書館資料（以下「資料」という。）の適切な管理・運用を図るため必要な事項を定める。

(定義)

第 2 本基準でいう資料とは、印刷その他の方法により複製した文書又は図画、又は電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によっては認識できない方法により、文字、映像、音を記録した物品として管理が可能なもの（ただし、紙媒体以外の CD-ROM、マイクロフィルム、ビデオテープ等を含む）をいう。

(区分)

第 3 資料は、図書又は消耗品とし、次の各号により区分する。

- (1) 図書は、当該資料が長期にわたり本学の教育・研究の用に供されるためのものであり、資産として計上する。
- (2) 消耗品は、当該資料の取得時における使用予定期間が 1 年未満のものであり、資産として計上せず費用として処理する。なお、消耗品として受入れた雑誌類を合冊製本した場合は、その時点で現物管理の観点から図書に計上し、製本に要した経費をもって資産額とする。

(目録・装備)

第 4 資料は、図書又は消耗品図書の区分に応じ、次の各号により目録情報の作成及び装備を行うものとする。

- (1) 図書には、蔵書印の押印、タトルテープの装着、請求番号ラベル及び図書 ID 番号（備品番号）ラベルの添付等の装備を行い、全国目録所在情報(NACSIS-CAT)及びローカル目録情報を作成する。
- (2) 消耗品図書には、蔵書印シールの添付のみとし、目録情報の作成、タトルテープの装着、請求記号ラベル及び図書 ID 番号ラベルの添付は行わない。

(図書)

第 5 図書の範囲は、次の各号による。

- (1) 附属図書館が本学の教育・研究上必要な資料として、1 年以上保存する資料。
例：単行書、全集、叢書、年鑑、年報、白書、会議録、統計書、製本済雑誌等
- (2) 耐久性に劣る資料であるが、内容的に資料価値の高いもので、製本等によって長期保存とする資料。
例：和（漢籍）古書、西洋古典籍、古地図等。
- (3) その他、消耗品図書以外の資料。

(消耗品図書)

第6 消耗品図書として扱う資料の範囲は、次の各号による。

- (1) 未製本の逐次刊行物及び合冊製本を前提とする講座又はシリーズ扱いの分冊図書。
例：商業雑誌，学会誌，紀要，研究報告書等
- (2) 後日完全な内容で刊行されることが確実な一時的又は速報的な出版物。
例：抜き刷り，予稿集，予備版等
- (3) 事務用及び職員研修用資料等で，消耗度が激しく，かつ保存の必要がないもの。
- (4) 簡易な装丁又は形態で刊行され，頻繁な使用に耐えず，長期間にわたる管理が困難なもの。
例：一枚ものの地図及び楽譜，カード類，加除式資料の追録等
- (5) 逐次改版され内容が更新されるもので，内容的にみて研究室等で利用に供する場合に長期保存を必要としないもの。
例：職員録，人名録，操作マニュアル，データ集，各種試験問題集，カタログ，視聴覚資料等

(蔵書統計)

第7 蔵書統計には，図書に区分された新規受入資料を加算する。

付則

- 1 この基準は平成17年4月1日から施行する。
- 2 金沢大学附属図書館資料受入基準（平成58年3月18日制定）は、廃止する。

金沢大学附属図書館 資料選定基準

平成 28 年 7 月 15 日
附属図書館長裁定

1. 「金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針」第 2 項に基づき、選定する資料区分及び選定の基準を表 1 のとおり定める。
2. 選定資料には、冊子資料以外の媒体も含むものとする。ただし、電子書籍については、全学からアクセス可能な、買い取り型のものを収集対象とする。
3. 冊子資料及び視聴覚資料については、原則として、附属図書館を構成する 3 館で表 2 のとおり分担収集する。

表 1 選定する資料区分及び選定基準

資料区分		選定基準
(1)学習用資料	①授業に使用する資料	本学開講授業に密接に関連した資料 ● シラバスに掲載されている教科書及び参考書 ● 教員が授業中に紹介した資料
	②教養を涵養する資料	一般的教養及び社会問題等に関する資料 ● 評価の定まっている古典及びその関連資料 ● 各学問分野の最先端に触れる、知的好奇心を喚起するような資料 ● 定評のある文学賞受賞作品（芥川賞、直木賞、泉鏡花文学賞）
	③各学問分野に関する資料	学生の学修のために各分野で基本的に備えておくべき資料 ● 基本文献及び概説書 ● 分野を網羅的に鳥瞰する全集、叢書、講座、大系 ● 各分野の研究動向、研究入門、資料ガイド
	④留学生用資料	留学生の学修に役立つ資料 ● 日本語学習のための資料 ● 日本の社会や文化を種々の言語で紹介する資料 ● 留学生の出身国の社会や文化を紹介する資料
	⑤留学支援資料	海外への留学に役立つ資料 ● 留学の準備、手続き、ノウハウ等に関する資料 ● 留学先の選定に役立つ資料
	⑥就職支援資料	就職活動及び資格取得に役立つ資料 ● 一般的な就職活動に関する資料 ● 本学で取得できる資格に関する資料
	⑦語学学習に関する資料	外国語の習得に役立つ資料 ● 英語等の多読リーダー ● 語学検定に関する資料
	⑧学修支援資料	アカデミックスキルを高めるために役立つ資料 ● 学修方法、レポート・論文作成に関する資料 ● パソコン及び文書作成、表計算等に関するソフトウェアの利用方法に関する実用書

(2)研究用資料	各専門分野の研究及び授業を実施する教員が、必要と判断する資料
(3)逐次刊行物	各分野の調査・研究、教育及び学修活動を支援する逐次刊行物
(4)参考資料	各分野の調査・研究、教育及び学修活動を支援する辞典、事典、便覧、書誌等
(5)金沢大学関係出版物	本学及び本学構成員が刊行した出版物、金沢大学及び前身校に関する資料
(6)特定コレクション	図書館委員会で重点的に整備することが承認されたコレクションに関する資料
(7)郷土関係資料	石川県及び県内各市町村及び近隣の地域で刊行された沿革・歴史・産業・観光・統計等に関する資料
(8)寄附申入れの資料	(1)～(7)の基準に沿っているもので原則として重複所蔵していないもの
(9)その他	蔵書の構成を補完するための資料

表2 分担収集

配架する館名	収集対象資料（番号は表1に対応）
中央図書館	● (1)～(4), (8), (9)のうち, GS科目, 人間社会学域, 教育学研究科, 教職実践研究科, 人間社会環境研究科, 法務研究科に関する資料 ● (6)のうち, ユネスコ・スクール・セクション（環境学コレクション）に配架する資料 ● (5), (7)
自然科学系図書館	● (1)～(4), (8), (9)のうち, 理工学域, 医薬保健学域（薬学類・創薬科学学類）, 自然科学研究科, 医薬保健学総合研究科(創薬科学専攻, 薬学専攻)に関する資料 ● (6)のうち, 環境学コレクションに配架する資料
医学図書館（保健学類図書室を含む）	● (1)～(4), (8), (9)のうち, 医薬保健学域（医学類・保健学類）, 医薬保健学総合研究科(創薬科学専攻, 薬学専攻を除く)に関する資料

ただし、学際領域分野、教養資料、参考資料等で必要なものは重複して整備しても良いものとする。

金沢大学附属図書館の基本理念と目標

金沢大学附属図書館は、かつて加賀金沢を「天下の書府」と言わしめたこの地の学問に対する深い情熱と、流行におもねることなく伝統美を斬新な意匠で織り上げてきた繊細な感性とを己のものとして受け継ぎ、本学の学術情報の揺るぎなき礎となって、すべての利用者にきめ細やかな支援を提供することを目指します。

すなわち、金沢大学附属図書館の使命は、金沢大学憲章に謳われた「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学の理念を支え、「卓越した知の創造」と学生の「自学自習」を促進するために、学術情報資源の収集、整理、保存、発信に力を注ぐとともに、一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスを具体化することに他なりません。

そのため、金沢大学附属図書館は、以下の目標の実現を目指します。

利用者志向のサービス

中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館のそれぞれの特性を生かした3館体制機能を強化し、常に学生、教職員及び地域市民のニーズの把握に努め、それに応える先進的で上質な利用者サービスを提供します。

学術情報基盤の整備

先端的情報通信技術を活用し、教育・研究を支える先進的な学術情報基盤を整備し、図書やデジタル資料等多様な学術情報資源の効率的な収集及び管理等に努めるとともに、最善のアクセス手段を提供します。

学 生 支 援

学生の自学自習と自由な研究ならびに社会人としての自立を支えるために、学習・研究用図書及びキャリア教育や就職活動を支援する資料の充実を図り、快適な学習環境の整備に努めます。

知 の 拠 点

東アジアにおける知の拠点として、金沢大学の知的研究成果を「金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)」により蓄積し、国内外に発信します。

知のクロスロード

金沢大学が前身校及び本学ゆかりの先人たちから受け継いだ資産を守り、時間、空間を超えた知のクロスロード(交差点)として、知的資産の安定した提供及び保存管理体制を整備します。

知 の 多 様 性

地域社会や国際社会との多様な知の交流を促すため、地域社会との連携を積極的に進めるとともに、異なる文化的背景を持つ留学生・研究者へのサービスを充実します。

図 書 館 職 員 の 志

金沢大学附属図書館の基本理念と目標を実現するため、図書館職員は常に資質の向上に努めつつ、設備や施設の整備・充実を図ります。

金沢大学附属図書館中長期ビジョン

大学とともに世界と地域に生きる知の前衛たちの図書館。われわれは、世界最先端の学術情報の受発信を担い、学習支援空間を強力に展開し、資料の電子化を可能な限り進める未来型の図書館をめざす。

※ 中長期ビジョンを実現するための6つの戦略

1 最新の学術情報を受発信する機能の強化

学術研究の基盤となる電子ジャーナルの安定的確保と、機関リポジトリの一層の拡充を最優先課題として取り組む。

2 「自学自習」の理想を追求する学習支援センターとしての機能強化

共通教育、専門教育、大学院教育の教育組織及び教育内容と緊密にリンクした新たな学習支援の仕組みを創出するとともに、ラーニングコモンズ等の学士課程及び大学院教育のための学習スペースを整備拡充する。

3 蔵書電子化の推進

電子的資料の積極的な購入や蔵書の電子化を可能な限り着実に進め、一層充実した「電子化図書館」をめざす。

4 資料保存基準の見直しと他図書館との収蔵共有化

長期収蔵に関して新たな基準を作成し、公共図書館及び大学図書館との資料の共有化を積極的に図る。

5 地域の公共図書館および大学図書館との連携強化

地域住民の生涯学習を支援する空間を積極的に提供し、他大学図書館との相互の連携事業を一層高いレベルで行い、「地域に生きる新たな図書館の時代」を切り開く。

6 図書館員の新たな分野での能力開発

図書館職員は旧来の任務の常識を一新し、教育、広報、企画、運営等の新たな任務を積極的に果たすべく、自身の能力を格段に高める。

○金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項

平成 22 年 12 月 6 日決定
平成 31 年 3 月 14 日一部改正
図書館委員会決定

(要旨)

第1条 この要項は、金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針第3に基づく金沢大学附属図書館が管理する図書館資料の不用決定及び処分に関し、国立大学法人金沢大学固定資産等管理規程に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(図書館資料の定義)

第2条 この要項において、図書館資料（以下「資料」という。）とは、金沢大学附属図書館規程第3条に規定された資料のうち資産として登録されたものをいう。

(不用の決定)

第3条 物品管理部局責任者は、本学の教育研究上利用の必要がなくなったもの又は利用することができないと認めたもので、かつ、次の各号の一に該当する場合は、リストを作成し、不用対象資料とすることができる。

- (1) 保存を必要としない複本
- (2) 図書館への返却時に、当該教員等から除籍が適当との申し出があった研究室長期貸出資料
- (3) 附属学校園で利用者に提供されていた長期貸出資料
- (4) 資料の内容が逐次改訂され、又は改訂版等により利用価値を失ったとき。
- (5) 短期間の利用を目的として取得された資料で、利用価値を失ったとき。
- (6) 当該資料の代替となる資料が整備され、かつ、保存の必要がないと認めるとき。
- (7) 長期にわたる頻繁な使用若しくは管理上の不測の事故により汚損若しくは破損がはなはだしく、使用に耐えないとき。
- (8) 災害又は事故により滅失したとき。
- (9) 数量更正によるもののとき。
- (10) その他、物品管理部局責任者が除籍を適当と認めるとき。

(不用決定の要件)

第4条 物品管理部局責任者は、前条の規定により作成したリストに基づいて学内へ使用希望の有無を照会し、不用であるか否かを判定するものとする。ただし、前条第7号から第9号に該当する場合は、学内照会を省略することができる。

(返納の手續)

第5条 物品管理部局責任者は、前条に定める照会により、不用と判定された資料について、物品管理責任者に返納手續を行うものとする。

2 返納手續は、異動年月日及び異動理由を記した管理通知書（以下「物品異動届」という。）により報告するものとする。

(処分の決定)

第6条 物品管理部局責任者は、物品管理責任者に対し物品異動届の提出により処分の依頼を行うものとする。

(処分)

第7条 物品管理責任者は、前項の規定に基づき返納された資料を処分しようとするときは、契約責任者に対し処分の依頼を行うものとする。

2 契約責任者は、売却(交換を含む。)により処分するものとする。ただし、契約責任者は、売却することができないもの及び売却することが不利又は不適當であると認めるものについては、廃棄その他の方法により処分を行うことができる。

(異動の記録)

第8条 処分することになった資料については、図書台帳にその異動を記録するとともに、目録所在情報を削除する。

(蔵書印の処理)

第9条 処分することになった資料については、原則として蔵書印を所定の消印で抹消する。

(消耗品扱いの資料)

第10条 資産として登録されていない消耗品扱いの資料の不用の決定及び処分については、資産に準じた手続で行うものとする。

2 研究室長期貸出資料のうち、保存が必要であると申し出があった未製本雑誌については、製本して返却するものとする。なお、この場合の製本費用は、原則として当該研究室等が負担するものとする。

附 則

- 1 この要項は平成22年12月6日から施行する。
- 2 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び廃棄に関する要項(平成14年9月11日制定)は、廃止する。

附 則

この要項は平成31年4月1日から施行する。

「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項(平成31年3月14日一部改正)」

第3条及び第10条で不用とする資料の判断基準

平成31年4月1日 附属図書館長決定

	条文	不用とする例(判断基準)
(4)	資料の内容が逐次改訂され、又は改訂版等により利用価値を失ったとき。	・版が異なっても内容は同じ資料 (「版」が「刷」の意味で使われているもの、「新装版」など体裁だけが違うもの) ・最新の学術的知見が重視され、頻繁に内容が改定されることの多い分野の旧版 (資料の内容が古く、利用価値を失っていることが明らかな場合は、改訂版等の所蔵は前提としない。) ※不用としない例 ・資料内容が古く、利用価値は失われているが、研究史的に価値のあることが明らかなもの ・北陸3県の住宅地図、旅行ガイドなど歴史的価値が出ると思われる郷土資料
(5)	短期間の利用を目的として取得された資料で、利用価値を失ったとき。	・娯楽書、実用書 ・各種試験問題集、学習参考書、語学学習書、大学の講義で使用するリーダー類 ・コンピュータや特定のソフトウェアのマニュアル ・語学学習系、娯楽系、就職活動・資格試験系、IT系の雑誌
(6)	当該資料の代替となる資料が整備され、かつ、保存の必要がないと認めるとき。	・オンライン利用が可能な二次資料(書誌・目録・索引・抄録データベース)の冊子版 ・本学及び国立情報学研究所がアーカイバルアクセス権をもつ電子ジャーナル及びその冊子版 ・機関リポジトリやインターネット上で公開されている学術資料の冊子版 ・複製本の原本 ・既に3館のいずれかに配架済で使用可能なものが存在する研究室からの返納資料
(7)	長期にわたる頻繁な使用若しくは管理上の不測の事故により汚損若しくは破損がはなはだしく、使用に耐えないとき。	・補修を行うことが不可能なとき、又は補修に要する費用が当該資料の購入費等より高価であるとき
(10)	その他、物品管理部局責任者が除籍を適当と認めるとき。	・督促等を行っても返却期限から10年以上経過しても返却されない資料 ・「教員の転出に伴う図書館資料の無償譲渡に関する要項」に該当する資料

金沢大学オープンアクセス方針

平成 29 年 11 月 15 日図書館委員会承認

平成 29 年 12 月 1 日情報企画会議承認

平成 29 年 12 月 11 日大学改革推進委員会承認

平成 30 年 1 月 19 日教育研究評議会報告

平成 30 年 4 月 1 日施行

(趣旨)

1. 金沢大学（以下「本学」という。）は、金沢大学憲章に基づき、本学の研究成果を広く公開することにより、研究成果の社会への積極的な還元に努めるとともに、学術研究のさらなる発展に寄与するために、オープンアクセスに関する方針を以下のように定めるものとする。

(定義)

2. 本方針において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
 - (1) 公的研究資金とは、競争的研究資金、公募型の研究資金及び運営費交付金等をいう。
 - (2) 研究成果とは、出版社、学協会、学内部局等が発行した出版物に、学術雑誌論文、会議発表論文、及び紀要論文として掲載された学術情報をいう。

(研究成果の公開)

3. 本学は、本学に在籍する教員（以下「教員」という。）の公的研究資金を用いた研究成果（以下「研究成果」という。）を、金沢大学学術情報リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。ただし、研究成果の著作権は本学には移転しない。

(登録申請及び研究成果の提供)

4. 教員は、できるだけすみやかに自身の研究成果についてリポジトリへの登録申請を行う。図書館からの求めに応じて、リポジトリ登録が許諾される著者最終稿等の適切な版を本学に無償で提供する。なお、本方針の定める研究成果以外の成果物についても提供を推奨する。

(適用の例外)

5. 著作権等のやむを得ない理由によりリポジトリによる公開が不適切であるとの申出が教員からあった場合、本学は当該研究成果を公開しない。

(適用の不遡及)

6. 本方針施行前に出版された研究成果や、本方針施行前に本方針と相反する契約を締結した研究成果には、本方針は適用されない。

(リポジトリの運用)

7. リポジトリの運用に関わる事項は、「金沢大学学術情報リポジトリ運用指針」に基づき取り扱う。

(その他)

8. 本方針に定めるもののほか、本学のオープンアクセスに関し必要な事項は、関係者間で協議して定める。

Kanazawa University Open Access Policy (translation)

approved by University Library Committee on November 15, 2017
approved by Information Planning Committee on December 1, 2017
approved by University Reform Committee on December 11, 2017
report by Education and Research Council on January 19, 2018
commencement date April 1, 2018

(Objective)

1. According to the “Charter of KU”, Kanazawa University (hereinafter referred to as “the University”) shall extensively work toward disclosing its research outputs in order to contribute to the development of academic research and society in general .The University declares the following Open Access Policy (hereinafter referred to as “this Policy”), pursuant to the principles of the preceding sentence.

(Definition)

2. For the purpose of this Policy, the meaning of the terms mentioned below is defined as follows:
 - (1) “Public Research Fund” means a Fund supported by competitive research funds, research funds subject to a public application process and Fund provided by the national government, including, but not limited to, management expenses granted for national university cooperation.
 - (2) “Research Outputs” means academic information which has been published by commercial publishers, academic societies or departments in the University as journal articles, conference papers or departmental bulletin papers.

(Open Access to Research Outputs)

3. The University provides open public access to Research Outputs of any Public Research Fund Research (hereinafter referred to as “Research Outputs”) by a faculty member of the University (hereinafter referred to as “Faculty Member”) via KanazawaUniversity Institutional Repository (hereinafter referred to as “Repository”). However copyrights of such Research Outputs will not be transferred to the University.

(Application and Submission of Research Outputs)

4. The Faculty Member shall apply to the repository as soon as possible. Following the request from the library, the Faculty Member shall at no charge his/her Research Outputs regarding the final version of articles whose applications to the Repository were approved. The Faculty Member may also submit his/her academic articles voluntarily even if these articles are not defined as the Research Outputs in this Policy.

(Exception)

5. Notwithstanding the provisions of the preceding paragraph, the University has the right to make the specific Research Outputs not open to the public due to unavoidable reasons such as

copyright or similar intellectual property protection.

(Non-retroactive)

6. This Policy shall not apply to the Research Outputs published prior to its implementation or contractually conflicting with it.

(Institutional Repository)

7. All other issues related to the operation of the Repository shall be implemented in accordance with Kanazawa University Institutional Repository Operational Guidelines.

(Others)

8. Open access issues unstated in this policy shall be negotiated by the parties.

金沢大学オープンアクセス方針実施要領

平成 29 年 11 月 15 日 図書館委員会 承認

平成 29 年 12 月 1 日 情報企画会議 承認

平成 30 年 4 月 1 日 施行

(趣旨)

1. 金沢大学（以下「本学」という。）は、金沢大学憲章に基づき、本学の研究成果を広く公開することにより、知的財産の発掘・管理と社会への積極的な還元に努めるとともに、学術研究のさらなる発展に寄与するために、オープンアクセスに関する方針を以下のように定めるものとする。

(1) 金沢大学オープンアクセス方針（以下「方針」という。）は、教員による自発的な研究成果発信を促すための大学組織全体による意思表示である。

(2) 「オープンアクセス（以下「OA」という。）」とは、誰もがインターネットを通じて無料で自由に学術論文を利用できるようにすることである。方針を策定し、OAを推進することにより、次のメリットが考えられる。

- ①研究成果の利活用を促進することにより、分野を超えた新たな知見の創出や効率的な研究の推進に資するとともに、研究成果への理解促進や更なる普及が期待される。また、研究の透明性確保にも資する。
- ②Google や JAIRO を通して無料で論文の検索・利用が可能のため、雑誌に掲載された論文の注目度が上がり、引用される可能性が高まる。

※ OA は、グリーン OA とゴールド OA に大別できる。

- グリーン OA : 査読付き論文について、出版社版または出版社版に至る前の著者最終原稿を大学等が構築・運用する機関リポジトリに登載し、公開する方法。著者の経費負担なしに有料雑誌の論文情報が公開される。
- ゴールド OA : OA の学術雑誌に投稿する方法。投稿料を著者が負担する必要がある。

(定義)

2. 本方針において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
 - (1) 公的研究資金とは、競争的研究資金、公募型の研究資金及び運営費交付金等をいう。
 - (2) 研究成果とは、出版社、学協会、学内部局等が発行した出版物に、学術雑誌論文、会議発表論文、及び紀要論文として掲載された学術情報をいう。

公的研究資金の定義は、内閣府・国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会報告書「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」（2015/3/30）に基づく。

参考) 内閣府・国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会報告書「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」 p.15

(3) 「公的研究資金を用いた研究」の定義及び研究データの範囲

① 「公的研究資金を用いた研究」の定義

競争的研究資金及び公募型の研究資金に該当するものとする。また、国費が投入されている独立行政法人及び国立大学法人等の運営費交付金等を100%活用した研究活動等も対象とすべきである。

(研究成果の公開)

3. 本学は、本学に在籍する教員（以下「教員」という。）の公的研究資金を用いた研究成果（以下「研究成果」という。）を、金沢大学学術情報リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。ただし、研究成果の著作権は本学には移転しない。

(1) 本学に在籍する教員の定義は以下のとおりとする。

- ・「国立大学法人金沢大学教育職員人事規程」第2条第2項に定義される教育職員のうち、教授、准教授、講師（常時勤務する者に限る。）、助教、助手
- ・当該研究成果に掲載の所属機関が「金沢大学」であること。

(2) 本学における研究活動は、すべて公的資金を用いているという認識により、研究成果を原則として公開する義務が発生する。

(3) 学外研究者との共同研究成果も、OAの対象となる。

(4) 本学に在籍する教員が他機関へ異動した後も、在籍時に発表し、リポジトリに登録した論文は引き続き保存・公開する。

(5) リポジトリでの公開を目指すことから、本学ではグリーンOAによるOA化を推進する。

(6) リポジトリへの登録によって、研究成果の著作権が移転することはない。

(7) 著作権者への許諾確認及びリポジトリ掲載に際しての対応は次のとおりとする。

著作権者	許諾確認	リポジトリ掲載に際しての対応
出版社・学会等 (学術雑誌への掲載等にあたって、出版社・学会等に著作権が移転している場合)	附属図書館が 出版社・学会等 に対して行う	出版社・学会等の許諾条件について確認した上で、適切な版を研究成果のリポジトリ登録を行う。(※注1)
著者(共著者なし) (学術雑誌への掲載等にあたって、出版社・学会等に著作権が移転していない場合)	特に必要なし	特に必要なし
著者(共著者あり(※注2)) (学術雑誌への掲載等にあたって、出版社・学会等に著作権が移転していない場合)	著者(申請者) が共著者に対して行う	共著者全員の合意が必要となるため、確認については、著者(申請者)が行う。なお、共著者の合意について文書を提出する必要はない(※注3)。

(※注1) 出版社・学会等の許諾条件は、出版社等の Web サイトに著作権ポリシー等として記載されていることが多いが、これらのサイトによっても明確な情報が得られない場合、投稿時に著者が出版社等と合意した著作権譲渡契約(Copyright Transfer Agreement)等について、附属図書館から著者に照会する。

(※注2) 学内の教員複数名が共著者になっている場合、代表1名による提供があればよい。

(※注3) 学位論文のインターネット公表については、指定の様式により共著者の許諾を得る必要がある。

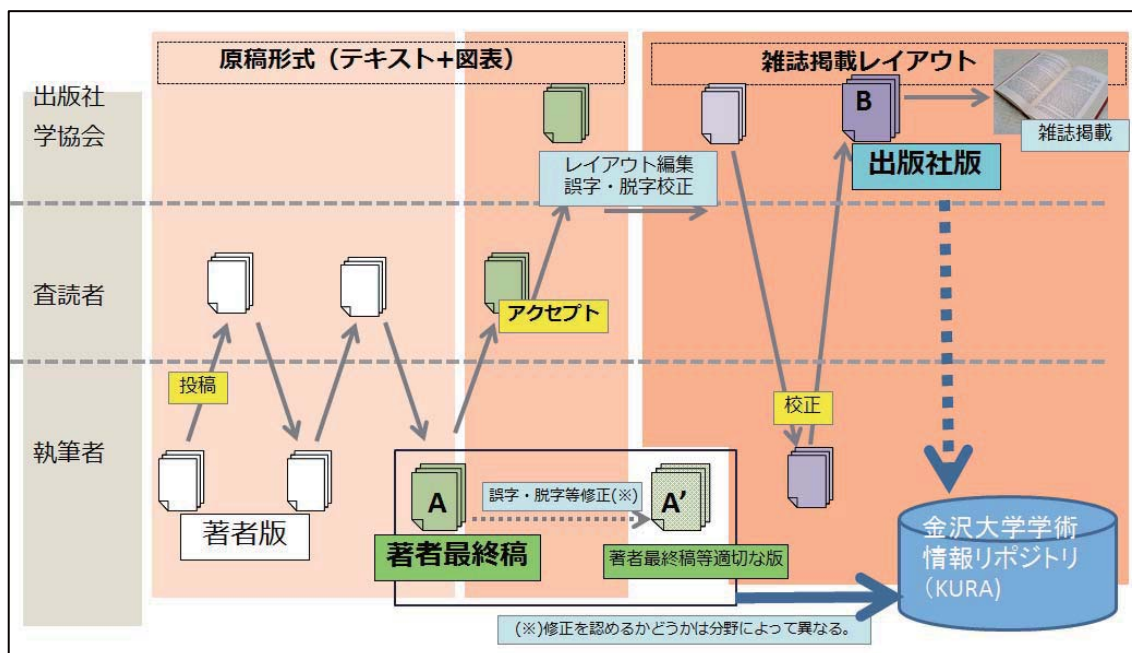
(登録申請及び研究成果の提供)

4. 教員は、できるだけすみやかに自身の研究成果についてリポジトリへの登録申請を行う。図書館からの求めに応じて、リポジトリ登録が許諾される著者最終稿等の適切な版を本学に無償で提供する。なお、本方針の定める研究成果以外の成果物についても提供を推奨する。

(1) 研究成果の公表後、できるだけすみやかに、教員自身が電子メール等で附属図書館に登録申請を行う。その後、図書館からの求めに応じて、リポジトリ登録が許諾される版を無償で附属図書館に送付する。出版社のポリシーにより公開禁止(エンバゴ)期間が定められている場合は、リポジトリの公開制限機能を用いて指定した日まで公開を保留する。

なお、部局等が発行する紀要等の出版物については、発行部局等の依頼に基づき、附属図書館が一括登録する場合がある。

【リポジトリ登録が許諾される版】



A (A') : 著者最終稿等適切な版 : アクセプトされる直前に著者が提出した原稿。ただし、専門分野によっては、著者最終稿からさらに文章表現の修正を行う場合があります、著者最終稿の提供が適切ではないことも考えられる。このような場合は、教員は専門分野等の事情に応じて、リポジトリ登録が許諾される適切な版を提供する。

B: 出版社版 : 本学で購入している電子ジャーナルについては、附属図書館で当該の版を入手し、リポジトリに登録する。入手できない場合は、著者からの提供を経て登録する。

【出版社が著者に認める権利（リポジトリ登録の可否）の一例（2017年7月現在）】

※同じ出版社でも雑誌タイトルにより条件は異なる。

出版社	著者最終稿	出版社版
Elsevier	制限付で公開可 ・エンバーゴ期間 : 1~4 年	不可
Wiley	制限付で公開可 ・STM タイトルのエンバーゴ期間 : 1 年 ・HSS タイトルのエンバーゴ期間 : 2~4 年	不可
Springer	制限付で公開可 ・エンバーゴ期間 : 1 年	不可
Nature	制限付で公開可 ・エンバーゴ期間 : 0~1 年	不可

American Chemical Society	制限付で公開可 ・所属機関において OA 化が要求されている場合 エンバーゴ期間(1年)後に公開可	不可
---------------------------	---	----

※【参考】著作権ポリシーデータベース(リポジトリへの登録に対する出版社の方針を確認できる)
 SHERPA/RoMEO(海外出版社・学協会の場合) <http://www.sherpa.ac.uk/romeo/index.php>
 SCJP(国内学協会の場合) <http://scjp.tulips.tsukuba.ac.jp/>

(2) 研究成果を提供する際のファイル形式は原則として PDF とする。PDF 以外のファイル形式で提供された場合は、附属図書館で変換する。

(3) airXiv や ResearchGate, 他大学等のリポジトリの利用や, ゴールド OA によって OA が実現している研究成果についても, 本学として責任を持って研究成果を保管し, 長期的なアクセスを保証するという観点から, 本学へ研究成果を提供することが望ましい。

(4) 本方針で公開義務対象となった研究成果以外の成果物, 方針施行前の研究成果についても, 「金沢大学機関リポジトリ運用指針」で定められている登録対象資料に該当するものを, 自発的に提供することで, OA 化を促進する。

(適用の例外)

5. 著作権等のやむを得ない理由によりリポジトリによる公開が不適切であるとの申出が教員からあった場合, 本学は当該研究成果を公開しない。

(1) 著作権等のやむを得ない理由によりリポジトリによる公開が不適切であるとの判断は, 教員が行う。申出の際には, その理由を付すこととする。

(2) 著作権等のやむを得ない理由及び公開が不適切な場合の例

- ・ 共著者の合意が得られない場合
- ・ 研究成果の著作権を出版社等に譲渡しており, 著者最終稿を含むあらゆる版の公開が著作権者により許諾されない場合
- ・ 研究成果が個人情報やプライバシーに関する内容を含み, インターネット上での公開が不適切な場合
- ・ 捏造, 改ざん, 盗用, 剽窃等, 研究活動における不正行為があった場合
- ・ 発行版と異なる版の公開を差し控えたい場合(アクセプト後に文章表現の校正が入った場合で, 著者最終稿を修正して提出する作業が煩雑な場合を含む)

(適用の不遡及)

6. 本方針施行前に出版された研究成果や, 本方針施行前に本方針と相反する契約を締結した研究成果には, 本方針は適用されない。

OA 方針の施行日(平成 30 年 4 月 1 日)以降に出版された刊行物に適用する。

(リポジトリの運用)

7. リポジトリの運用に関わる事項は, 「金沢大学学術情報リポジトリ運用指針」に基づき取り扱う。

研究成果の取り扱いについて疑義が生じた場合は, 方針及び本実施要領を優先する。方針及び本実施要領と「金沢大学学術情報リポジトリ運用指針」の間に齟齬が生じることがないように, 図書館委員会において随時その整合性を確保するように努める。

(その他)

8. 本方針に定めるもののほか, 本学のオープンアクセスに関し必要な事項は, 関係者間で協議して定める。

本項は, 方針の実施に際し, 学内関連部署や出版社等との調整が必要となる可能性を想定したものである。

【本実施要領についての問い合わせ先】

金沢大学附属図書館 雑誌・電子情報係

inzassi@adm.kanazawa-u.ac.jp

附属図書館の活動(平成27～30年度)

1. シンポジウム、講演会

開催日	名 称
平成27年 5月21日	EUカフェ2015「大学生なら知っておきたいEU経済の今」(中央図書館ブックラウンジ)
平成27年11月 9日	EU講演会「ドイツ:第二次世界大戦末から今日まで」(中央図書館AV室)
平成28年 1月15日	大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」 図書館機能強化プログラム ラーニング・サポート担当者研修 「学修支援スキルとコミュニケーション力を身につけよう」(中央図書館AV室)
平成28年 5月31日	EUカフェ2016「EUへの留学経験者とEUからの留学生の体験談を聞こう！」 (中央図書館ブックラウンジ)
平成28年 7月12日	EU講演会「EUの現状と将来」(中央図書館AV室)
平成28年10月28日	大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」 図書館機能強化プログラム ライティング支援者研修 「学生レポート・論文の相談に対応する」(中央図書館オープンスタジオ)
平成29年 6月26日	金沢大学EU情報センター講演会 「Hungary – an important player in EU's agriculture : the opportunities of the Hungarian food sector in Japan (EUにおける農業の重要な担い手ハンガリー ～ハンガリー 食物部門の日本での可能性について～)」(中央図書館AV室)
平成29年 9月29日	東海北陸地区国立大学図書館協会講演会「『平成28年熊本地震』熊本大学附属図書館における復旧と今後の対策」(共催:北陸地区国立大学連合図書館系専門委員会)(中央図書館AV室)
平成30年 1月23日	雑誌「キング」受贈記念講演会「『キング』をひらく～ミリオンセラー雑誌の誕生～」 (中央図書館AV室)
平成30年 9月20日	国立大学図書館協会 東海北陸地区助成事業シンポジウム「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」(中央図書館AV室)

2. イベント

期 間	名 称
平成27年 5月～11月 1日	第4回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール
平成27年 4月30日～ 5月 1日	第9回ブックリユース市(中央図書館)
平成27年 5月～	図書館ビブリオバトル(中央図書館) 5/27, 6/24, 7/22, 10/21, 11/18, 12/16
平成27年 6月22日～ 6月26日	第1回ブックリユース市 in 自然科学系図書館(自然科学系図書館)
平成27年 8月 7日	第4回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール「何でも相談会」(自然科学系図書館)
平成27年 8月10日～ 8月11日	サマー・アドベンチャー・とぼろトーク・教科書展 <オープンキャンパス> (中央図書館)
平成27年10月27日～11月19日	あなたが選ぶ北陸銀行文庫(中央図書館)
平成27年11月16日～11月17日	第10回ブックリユース市(中央図書館)
平成28年 4月13日～ 4月20日	第2回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成28年 5月16日	こだま新入生企画「スタンプラリー抽選会」(中央図書館)
平成28年 5月16日～ 5月17日	第11回ブックリユース市(中央図書館)
平成28年 5月～	図書館ビブリオバトル(中央図書館) 5/25, 6/29, 7/20, 10/26, 11/16, 12/21
平成28年 7月21日	BRAZILカフェ「ブラジルを知ろう！」(中央図書館)
平成28年 8月 8日	「金大生による”調べ学習”教室:環境について調べてみよう！」(自然科学系図書館)
平成28年 8月 9日～ 8月10日	サマー・アドベンチャー・とぼろトーク(中央図書館)
平成28年10月25日～11月17日	あなたが選ぶ北陸銀行文庫(中央図書館)
平成28年11月17日～11月18日	第12回ブックリユース市(中央図書館)
平成28年12月21日	ワークショップ「しまんと新聞ばつぐをつくろう」(中央図書館)
平成29年 1月18,24日	「西アフリカの絵本展 アフリカのえほんってどんなの？」絵本の読み聞かせ会(中央図書館)
平成29年 1月25日	図書館ビブリオバトル特別編(中央図書館)
平成29年 4月18日～ 4月20日	第3回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成29年 5月18日	こだま新入生企画「スタンプ&クイズラリー」抽選会(中央図書館)
平成29年 5月18日～ 5月19日	第13回ブックリユース市(中央図書館)
平成29年 5月～	図書館ビブリオバトル(中央図書館) 5/17, 6/21, 7/19, 10/25, 11/15, 12/20
平成29年 6月14日	EUカフェ2017「EUへ留学しませんか？ フィンランド編」(中央図書館)
平成29年 6月27日～ 6月29日	第4回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成29年 8月 7日～ 8月 8日	金沢大学キャンパスビジット同時開催プログラム 「グローバルウィーク写真展」「貴重資料展」「パネル展示」(中央図書館)
平成29年 8月 9日	「金大生による”調べ学習”教室」(自然科学系図書館)
平成29年10月31日～11月16日	あなたが選ぶ北陸銀行文庫(中央図書館、自然科学系図書館)
平成29年11月13日～11月14日	第14回ブックリユース市(中央図書館)
平成29年11月15日	「ほんわーどかふえ」(中央図書館) ※主催はとぼろ以外の学生と、とぼろの共同による
平成29年12月 6日	図書館グローバルカフェ#2 スペイン編(中央図書館)

附属図書館の活動(平成27～30年度)

平成29年12月 8日	「しまんと新聞ばっぐをつくろう」ワークショップ(自然科学系図書館)
平成30年 1月16日～ 1月18日	第5回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成30年 1月23日	Music Cafe@lib～金大フィルによるロシア音楽のタベ～(中央図書館)
平成30年 1月24日	図書館グローバルカフェ#3 ロシア編(中央図書館)
平成30年 5月15日～ 5月16日	第15回ブックリユース市(中央図書館)
平成30年 5月22日	こだま新入生歓迎企画「TOSHOKAN QUEST」抽選会(中央図書館)
平成30年 5月～	図書館ビブリオバトル(中央図書館) 5/23, 6/20, 7/18, 10/17, 11/21, 12/19
平成30年 5月28日～ 6月15日	ブックリユース市(医学図書館)
平成30年 6月13日	図書館グローバルカフェ#4 EUに留学しよう: チェコ&ポーランド編(中央図書館)
平成30年 6月14日	図書館ブックトーク#1「濫読のすすめ」(中央図書館)
平成30年 7月17日	図書館グローバルカフェ#5「インドネシア&カンボジア編」(中央図書館)
平成30年 8月 7日	「金大生による”調べ学習”教室」(自然科学系図書館)
平成30年 8月 9日	金沢大学キャンパスビジット同時開催プログラムパネル展示「加賀藩の夏」(中央図書館)
平成30年10月17日～10月19日	第6回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成30年11月 5日	図書館ブックトーク#2「人生を楽しくする本」(中央図書館)
平成30年11月 1日～11月30日	あなたが選ぶ北陸銀行文庫(中央図書館)
平成30年11月12日～11月13日	第16回ブックリユース市(中央図書館)
平成30年12月12日	図書館グローバルカフェ#6 U.S.A編(中央図書館)
平成30年12月20日	「しまんと新聞ばっぐをつくろう」ワークショップ(自然科学系図書館)
平成31年 1月16日～ 1月18日	第7回ブックリユース市 in 自然科学系図書館
平成31年 1月23日	図書館グローバルカフェ#7 ベルギー編(中央図書館)

3. ラーニング・アドバイザー、留学生ラーニング・コンシェルジュ関連イベント

期 間	名 称
平成28年 5月10日	相手に伝わる文章講座(中央図書館)
平成28年 6月 7日	理工系学生のための長期海外インターンシップ(自然科学系図書館)
平成28年 6月28日	留学生ことわざクイズ大会(中央図書館)
平成28年 6月～	English Hour!(中央図書館) 6/30, 7/25, 10/24, 11/21, 12/12, 1/17
平成28年 7月26日	日本の民話「紙芝居」ショー(中央図書館)
平成28年10月26日	ハロウィーンは折り紙を楽しもう!(中央図書館)
平成28年12月19日	南極地域観測隊員のお話(自然科学系図書館)
平成29年 2月 7日～ 2月 8日	卒論スタート講座(中央図書館/自然科学系図書館)
平成29年度中に5回開催	Library Guide & Tour / 留学生のための図書館利用説明会(中央図書館/自然科学系図書館) 4/18,19, 10/16,17,18
平成29年度中に17回開催	English Hour!(中央図書館/自然科学系図書館) 5/22, 6/13,21,27, 7/5,11,19, 10/24, 11/1,7,15, 12/5,13,19, 1/10,16,24
平成29年度中に4回開催	Japanese Hour!(自然科学系図書館) 7/13, 20, 11/27, 1/25
平成29年 7月11日～ 7月20日	ラーニング・サポート・ウィーク 2017夏 効果的なプレゼンテーションのコツ/日本語文献の探し方の基礎/レポート作成基礎講座/オンライン百科事典を使った研究テーマの決め方/文献収集法講座:電子ジャーナルからILLまで/英語文献の探し方の基礎
平成29年 12月12,15日	附属図書館ラーニング・サポート企画「みんなの就活講座」(中央図書館/自然科学系図書館)
平成30年 1月22日～ 1月26日	ラーニング・サポート・ウィーク 2018冬 レポート作成基礎講座/レポート作成基礎講座 中国語版/卒論スタート講座/オンライン百科事典を使った研究テーマの決め方/プレゼン作成のポイント 日本語文献の探索と入手/英語文献の探索と入手/学習のためのPC活用講座 Word編、Excel編
平成30年 4月17日,18日,10月15,25日	Library Guide & Tour / 留学生のための図書館利用説明会(中央図書館/自然科学系図書館)
平成30年度中に25回開催	English Hour!(中央図書館/自然科学系図書館) 4/18,23, 5/9,14,23,28, 6/11,20,25, 7/4,9,18,23, 10/22,31, 11/5,14,19, 12/5,10,19, 1/9,16,23,28
平成30年 6月13,18日,7月 2, 4日	LA自主企画「学長奨励賞受賞者に聞く!大学での勉強法!!」(中央図書館)
平成30年 7月17日～ 7月20日	ラーニング・サポート・ウィーク 2018夏(中央図書館) レポートのテーマの決め方/日本語論文の探し方/レポート作成基礎講座/Word活用の基礎/PowerPoint活用の基礎/英語論文の探し方
平成30年10月19,25日	LA自主企画「就活あれこれ座談会」(中央図書館)
平成30年10月 23日～10月25日	図書館活用ミニ講座「卒論・レポートのための資料の集め方」(中央図書館)
平成30年11月19日～11月21日, 11月26日～11月29日	出張ラーニング・サポート・デスク in 総合教育棟
平成30年12月18日	LeCIS自主企画「中国留学生の就職体験談 找工作研讨会」(中央図書館)

附属図書館の活動(平成27～30年度)

平成31年 1月17日	LeCIS自主企画「留学生による、留学生のための、日本語学習法/Japanese Learning Methods for International Students by International Students」(自然科学系図書館)
平成31年 1月24日～ 1月25日	レポート作成基礎講座(日本語・中国語)(中央図書館)
平成31年 1月28日～ 2月 7日	数学&中国語★学習相談会(総合教育棟)
平成31年 2月 7日	LA+LeCIS+図書館員共同企画「卒論・修論スタート座談会～先輩の体験談を聞いてみよう！」(中央図書館)

4. 講習会、オリエンテーション、ワークショップ

開催日	名称	講師
平成27年 4月21日～ 4月22日	留学生向け図書館利用説明会 (中央図書館/自然科学系図書館)	図書館職員
平成27年 5月12日	SciFinder講習会(自然科学系図書館AVホール)	化学情報協会担当者
平成27年 5月13日	PsycInfo講習会(人社第1講義棟206教室)	Wolters Kluwer Health/Ovid担当者
平成27年 6月29日～ 6月30日,7月1日	これさえ知ればレポート作成も怖くない:レポート作成基礎講座(中央図書館ブックラウンジ)	図書館職員
平成27年10月 2日	EBMR利用講習会(医学図書館十全記念スタジオ)	Wolters Kluwer Health/Ovid担当者
平成27年10月21日～10月22日	留学生向け図書館利用説明会 (中央図書館/自然科学系図書館)	図書館職員
平成27年10月26日	Mendeley講習会(自然科学系図書館 AVホール/ 医学図書館 十全記念スタジオ)	エルゼビア・ジャパン担当者
平成27年11月12日	CINAHL講習会(保健学類PC教室)	EBSCO社担当者
平成27年10月26日～10月28日	卒論・レポートのための資料の集め方講座 (中央図書館 オープンスタジオ)	図書館職員
平成27年12月 9日～12月10日	これさえ知ればレポート作成も怖くない:レポート作成基礎講座(中央図書館ブックラウンジ/オープンスタジオ)	図書館職員
平成28年 2月 9日～ 2月10日	秘書さんのためのミニ講習会 図書館活用& 文献入手法(医学図書館十全記念スタジオ)	図書館職員
平成28年 5月13日	SciFinder講習会(自然科学系図書館AVホール)	化学情報協会担当者
平成28年 5月16,17,19日	留学生向け図書館利用説明会 (中央図書館/自然科学系図書館)	図書館職員・LeCIS
平成28年 5月18日	ジャパンナレッジ講習会(中央図書館ボラリススタジオ)	株式会社ネットアドバンス担当者
平成28年 6月 3日	Biomedical & Life Sciences Lecturesの利用講習会 (医学図書館十全記念スタジオ)	Henry Stewart Talks担当者
平成28年 7月22,26,28日	コツをつかめばみるみる書ける:レポート作成基礎講座 (中央図書館ブックラウンジ)	図書館職員・LA
平成28年10月17日～10月19日	留学生向け図書館利用説明会 (中央図書館/自然科学系図書館)	図書館職員
平成28年 9月28日～ 9月29日	Scopus&Mendeley講習会 (医学図書館 十全記念スタジオ/自然科学系図書館 AVホール/中央図書館ボラリススタジオ)	エルゼビア・ジャパン担当者
平成28年10月21日	「EBMR」データベース利用講習会 (医学図書館 十全記念スタジオ)	Wolters Kluwer Health/Ovid担当者
平成28年10月24日～10月26日	図書館活用ミニ講座「卒論・レポートのための資料の 集め方」(中央図書館オープンスタジオ)	図書館職員
平成28年11月18,21,22日	これさえ知ればレポート作成も怖くない:レポート作成 基礎講座(中央図書館ボラリススタジオ)	図書館職員
平成28年11月25日	CINAHL講習会(保健学類PC教室)	EBSCO社担当者
平成29年 2月21日～ 2月22日	Scopus&Mendeley講習会 (医学図書館 十全記念スタジオ/自然科学系図書館 AVホール/中央図書館ボラリススタジオ)	エルゼビア・ジャパン担当者
平成29年 5月11日	SciFinder講習会(自然科学系図書館)	化学情報協会担当者
平成29年 8月29日～ 8月30日	秘書さんのためのミニ講習会 図書館活用&文献入手法(医学図書館)	図書館職員
平成29年10月19日～10月20日, 10月23日～10月24日	事務系職員向け附属図書館活用講座 (中央図書館 本部棟)	図書館職員
平成29年10月27,31日	看護師さんのためのミニ講習会 看護文献探索& 入手法(医学図書館)	図書館職員

附属図書館の活動(平成27～30年度)

平成29年10月23日～10月25日	図書館活用ミニ講座「卒論・レポートのための資料の集め方」(中央図書館)	図書館職員
平成29年11月26日	EBMR講習会(医学図書館)	Wolters Kluwer Health/Ovid担当者
平成29年12月21日	CINAHL講習会(保健学類図書室)	EBSCO社担当者
平成29年12月4,7,11,18日, 平成30年1月15,18日,3月7日	事務職員対象 英会話トレーニング「English Gym!」 (中央図書館/医学図書館/自然科学系図書館/ 本部棟)	図書館職員, LeCIS
平成29年12月13日	「日経テレコン21」講習会(中央図書館)	紀伊國屋書店担当者
平成30年1月24日～1月25日	Scopus & Mendeley講習会(中央図書館/自然科学系 図書館)※一部の講習会は英語で実施	エルゼビア・ジャパン担当者
平成30年4月3日	研修医オリエンテーション(附属病院)	図書館職員
平成30年4月6日	人間社会研究科新入生オリエンテーション	図書館職員
平成30年5月11日	SciFinder講習会(自然科学系図書館)	化学情報協会担当者
平成30年6月25日	図書館アカデミックセミナー「オンラインで計算力を 高めよう ～WeBWorKで計算ドリル～」(中央図書館)	学内教員
平成30年9月3日	病理生態・基本的基礎配属説明会(医学類)	図書館職員
平成30年10月23日～10月25日	卒論・レポートのための資料の集め方講座(中央図書館)	図書館職員
平成30年11月6日～11月7日	秘書さんのためのミニ講習会 図書館活用&文献 入手法(医学図書館)	図書館職員
平成30年11月21日	「EBMR」データベース利用説明会(医学図書館)	Wolter Kluwer Health/Ovid担当者
平成30年12月3日	CINAHL講習会(保健学類図書室)	EBSCO社担当者
平成30年12月13日～12月14日	Mendeley & Scopus & SciVal 講習会 (医学図書館/自然科学系図書館) 計6回:一部の講習会は英語で実施	エルゼビア・ジャパン担当者

5. 授業の講師

* 図書館職員が講師を分担し、図書館利用に関する講義を行っている。

授 業 科 目(実施期間)	内 容	対 象
共通科目「大学・社会生活論」 (平成27年4月9日～5月1日)	図書館の紹介及び利用方法について、1回講義を行う。	1年生(1,792名)
共通科目「情報処理基礎」 (平成27年5月11日～5月28日)	図書館を利用した学術情報の検索方法について、1回または2回に分けて講義及び実習を行う。	1年生(1,792名)
人間社会学域共通科目「大学・学問論」 (平成27年12月21日)	図書館の歴史について、1回講義を行う。	1年生(61名)
授業・ゼミ単位の講習会 (随時・各館)	授業やゼミなどの1コマを使って、学術情報の検索方法などの講義 及び実習を行う。 [平成27年度開催回数] 中央図書館15回、医学図書館1回、保健学類図書室5回	-----
共通科目「大学・社会生活論」 (平成28年4月11日～5月2日)	図書館の紹介及び利用方法について、1回講義を行う。	1年生(1,776名)
共通科目「情報処理基礎」 (平成28年5月6日～5月12日)	図書館を利用した学術情報の検索方法について、1回講義及び実習を行う。	1年生(1,776名)
人間社会学域共通科目「大学・学問論」 (平成28年11月28日、平成29年2月6日)	図書館の歴史について、2回講義を行う。	1年生(58名)
授業・ゼミ単位の講習会 (随時・各館)	授業やゼミなどの1コマを使って、学術情報の検索方法などの講義 及び実習を行う。 [平成28年度開催回数] 中央図書館15回、自然科学系図書館2回、医学図書館2回、 保健学類図書室4回	-----
共通教育科目「大学・社会生活論」 (平成29年4月10日～5月2日)	図書館の紹介及び利用方法について、1回講義を行う。	1年生(1,726名)
共通教育科目「情報処理基礎」 (平成29年5月1日～5月10日)	図書館を利用した学術情報の検索方法について、1回講義及び実習を行う。	1年生(1,726名)
人間社会学域共通科目「大学・学問論」 (平成29年11月20日、11月27日 平成30年1月29日、2月5日)	図書館の歴史等についての授業をアカデミック・アドバイザー教員と 合同で担当。	1年生(61名)
授業・ゼミ単位の講習会 (随時・各館)	授業やゼミなどの1コマを使って、学術情報の検索方法などの講義 及び実習を行う。 [平成29年度開催回数] 中央図書館14回、自然科学系図書館1回、保健学類図書室4回	-----

附属図書館の活動(平成27～30年度)

共通教育科目「大学・社会生活論」 (平成30年 4月16日～5月11日)	図書館の紹介及び利用方法について、1回講義を行う。〈全17コマ〉	1年生(1,787名)
共通教育科目「情報処理基礎」 (平成30年 5月 7日～5月11日)	図書館を利用した学術情報の検索方法について、1回講義及び実習を行う。〈全22コマ〉	1年生(1,787名)
人間社会学域共通科目「大学・学問論」 (平成30年11月19日,11月26日 平成31年 1月28日, 2月 4日)	図書館の歴史等についての授業をアカデミック・アドバイザー教員と 合同で担当。〈全2コマ×2回(*第3、4Q選択科目)〉	1年生(31名)
授業・ゼミ単位の講習会 (随時・各館)	授業やゼミなどの1コマを使って、学術情報の検索方法などの講義及び 実習を行う。 [平成30年度開催回数] 中央図書館 8回、自然科学系図書館1回、保健学類図書室 3回	-----

6. 教員おすすめ図書コーナー(金大生のための読書案内 — 教員から学生へ)

設置開始日	名 称	担当教員
平成27年 5月20日	第18回 感性を磨く昭和の名作文庫,視野を広げる平成の秀作新書	古畑 徹
平成28年 1月 6日	第19回 読書案内を書き, 自分の読書傾向を知る	横川 正美
平成28年 5月 9日	第20回 本は別世界への扉	西脇 ゆり
平成29年 1月 4日	第21回 大学生小説	福士 圭介
平成29年 5月31日	第22回 人間を理解する人間の試み	遠藤 徳孝
平成29年11月10日	第23回 統計学を拓いた異才たち	広瀬 修
平成30年 5月21日	第24回 時間がありあまっている(ように思える)人への濫読のすすめ	黒田 智
平成30年10月22日	第25回 人生を楽しむ本	前多 肇

7. 資料展示

期 間	名 称
平成27年 4月 7日～5月 9日	企画展示「仕組みを覗く」(自然科学系図書館)
平成27年 5月 8日～5月28日	EU資料展「EUについて基礎から学ぼう!」(中央図書館)
平成27年 6月 3日～6月30日	資料館アウトリーチ展 in 自然科学系図書館「学生が贈る企画展示<植物図「館」>」 (自然科学系図書館)
平成27年 6月15日～7月12日	企画展示「〇〇力」(中央図書館)
平成27年 6月17日～7月12日	ミニ展示「追悼 高橋治さん」(中央図書館)
平成27年 7月 6日～8月21日	企画展示「氷の世界」(自然科学系図書館)
平成27年 8月10日～8月11日	特別展示「教科書展」<オープンキャンパス> (中央図書館)
平成27年 9月25日～11月 2日	企画展示「図書館で今すぐできるCBT・OSCE対策」(医学図書館)
平成27年 9月28日～11月 1日	企画展示「地震に備えよう!」(中央図書館)
平成27年10月 1日～10月24日	ミニ展示「あなたの“学び”を助ける本、紹介します。」(自然科学系図書館)
平成27年10月 5日～10月22日	「国際ガールズ・デー関連BOOK FAIR」 (主催: 金沢大学TABLE FOR TWO推進サークルEn2(えん) 協力: 中央図書館)
平成27年10月23日～11月22日	企画展示「秋の夜長に三文豪!」(中央図書館)
平成27年11月 2日～11月21日	ECO学習コンクール入賞作品展(自然科学系図書館)
平成27年12月 2日～平成28年 1月 9日	企画展示「アインシュタインの業績」(自然科学系図書館)
平成27年12月 9日～平成28年 1月11日	学生企画展示「破かれた恋愛小説: 恋愛小説紹介」(中央図書館)[金沢大学資料館との共催]
平成28年 1月18日～2月10日	企画展示「LA・LeCISのおすすめ図書」(自然科学系図書館)
平成28年 1月26日～2月12日	「いざ、就活」就職活動支援図書展(中央図書館)
平成28年 1月28日～2月12日	企画展示「ビブリオバトルで戦った本たち2015」(中央図書館)
平成28年 4月11日～5月 8日	新歓企画展示「大先輩たちの著作展」(中央図書館)
平成28年 4月12日～5月 7日	企画展示「海外留学のすすめ」(自然科学系図書館)
平成28年 5月18日～6月22日	資料館アウトリーチ展 in 自然科学系図書館「電信小史」(自然科学系図書館)
平成28年 5月30日～6月17日	EU企画展「Study in Europe: EUに留学しませんか?」(中央図書館)
平成28年 6月23日～8月10日	EU企画展「青島鹵獲資料(青島文庫)」(中央図書館)
平成28年 7月 4日～8月10日	企画展示「LA・LeCISのおすすめ図書」(自然科学系図書館)
平成28年 7月11日～8月10日	企画展示「ブラジルと日本の架け橋」(中央図書館)
平成28年 8月 1日～10月14日	企画展示「第1回～第3回 輝く金沢大学フォトコンテスト」(中央図書館)
平成28年 9月26日～10月31日	企画展示「図書館で今すぐできるCBT・OSCE対策」(医学図書館)
平成28年10月 3日～10月16日	国際ガールズ・デー ブック展 (主催: 金沢大学TABLE FOR TWO推進サークルEn2(えん) 協力: 中央図書館)
平成28年10月 3日～10月27日	企画展示「没後150年シーボルト」(中央図書館・自然科学系図書館・医学図書館)
平成28年10月17日～11月 6日	企画展示「地震に備えよう! 2016」(中央図書館)
平成28年11月14日～12月14日	企画展示「漱石とシェイクスピア: 大文豪の作品を読んでみよう!」(中央図書館)

附属図書館の活動(平成27～30年度)

平成28年11月4日～12月15日	企画展示「世界を変える、世界を変えた研究 ノーベル賞」(自然科学系図書館)
平成28年12月1日～12月21日	ノーベル文学賞受賞記念特別展示「ボブ・ディランを読む」(中央図書館)
平成28年12月5日～12月21日	企画展示「いざ、就活」(中央図書館)
平成28年12月12日～12月27日	「しまんと新聞ばつぐ展」(中央図書館)
平成28年12月12日～平成29年1月12日	企画展示「とぼら おススメ映画展」(中央図書館)
平成29年1月16日～1月29日	「西アフリカの絵本展 アフリカのえほんってどんなの？」 (主催:金沢大学フランス語関係教員有志 共催:国際学類 協力:中央図書館)
平成29年1月16日～2月10日	企画展示「ビブリオバトルで戦った本たち2016」(中央図書館)
平成29年1月23日～2月10日	企画展示「図書館資料を使おう!就活準備&レポート作成」(自然科学系図書館)
平成29年4月10日～5月7日	新入生歓迎企画展示「図書館員がお薦めする『新生活応援!本』」(中央図書館)
平成29年5月9日～6月18日	EU企画展「スオミって知ってる?:フィンランド独立100周年記念企画展示」(中央図書館)
平成29年5月16日～6月17日	EU企画展「EUと環境」(自然科学系図書館)
平成29年6月19日～7月8日	企画展示「水」(自然科学系図書館)
平成29年6月22日～7月9日	EU企画展「ハンガリーって知ってる?」(中央図書館)
平成29年7月11日～8月8日	企画展示:LA・LeCIS・とぼらお薦め図書シリーズ #1「留学生用図書」(中央図書館)
平成29年7月11日～8月9日	企画展「LA・LeCISのおすすめ図書」(自然科学系図書館)
平成29年9月26日～11月11日	企画展「科学道100冊」(自然科学系図書館)
平成29年10月5日～11月30日	企画展示「災害と防災～知ろう!命を守るために～」(中央図書館)
平成29年10月6日～11月5日	【ミニ展示】2017年ノーベル文学賞受賞!「カズオ・イシグロ氏の世界」(中央図書館)
平成29年11月7日～11月16日	宗教改革500年記念ポスター展「#HereIstand～」&関連図書展(中央図書館)
平成29年11月17日～12月22日	企画展示「今こそ、スペインを知ろう!」(中央図書館)
平成29年11月17日～平成30年1月10日	企画展「地球を包む、地域を包む:環境とデザイン」(自然科学系図書館)
平成29年12月12日～平成30年1月12日	就職活動支援図書展「いざ、就活」(中央図書館)
平成30年1月12日～2月10日	就職活動支援図書展「いざ、就活 - 第2弾 in 自然科学系図書館」(自然科学系図書館)
平成30年1月15日～2月9日	企画展示「ロシアを知ろう!」(中央図書館)
平成30年1月24日～2月9日	【ミニ展示】「キング」をひらく～ミリオンセラー雑誌の誕生～(中央図書館)
平成30年4月9日～5月6日	新入生歓迎企画展示「図書館スタッフおすすめの新生活応援本」(中央図書館)
平成30年4月16日～5月20日	企画展示「ビブリオバトルで戦った本たち 2017」(中央図書館)
平成30年5月25日～6月23日	企画展示「すばらしき菌世界」(自然科学系図書館)
平成30年6月11日～7月1日	EU企画展「EUに留学しよう!:チェコ&ポーランド編」(中央図書館)
平成30年7月9日～8月9日	企画展示「インドネシアとカンボジアを知ろう!」(中央図書館)
平成30年8月6日～9月7日	企画展示「自然災害と防災」(自然科学系図書館)
平成30年10月4日～10月31日	企画展示「もっと知ろう!災害と防災」(中央図書館)
平成30年10月12日～11月15日	企画展示「図書館で今すぐできるCBT・OSCE対策」(医学図書館)
平成30年10月15日～11月4日	企画展示「鈴木大拙-西田幾多郎記念金沢大学国際賞 第1回受賞者 フレデリック・ジラル先生業績展」(中央図書館)
平成30年11月16日～平成31年1月10日	企画展示「ORIGAMI:紙を折る、そして広げる」(自然科学系図書館)
平成30年11月19日～12月26日	企画展示「明治150年金大図書館の蔵書でたどる日本近現代文学百選」(中央図書館)
平成30年11月26日～12月21日	企画展示「明治150年金大医学部の前身校とその蔵書」(医学図書館)
平成30年12月4日～平成31年1月11日	就職活動支援図書展「いざ、就活」(中央図書館)
平成31年1月11日～2月9日	就職活動支援図書展「いざ、就活 - 第2弾 in 自然科学系図書館」(自然科学系図書館)
平成31年1月15日～2月15日	企画展示「ベルギーとポルトガルを知ろう!」(中央図書館)

8. 式典

開催日	名称
平成27年11月1日	第4回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール表彰式(自然科学系図書館)
平成28年2月10日	北陸銀行文庫寄付図書目録贈呈式(中央図書館)
平成29年2月2日	北陸銀行文庫寄付図書目録贈呈式(中央図書館)
平成30年2月26日	北陸銀行文庫寄贈図書目録贈呈式(中央図書館)
平成31年2月4日	北陸銀行文庫寄贈図書目録贈呈式(中央図書館)

9. 出版物

名称	内容
附属図書館報こだま	186号(平成27年4月1日)、187号(平成27年7月31日)、188号(平成28年1月22日)
附属図書館概要	2015年版(平成27年9月発行)
附属図書館ガイド(学内者用)	日本語版、英語版(平成28年3月発行)
附属図書館報こだま	189号(平成28年4月1日)、190号(平成28年7月29日)、191号(平成29年1月27日)、192号(平成29年3月31日)
附属図書館概要	2016年版(平成28年8月発行)
附属図書館ガイド(学内者用)	日本語版 改訂(平成29年3月発行)

附属図書館の活動(平成27～30年度)

附属図書館報こだま	192号(平成29年3月31日)、193号(平成29年7月21日)、194号(平成30年1月11日)
附属図書館概要	2017年版(平成29年7月発行)
附属図書館利用ガイド(学内者用)	英語版改訂(平成29年10月発行)、日本語版、英語版改訂(平成30年3月発行)
附属図書館報こだま	195号(平成30年4月1日)、196号(平成30年7月20日)、197号(平成31年1月11日)、198号(平成31年3月29日)
附属図書館概要	2018年版(平成30年7月発行)
附属図書館利用ガイド(学内者用)	日本語版、英語版改訂(平成31年3月発行)

10. その他の特記事項

日 時	内 容
平成27年 7月10日	ほん和か文庫を設置(医学図書館)
平成27年 8月17日～ 8月21日	トイレ改修工事に伴う臨時休館(中央図書館)
平成27年 8月 3日～ 9月18日	いしかわクールシェアスポットに参加
平成27年 8月22日～ 8月23日	いしかわ環境フェア2015に出展
平成27年10月 5日～	ラーニング・アドバイザー(LA)、留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)の学修支援サービスを開始(中央図書館、自然科学系図書館)
平成27年11月11日	金沢大学・石川県立大学ワークショップでビブリオバトルを実演
平成28年 1月28日～ 2月10日	早朝開館を試行(中央図書館)
平成28年 2月20日～ 2月28日	改装工事に伴う臨時休館(中央図書館)
平成28年 1月25日	東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテスト受賞【優秀賞】
平成28年 4月11日～	ラーニング・アドバイザー(LA)、留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)の学修支援サービスを開始(中央図書館、自然科学系図書館)
平成28年 5月27日～	早朝開館を実施(中央図書館) 5/27-6/9, 7/25-8/5, 11/21-12/2, 1/30-2/10
平成28年 8月 3日～ 9月18日	いしかわクールシェアスポットに参加
平成28年 8月27日～ 8月28日	いしかわ環境フェア2016に出展
平成28年11月11日	金沢大学・石川県立大学ワークショップでビブリオバトルを実演
平成29年 3月 3日～ 3月 8日	システム改修及び照明工事に伴う臨時休館(中央図書館)
平成29年 1月25日	東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテスト受賞【優秀賞】
平成29年 3月	図書館利用案内DVDを改訂
平成29年 4月	平成29年度のラーニング・アドバイザー、留学生ラーニング・コンシェルジュ、アカデミック・アドバイザー教員の学修支援サービスを開始(中央図書館、自然科学系図書館)
平成29年 6月24日	Bibliobattle of the Year 2017 特別賞受賞(ビブリオバトル普及委員会)
平成29年 8月 1日～ 9月 1日	いしかわクールシェアスポットに参加
平成29年 8月 9日～ 9月28日	空調工事(中央図書館)
平成29年11月10日	金沢大学学術情報リポジトリKURAのプラットフォームをJAIRO Cloudへ移行
平成29年12月15日	大学図書館未来構想を策定
平成30年 4月 1日	金沢大学オープンアクセス方針を施行
平成31年 1月 1日	SCOAP3プロジェクト2019に参加

金沢大学附属図書館公式 Facebook ページ及び公式 Twitter アカウント運用ポリシー

平成 28 年 7 月 7 日

附属図書館長裁定

1 趣旨

金沢大学附属図書館（以下「図書館」という。）が行う公式 Facebook ページ（URL：<https://www.facebook.com/KanazawaUniversityLibrary>）及び公式 Twitter アカウント（アカウント名：@KanazawaUnivLib）の運用について、必要な事項を定める。

2 運用

(1) 掲載の担当等

- ① 当 Facebook ページ及び Twitter アカウントについての責任者は情報サービス課長とする。
- ② 掲載は、図書館職員が行う。
- ③ 掲載に当っては、事前に情報サービス課長の了承を得て行う。

(2) 内容

- ① 図書館 Web サイトに掲載した内容
- ② 図書館に関する日常的な情報
- ③ 図書館のサービス、所蔵資料、開催イベント等に関する情報
- ④ ネットワーク、システム等の障害等並びに災害等が発生した場合の緊急情報

(3) 書き込まれたコメント等に対する措置

- ① 情報発信にのみ利用し、寄せられたコメントへの返信は原則として行なわないものとする。また、当 Twitter アカウントで他アカウントをフォローしないものとする。
- ② 当サービスの運営に支障をきたすような妨害を行う利用者に対しては、ブロックする等の対策を取るものとする。
- ③ コメントの内容が法令、学内規程、公序良俗等に照らして不適切又は運営に支障をきたすと情報サービス課長が判断した場合は、コメントを削除することができる。

(4) セキュリティ

- ① 図書館ウェブサイトの二次的・補助的な情報公開の手段とする。
- ② 図書館が管理するアカウントで運用する。
- ③ アカウント名、アカウント運用者名、URL 表記等により組織的な運用であることを明示する。
- ④ 図書館 Web サイトとの相互リンクを行い、組織的な運用であることを明示する。
- ⑤ その他、金沢大学情報セキュリティポリシーに従って運用する。

3 その他

- ① 当 Facebook ページ及び Twitter アカウントは，事前に告知なく停止又は削除となる場合がある。
- ② 本ポリシーの内容を，図書館ウェブサイト，Facebook ページ及び Twitter アカウントのコメント欄に記載する。

LA及びLeCISの活動に関するアンケート調査 集計結果概要(平成30年2月実施)

実施期間: 2018年2月5日～2月12日

対象者: 全学生、全大学院生

実施方法: 附属図書館Webページに回答用フォームを用意し、アカンサスポータルで広報

回答数: 43

(属性別内訳)

学類・研究家等	学年
人社	10
理工	8
医薬保	2
人社環研	3
自然研	18
研究生等	2
合計	43

質問2(具体的内容・複数回答可)

大学での学習法	7	41%
語学(会話の練習、文章の添削)	7	41%
図書館利用法・資料の探し方	6	35%
論文(卒論等)の書き方	6	35%
レポートの書き方	5	29%
プレゼンの作り方、発表の仕方	5	29%
個別レポートや論文の添削	4	24%
大学院入試対策	4	24%
理系科目の予習復習、試験対策	3	18%
進路選択、就職活動	3	18%
文系科目の予習復習、試験対策	2	12%

質問1 この1年間、大学での学習に関して、相談したいことがありましたか？

あった	なかった
17	26

40% 60%

質問3 附属図書館で、LA(先輩学生)が学習相談を行っていることを知っていますか？

知っている	知らない
31	12

72% 28%

質問4 LAに相談したことはありますか？

ある	ない
9	34

21% 79%

質問6 相談の結果、問題の解決に役立ちましたか？

はい	いいえ
8	1

資料5(具体的内容・自由記述)

英語学習法／普段のお勉強、線型代数、微積分など／日本語のチェック 日本語文章／レポートの書き方／日本でマラソンの登録方法／言語／図書館に備え付ける本のリクエスト方法／化学

質問7 附属図書館で、LeCIS(留学生の大学院生)が学習相談を行っていることを知っていますか？

知っている	知らない
23	20

53% 47%

質問8 LeCISに相談したことはありますか？

ある	ない
5	38

12% 88%

質問10 相談の結果、問題の解決に役立ちましたか？

はい	いいえ
5	0

資料9(具体的内容・自由記述)

大学院入試対策／研究計画書 進路／言語／図書館の利用方法

質問11 日頃、大学での学習について疑問等があった場合、どのような方法で解決していますか？(複数回答可)

友人に相談	自分で調べて解決	先輩に相談	教員に相談	LA・LeCISに相談
31	27	25	23	5

72% 63% 58% 53% 12%

質問12 相談デスクの場所についてお尋ねします。どういう場所にあると相談しやすいでしょうか？

グループ学習用の部屋の一角	個室	総合教育棟入口	カフェの一角
23	17	13	11

53% 40% 30% 26%

質問13 LA、LeCISの相談デスクの活動時間帯について希望があればお書きください。

14:00から18:00／5限終了以降。今のスケジュールだと授業が忙しいと相談に行けない／3-5限／昼食時や16:30頃／午後／9:00～17:00／17:00以降／授業後(17:30頃以降)／15:00-16:30

質問14 図書館では、English Hour!のような留学生との国際交流イベントも行っています。

実施時間、場所、内容等についてご希望があればお書きください。

ほん和カフェやグループスタジオで、1～4限までの時間帯にも行ってほしい／内容は事前に教えてほしいです／昼食時

質問15 その他、学習支援についての要望があれば自由にお書きください。

就職について 履歴書やESなど

平成 28 年 3 月 15 日
図書館委員会決定

金沢大学附属図書館ラーニング・コモンズ利用内規

(趣旨)

第 1 条 この内規は、金沢大学附属図書館（以下「本館」という。）に設置するラーニング・コモンズの利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第 2 条 ラーニング・コモンズは、次の施設で構成されるものの総称とする。

- (1) ブックラウンジ
- (2) オープンスタジオ
- (3) グループスタジオ
- (4) ポラリススタジオ
- (5) 国際交流スタジオ及び国際交流コーナー

(用途)

第 3 条 ラーニング・コモンズは、金沢大学（以下「本学」という。）の学生の学修活動等に供する施設として、次に定める用途に利用できるものとする。

- (1) 個人又はグループによる学修
- (2) 学習、教育及び研究に関する講演会、説明会等のイベント
- (3) 図書館資料及び情報検索活用を目的とした授業等
- (4) その他本館館長（以下「館長」という。）が認めた活動

(利用)

第 4 条 ラーニング・コモンズの各施設の利用は、次に定めるところによる。

(1) 中央図書館

施設名	利用対象者	利用時間	利用方法
ブックラウンジ	制限なし	開館時間と同じ	① 原則として、自由に利用できるものとする。ただし、1グループによる占有は認めない。 ② 当該施設の一部について、利用の予約を希望するときは、事前に別に定めるところにより第 10 条に定める係に申し込むものとする。
オープンスタジオ ポラリススタジオ 国際交流スタジオ	金沢大学附属図書館利用規程第 2 条 第1項 第 1 号から第 4 号に定める本学学生、職員及びこれらに準ずる者並びに本学名誉教授(以下「本学構成員」という。)		① 原則として、自由に利用できるものとする。 ② 利用の予約を希望するときは、事前に別に定めるところにより第 10 条に定める係に申し込むものとする。
オープンスタジオⅡ			図書館オンラインサービスの画面から事前予約を行った後、サービスカウンターで鍵を受け取った上で利用するものとする。
グループスタジオ		閉館時刻の 10 分前まで	

(2) 自然科学系図書館

施設名	利用対象者	利用時間	利用方法
	本学構成員	開館時間と同じ	① 原則として、自由に利用できるもの

オープンスタジオ			とする。ただし、1グループによる占有は認めないものとする。 ② 施設の一部について、利用の予約を希望するときは、事前に所定の手続きにより第10条に定める係に申し込むものとする。
国際交流スタジオ			① 原則として、自由に利用できるものとする ② 利用の予約を希望するときは、事前に所定の手続きにより第10条に定める係に申し込むものとする。
グループスタジオ		閉館時刻の10分前まで	図書館オンラインサービスの画面から事前予約を行った後、サービスカウンターで鍵を受け取った上で利用するものとする。

(3) 医学図書館

施設名	利用対象者	利用時間	利用方法
ブックラウンジ	制限なし	開館時間と同じ	① 原則として、自由に利用できるものとする。ただし、1グループによる占有は認めないものとする。 ② 当該施設の部分的利用の予約を希望するときは、事前に所定の手続きにより第 10 条に定める係に申し込むものとする。
オープンスタジオ	本学構成員		① 原則として、自由に利用できるものとする。 ② 利用の予約を希望するときは、事前に所定の手続きにより第 10 条に定める係に申し込むものとする。
国際交流コーナー			① 原則として、自由に利用できるものとする。 ② 利用の予約を希望するときは、事前に所定の手続きにより第 10 条に定める係に申し込むものとする。
グループスタジオ		閉館時刻の 10 分前まで	図書館オンラインサービスの画面から事前予約を行った後、サービスカウンターで鍵を受け取った上で利用するものとする。

- 2 各施設に備え付けの机、椅子及び機器類は自由に利用できるものとし、利用後は現状に復帰するものとする。
- 3 授業、グループ学習等以外のイベント及び展示のためにラーニング・コモンズを利用するときは、次条及び第6条に定めるところによるものとする。

(イベントの実施)

第5条 ブックラウンジ、オープンスタジオ及び国際交流スタジオにおいて、イベントを実施するときは、次に掲げるところによるものとする。

- (1) イベントの実施を希望する者（以下この条において「イベントの主催者」という。）は、利用日の1週間前（休館日を除く。）までに、別に定めるところにより第10条に定める係まで申し込むものとする。

- (2) イベントの主催者は、本学構成員とする。
- (3) イベントの終了時刻は、閉館時刻の30分前までとする。
- (4) 施設内の機器類の取扱いに関する説明等の対応は、平日の8時45分から17時までとし、イベントの主催者は、この時間外に機器類を使用する場合に説明が必要な場合は事前に説明等を受けるものとする。
- (5) イベントの主催者は、イベント開催時の音声等の音量について、閲覧エリアの利用者に影響を及ぼさないよう注意しなければならない。

(展示の実施)

第6条 ブックラウンジにおいて、展示を実施する場合は、次に掲げるところによるものとする。

- (1) 展示を希望する者(以下この条において「展示の主催者」という。)は、利用日の2週間前(休館日を除く。)までに、別に定めるところにより第10条に定める係まで申し込むものとする。
- (2) 展示の主催者は、本学構成員とする。ただし、本学構成員以外の者で、国立大学法人金沢大学固定資産(不動産等)貸付け等要領第6条第3号に掲げる利用目的に合致し、館長が特に認めたものについては、この限りではない。
- (3) 展示期間は、4週間以内とする。ただし、特段の理由があると館長が認めた場合は、延長することができるものとする。
- (4) ラーニング・コモンズの使用は、無償とする。
- (5) 本館は、展示物の盗難、破損等についての責任は、負わないものとする。

(禁止事項)

第7条 利用者は、ラーニング・コモンズの利用について、諸規則及び本館職員が指示する事項を遵守しなければならない。

2 利用者は、次に掲げる行為をしてはならない

- (1) 各種勧誘活動
- (2) 募金活動
- (3) 物品の販売
- (4) 大声での会話
- (5) 第3条に定める利用にかかわらない電源の利用
- (6) 施設内での許可のない掲示
- (7) 周囲の利用者の妨げとなる行為(必要以上に大きな音、臭い、光等を発すること。), 学習を目的としない行為等
- (8) その他他の利用者に迷惑をかける行為

(利用の停止等)

第8条 館長は、前条の規定に違反した者に対し、退出又は利用の停止を命ずることができる。

(飲食及び携帯電話等の利用)

第9条 飲食及び携帯電話等の利用については、別に定める。

(施設の管理)

第10条 ラーニング・コモンズの各施設の管理に関する事務は、次の各号に定める図書館の施設について当該各号に定める係が処理する。

- (1) 中央図書館 中央図書館係
- (2) 自然科学系図書館 自然科学系図書館係
- (3) 医学図書館 医学図書館係

(雑則)

第 1 1 条 この内規に定めるもののほか、ラーニング・コモンズの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

○金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項

〔平成22年12月6日
図書館委員会決定〕

(要旨)

第1 この要項は、金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針第3に基づき、学問及び文化の遺産として後世に継承する価値があると認められる図書館資料(写本及び手稿類を含む)について、その指定基準、保存及び管理運用の方法に関し、必要な事項を定めるものとする。

(貴重資料の指定基準)

第2 貴重資料の指定基準は、次の号によるものとする。

- (1) 洋書は1700年以前、和書は元和以前、漢籍は明代(万暦年間)以前にそれぞれ刊行されたもの。
- (2) 前号に属さないもので、特に希少価値、資料的価値又は芸術的価値があると認められるもの。

(準貴重資料の指定基準)

第3 準貴重資料の指定基準は、次の号によるものとする。

- (1) 洋書は1701年から1900年まで、和書は寛永から明治まで、漢籍は清代に刊行されたもので、希少価値、資料的価値又は芸術的価値において貴重資料に次ぐものと認められるもの。
- (2) 前号に属さないもので、将来、資料的価値が生ずると予想されるもの。

(集書・叢書)

第4 一括して取扱うことによって資料的価値が生ずると認められる集書・叢書は、その全体を貴重資料又は準貴重資料として指定する。

(指定)

第5 貴重資料及び準貴重資料(以下「資料」という。)の指定は、金沢大学図書館委員会が関係教員の意見を徴して認定し、附属図書館長が行う。

(整理)

第6 資料の整理は、次の各号によるものとする。

- (1) 資料の分類は、資料の種類により日本十進分類表、米国国立医学図書館分類表又は文庫固有の分類表等を適用するものとする。
- (2) 目録情報は、日本目録規則又は英米目録規則等に基づき作成するものとし、特に重要な目録情報の作成にあたっては、最新の注意を払う。

(装備)

第7 資料の装備は、次の各号によるものとする。

- (1) 新たに受入れた資料への蔵書印の押印、登録番号の付番及びラベルの貼付の際は、書誌的に重要な箇所を避け、かつ、原形を損なうことのないよう注意する。
- (2) 和装本、卷子本及び一枚もの等は、畳紙、袋、函等を作成して収納する。

(保管)

第8 資料の保管は、次の各号によるものとする。

- (1) 資料は、中央図書館にあっては特別資料室又は保存書庫、医学系分館にあっては医学系分館貴重資料室又は医学部記念館資料室、自然科学系図書館にあっては貴重資料室(以下「資料室」という。)に配架するものとする。
- (2) 資料室は、防虫、除湿等に必要な措置を講じ、資料を損傷することのないよう十分注意するものとする。

(補修)

第9 資料の補修を行う場合は、慎重に形態・保存状況等を見極め、有識者の意見を徴した上で、必要に応じて専門業者に委託するものとする。

(利用)

第10 資料の利用は、金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料利用内規に定めるところによるものとする。

附 則

この要項は平成14年9月11日から施行する。

附 則

この要項は平成22年12月6日から施行する。

(資料25)附属図書館関係各種統計(経年変化)

大学・図書館規模

		H26	H27	H28	H29	H30	根拠
a1.1	予算規模(千円)	50,595,915	52,179,808	51,915,318	52,730,778	54,692,856	大学財務諸表「経常経費」
a1.2	学部規模	8	8	8	8	8	学術基盤実態調査
a1.3	キャンパスの数	2	2	2	2	2	
a1.4	スタッフ						
a1.4(1)	総学部学生在籍数	7,932	7,911	7,895	7,851	7,862	大学概要 5/1現在(別科・科目等履修生・研究生等を含まず)
a1.4(2)	総大学院生在籍数	2,369	2,329	2,341	2,341	2,336	大学概要(法務研含む。科目等履修生・研究生等を含まず)
a1.4(3)	教員数	1,207	1,208	1,290	1,287	1,291	大学概要(特任教員・教諭を含む)
a1.5	図書館規模						
a1.5(1)	蔵書冊数	1,878,426	1,891,674	1,911,945	1,928,640	1,911,948	図書館概要
a1.5(2)	逐次刊行物所蔵数	36,014	36,060	36,120	36,274	36,332	図書館概要
a1.5(3)	図書館・図書室数	4	4	4	4	4	図書館概要
a1.5(4)	図書館施設面積(m ²)	20,510	20,510	20,510	20,567	19,793	大学概要
a1.5(5)	図書館職員数	44	45	46	44	44	図書館概要

資源

		H26	H27	H28	H29	H30	根拠
a2.1	蔵書冊数						
a2.1(1)	利用対象者当たりの蔵書冊数	163.23	165.24	165.88	168.01	166.42	蔵書冊数/(全学生+教員)
a2.2	収集活動						
a2.2(1)	利用対象者当たりの年間購入図書及び購読雑誌数	1.41	1.26	1.21	1.08	1.05	年間購入冊数/(全学生+教員)
		0.14	0.14	0.13	0.12	0.11	年間購読雑誌数/(全学生+教員)
a2.4	目録資源						
a2.4(1)	OPACデータ入力率	46.47%	46.99%	47.23%	47.37%	48.36%	NACSIS-CAT業務分析表(国立情報学研究所作成)

管理運営

		H26	H27	H28	H29	H30	根拠
a3.1	職員						
a3.1(1)	図書館職員当たりの利用対象者数	261.55	254.40	250.57	260.89	261.11	(全学生+教員)/図書館職員数
a3.1(2)	図書館職員当たりの蔵書数	42,692	42,037	41,564	43,833	43,453	蔵書数/図書館職員数
	〃 図書受入冊数	514	412	449	449	425	図書受入冊数/図書館職員数
	〃 雑誌受入数	136	129	122	117	115	雑誌受入タイトル数/図書館職員数
a3.2	施設設備						
a3.2(1)	利用対象者当たり図書館面積・閲覧座席数・利用対象者当たり閲覧座席数	1.78	1.79	1.78	1.79	1.72	面積/(全学生+教員)
		2,033	2,099	2,164	2,182	2,186	大学概要
		0.18	0.18	0.19	0.19	0.19	座席数/(全学生+教員)
a3.3(1)	開館状況						
	年間開館日数(中央図書館)	313	298	300	305	300	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(中央図書館)	3,479	3,287	3,356	3,382	3,343	学術基盤実態調査
	年間開館日数(自然科学系図書館)	280	280	272	272	275	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(自然科学系図書館)	3,149	3,153	3,061	3,052	3,083	学術基盤実態調査
	年間開館日数(医学図書館)	306	300	295	297	298	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(医学図書館)	3,598	3,456	3,463	3,472	3,468	学術基盤実態調査
a3.3(2)	休日・時間外の開館状況(中央図書館)						
	休日開館日数	41	41	33	36	31	学術基盤実態調査

(資料25) 附属図書館関係各種統計(経年変化)

	休日開館時間数	328	336	264	288	248	学術基盤実態調査
	夜間・土曜開館時間数	1,187	1,179	1,056	1,046	1,048	学術基盤実態調査

サービス

		H26	H27	H28	H29	H30	根拠
a4.2	図書館アクセス						
	入館者数	776,256	756,491	748,214	710,622	704,529	図書館概要
a4.2(2)	利用対象者の平均来館数	67.45	66.08	64.92	61.91	61.32	入館者数/(全学生+教員)
a4.4	貸出						
	貸出冊数(学生)	113,423	111,274	100,046	98,119	99,822	図書館概要
	貸出冊数(教員)	13,221	13,693	13,457	14,223	14,135	図書館概要(*職員を含む)
	貸出冊数(学外者)	5,510	5,664	6,195	5,944	5,754	図書館概要
a4.4(2)	利用対象者の平均貸出冊数	11.00	10.92	9.85	9.79	9.92	貸出冊数(学生+教職員)/(全学生+教員)
a4.7	ILL件数						
	貸借(受付)	962	1,145	1,147	732	868	図書館概要
	貸借(依頼)	1,103	1,270	1,061	945	988	図書館概要
	複写(受付)	4,113	3,661	3,992	3,950	3,157	図書館概要
	複写(依頼)	3,852	3,663	3,247	3,266	2,834	図書館概要
a4.7(3)	ILL受付件数と依頼件数の割合						
	貸借(依頼/受付)	1.14	1.11	0.93	1.29	1.14	貸借(依頼/受付)
	複写(依頼/受付)	0.94	1.00	0.81	0.83	0.90	複写(依頼/受付)

経費 大学総経費＝予算規模-(受託研究費+受託事業費), 図書館総経費＝図書館運営費(特別管理経費+図書館事業費)+人件費+図書館配当資料費

		H26	H27	H28	H29	H30	根拠
a5.1	全般						
a5.1(1)	大学総経費に占める図書館経費の割合	1.06%	1.08%	1.07%	1.11%	0.98%	大学総経費/図書館総経費
a5.1(2)	利用対象者当たりの図書館総経費(円)	45,065	47,186	46,491	48,857	44,871	図書館総経費/(学生+教員)*1000
a5.2	図書館運営費						
a5.2(1)	図書館総経費に占める図書館運営費の割合	10.77%	10.14%	10.47%	9.90%	11.23%	図書館運営費/図書館総経費
a5.2(2)	図書館総経費に占める人件費の割合	37.50%	36.94%	36.32%	43.16%	34.50%	人件費/図書館総経費
a5.2(3)	図書館総経費に占める外部委託費の割合(L2)	0.51%	0.40%	0.40%	0.38%	0.41%	外部委託費/図書館総経費
a5.2(4)	図書館総経費に占める賃借料の割合(L2)	2.23%	2.15%	2.19%	2.09%	2.27%	計算機賃借料/図書館総経費
a5.2(5)	図書館総経費に占めるその他の運営費の割合(L2)	8.03%	7.60%	7.89%	7.43%	8.55%	運営費-外部委託費-計算機賃借料/図書館総経費
a5.3	図書館資料費						
a5.3(1)	図書館総経費に占める図書館資料費の割合(L1)	51.73%	52.92%	53.21%	46.94%	54.27%	図書館配当資料費/図書館総経費
a5.3(2)	図書館資料費に占める図書購入費の割合	15.28%	13.99%	11.92%	12.74%	11.85%	図書+大型コレクション費/図書館配当資料費
a5.3(3)	図書館資料費に占める雑誌購入費の割合	1.46%	1.46%	1.24%	1.34%	1.26%	雑誌/図書館配当資料費
a5.3(4)	図書館資料費に占める電子資料費の割合	82.58%	83.92%	86.21%	85.30%	86.30%	EJ+DB/図書館配当資料費
a5.3(5)	図書館資料費に占めるその他の資料費の割合	0.67%	0.63%	0.63%	0.62%	0.60%	製本費/図書館配当資料費
a5.3(6)	利用対象者当たりの図書館資料費(円)	22,313	24,970	24,737	22,933	24,351	図書館配当資料費/(学生+教員)
a5.3(7)	利用対象者当たりの図書購入費(円)	3,563	3,494	2,950	2,922	2,885	図書+大型コレクション費/(学生+教員)*1000
a5.3(8)	利用対象者当たりの雑誌購入費(円)	341	365	307	307	307	雑誌/(学生+教員)*1000
a5.3(9)	利用対象者当たりの電子資料費(円)	19,253	20,954	21,325	19,561	21,014	EJ+DB/(学生+教員)*1000
a5.3(10)	利用対象者当たりのその他の資料費(円)	156	157	156	143	146	製本費/(学生+教員)*1000

(資料26) 附属図書館関係各種統計(文部科学省学術情報基盤実態調査による他大学との比較)

●「平成30年度学術情報基盤実態調査」(令和元年7月現在公表されている最新版)

<https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001015878>

全体の統計とA～Dの大学規模別の集計値が公表されている。

資料中に記載のA、Bクラスの内訳は以下のとおり。金沢大学はAクラスに分類されている。

・Aクラス(8学部以上)20校

北海道大学・東北大学・千葉大学・東京大学・新潟大学・金沢大学・信州大学・名古屋大学・
京都大学・大阪大学・神戸大学・岡山大学・広島大学・山口大学・九州大学・長崎大学・
鹿児島大学・筑波大学・高知大学・富山大学

・Bクラス(5～7学部)20校

弘前大学・山形大学・茨城大学・宇都宮大学・埼玉大学・東京工業大学・横浜国立大学・
岐阜大学・静岡大学・三重大学・徳島大学・愛媛大学・熊本大学・琉球大学・
総合研究大学院大学・島根大学・香川大学・佐賀大学・大分大学・宮崎大学

●(参考)

平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告

<https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-07/jittai30kekka.pdf>

平成30年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告(概要)

<https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-07/jittai30gaiyo.pdf>

●算出方法の相違により、一部の項目については、図書館概要等の数値と異なる。

〔Ⅰ 総括事項〕

平成30年5月1日現在

区分	大学数	教員数	職員数	学生数	大学図書館数			
					中央 図書館	分館	部局図 書館・室	計
金沢大学	1	1,291	1,515	10,441	1	2	0	3
Aクラス平均	1	1,820	2,278	15,315	1	2	5	9
Bクラス平均	1	703	1,022	7,524	1	1	0	2

※ 教員数、職員数、学生数は学校基本調査(平成30年5月1日現在)を特別集計したもの

※ 本表に記載する金沢大学の教員数、職員数、学生数は「大学概要2018」に基づく人数

〔Ⅱ 個別事項〕

1-1 職務内容別内訳

①専任職員・臨時職員

平成30年5月1日現在

区分	図書館・室職員総数			管理職			一般		
	専任	臨時	計	専任	臨時	計	庶務・会計		
							専任	臨時	計
金沢大学	23	21	44	3	0	3	5	1	6
Aクラス平均	46	59	105	6	0	6	3	2	5
Bクラス平均	12	20	32	2	0	2	2	1	3

区分	専門											
	情報処理			受入			整理			閲覧		
	専任	臨時	計	専任	臨時	計	専任	臨時	計	専任	臨時	計
金沢大学	1	1	2	3	3	6	4	3	7	2	15	17
Aクラス平均	2	1	3	8	7	15	5	7	12	8	26	34
Bクラス平均	1	0	1	3	2	5	1	2	3	1	9	10

区分	専門						その他			業務全般		
	参考			計			専任	臨時	計	専任	臨時	計
	専任	臨時	計	専任	臨時	計						
金沢大学	1	2	3	11	24	35	0	0	0	5	9	14
Aクラス平均	4	4	8	26	46	71	3	4	7	9	7	16
Bクラス平均	1	2	3	7	16	23	0	1	2	2	2	3

※ その他:管理職、一般、専門、業務全般以外の業務に従事している者

1-1 職務内容別内訳

②業務委託等職員

平成30年5月1日現在

区分	総数	管理職	一般	専門						その他	業務全般
			庶務・会計	情報処理	受入	整理	閲覧	参考	計		
金沢大学	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Aクラス平均	7	0	0	0	0	0	5	0	5	1	1
Bクラス平均	3	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0

※ その他:管理職、一般、専門、業務全般以外の業務に従事している者

1-2 資格別内訳

平成30年5月1日現在

区分	情報処理技術者			司書			司書補			国立大学法人等 職員採用試験 (事務系(図書)) (国立大学のみ)		
	専任	臨時	計	専任	臨時	計	専任	臨時	計	専任	臨時	計
金沢大学	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
0	0	0	0	13	14	27	0	0	0	8	0	8
Aクラス平均	3	1	3	37	27	63	1	0	1	32	0	33
Bクラス平均	1	0	1	8	5	13	0	0	0	6	0	6

2. 施設・設備

2-1 面積・閲覧座席数

平成30年5月1日現在

区分	総面積 数	用途別面積							閲覧 座席数
		サービススペース				管理スペース		その他	
		閲覧 スペース	視聴覚 スペース	情報 端末 スペース	その他	書庫	事務 スペース		
	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	席
金沢大学	19,023	6,826	191	74	2,046	5,402	1,267	3,217	2,186
Aクラス平均	29,050	9,212	253	572	2,215	9,150	2,327	5,322	2,140
Bクラス平均	9,597	3,300	93	255	969	2,749	729	1,502	903

※ その他:サービススペース、管理スペースに該当しないすべての廊下、階段、便所等

2-2 書架収容力

平成30年5月1日現在

区分	書架収容力	
	棚板	収容可能冊数
金沢大学	m	冊
58,516	1,625,445	
Aクラス平均	112,483	3,124,518
Bクラス平均	30,648	851,333

2-3 図書館利用者用端末台数

平成30年5月1日現在

区分	図書館利用者用端末台数			
	据置き		貸出し	合計
		OPAC 専用 端末		
金沢大学	台	台	台	台
80	11	0	91	
Aクラス平均	155	28	23	178
Bクラス平均	81	9	11	91

3. 蔵書数

平成29年度末日現在

区分	印刷物の蔵書数								
	図書				雑誌				学位論文 (博士論文)
	全所蔵冊数	和	洋	点字	全所蔵種類数	和	洋	点字	
金沢大学	冊 1,928,640	冊 1,246,547	冊 682,093	冊 0	種 36,274	種 21,875	種 14,399	種 0	冊 1,922
Aクラス平均	3,010,720	1,741,478	1,269,177	65	56,171	32,237	23,933	0	16,194
Bクラス平均	881,714	602,979	278,720	15	19,244	11,927	7,317	0	2,326

区分	電子情報資源の利用可能種類数								
	電子ジャーナル								
	全利用可能種類数			出版社			その他		
	国内	国外	計	国内	国外	計	国内	国外	計
金沢大学	種 1,340	種 6,789	種 8,129	種 6	種 6,507	種 6,513	種 1,334	種 282	種 1,616
Aクラス平均	1,016	20,247	21,263	95	6,912	7,007	922	13,335	14,256
Bクラス平均	660	8,688	9,348	19	5,563	5,582	641	3,124	3,766

※ その他:多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービスを行う業者(いわゆる「アグリゲータ」)が提供しているもの

区分	電子情報資源の利用可能種類数								
	電子書籍			データベース			学位論文 (博士論文)	マイクロ資料の 所蔵数	視聴覚資料の 所蔵数
	国内	国外	計	国内	国外	計			
金沢大学	タイトル 929	タイトル 5,602	タイトル 6,531	種 9	種 11	種 20	件 767	タイトル 1,051	タイトル 6,965
Aクラス平均	2,286	20,279	22,565	14	22	36	2,518	13,456	9,303
Bクラス平均	1,150	17,410	18,559	6	5	11	558	2,301	4,055

4. 図書・雑誌受入数

4-1 図書受入数

平成29年度

区分	購入			寄贈			その他			合計		
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計
金沢大学	冊 11,020	冊 1,393	冊 12,413	冊 4,917	冊 339	冊 5,256	冊 1,478	冊 592	冊 2,070	冊 17,415	冊 2,324	冊 19,739
Aクラス平均	11,899	3,693	15,592	8,225	3,678	11,903	2,170	1,907	4,077	22,293	9,278	31,572
Bクラス平均	4,833	524	5,357	1,899	228	2,127	406	242	648	7,139	994	8,132

※ その他:図書扱いの雑誌(合冊・製本し図書台帳に記載したものなど)

4-2 雑誌受入数

平成29年度

区分	購入			寄贈			その他			合計		
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計
金沢大学	種 866	種 472	種 1,338	種 3,386	種 257	種 3,643	種 67	種 1	種 68	種 4,319	種 730	種 5,049
Aクラス平均	1,446	1,213	2,659	3,592	446	4,038	49	4	53	5,087	1,663	6,750
Bクラス平均	500	202	702	1,358	79	1,437	18	1	19	1,876	281	2,158

※ 図書館又は大学の予算で自家生産した雑誌(研究報告、紀要等)、学内において移管等により受け入れたもの等

5. サービス状況

5-1 開館状況

区分	図書館・室数	開館状況							
		年間開館日数		授業実施日の平日開館					
		総日数	1館平均	総日数	総時間数	うち時間外開館			
						実施館数	実施率	総時間数	1館平均
	館	日	日	日	時間	館	%	時間	時間
金沢大学	3	858	286	527	6,780	3	100.0	2,494	831
Aクラス平均	9	2,561	294	1,657	23,213	7	77.6	10,066	1,491
Bクラス平均	2	725	330	412	6,465	2	100.0	2,964	1,347

平成29年度

区分	開館状況										
	授業実施日の土曜・日曜・祝日開館						授業実施日でない日の開館				
	実施館数	実施率	総日数	1館平均	総時間数	うち時間外	実施館数	実施率	総日数	1館平均	総時間数
	館	%	日	日	時間	時間	館	%	日	日	時間
金沢大学	3	100.0	132	44	1,043	1,043	3	100.0	199	66	1,898
Aクラス平均	4	45.4	277	70	4,474	4,358	6	74.1	627	97	8,002
Bクラス平均	2	68.2	96	64	1,263	1,201	2	93.2	217	106	2,757

5-2 時間外開館状況

(中央図書館)

[授業実施日の平日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上		合計
					24時間開館	大学	
国立大学	1	0	0	3	82 (金沢大含)	10	86

[授業実施日の土曜・日曜・祝日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上		合計
					24時間開館	大学	
国立大学	35	0	0	0	51 (金沢大含)	7	86

[授業実施日でない開館日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上		合計
					24時間開館	大学	
国立大学	44	0	1	1	40 (金沢大含)	10	86

(全体)(Total)

[授業実施日の平日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上	24時間開館	合計
国立大学	46	0	6	28	(金沢大含) 206	56	286

[授業実施日の土曜・日曜・祝日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上	24時間開館	合計
国立大学	143	0	0	0	(金沢大含) 143	41	286

[授業実施日でない開館日]

平成29年度

区分	実施していない	2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上	24時間開館	合計
国立大学	164	0	3	6	(金沢大含) 113	44	286

5-3 館外貸出サービス

平成29年度

区分	実施館数	教職員		学生		学外者		合計		
		貸出冊数	1館平均	貸出冊数	1館平均	貸出冊数	1館平均	貸出冊数	1館平均	1日平均
金沢大学	3	14,223	4,741	98,119	32,706	5,994	1,998	118,336	39,445	108
Aクラス平均	8	27,843	3,335	179,407	21,486	7,089	849	214,339	25,669	70
Bクラス平均	2	6,363	2,892	55,956	25,434	3,579	1,627	65,897	29,953	82

5-4 参考業務

平成29年度

区分	実施館数	利用者別件数				業務内容別件数				合計	1館平均
		学内者			学外者	文献所在調査	事項調査	利用指導	その他		
		教職員	学生	計							
	館	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
金沢大学	3	509	3,297	3,806	1,221	1,868	67	2,638	454	5,027	1,676
Aクラス平均	8	2,565	8,170	10,736	2,304	5,956	888	5,674	521	13,040	1,610
Bクラス平均	2	721	2,402	3,123	491	1,570	445	1,456	143	3,614	1,643

※ その他: 文献所在調査、事項調査、利用指導以外の対応。金沢大学では、図書館外の道案内、ネットワークID等の問い合わせに対する対応等

5-5 文献複写

平成29年度

区分	実施館数	利用者別件数					
		学内	学外			合計	1館平均
			大学図書館	その他	計		
	館	件	件	件	件	件	件
金沢大学	3	3,596	3,450	1,940	5,390	8,986	2,995
Aクラス平均	8	25,216	5,585	5,316	10,901	36,116	4,690
Bクラス平均	2	6,241	1,699	910	2,609	8,850	4,023

※ その他: 一般来館者など大学図書館以外の利用者の件数

5-6 図書館間相互協力

区分	実施館数	図書・雑誌の貸借											
		貸出						借受					
		国内			国外	合計	1館平均	国内			国外	合計	1館平均
		大学図書館	その他	計				大学図書館	その他	計			
	館	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
金沢大学	3	439	293	732	0	732	244	614	331	945	0	945	315
Aクラス平均	8	1,109	202	1,311	5	1,317	170	1,055	303	1,358	17	1,375	177
Bクラス平均	2	302	193	495	1	495	225	252	111	363	0	364	165

※ その他: 大学図書館以外の図書館(公共図書館、試験研究機関等)や学外者との相互協力

平成29年度

区分	文献複写											
	受付						依頼					
	国内			国外	合計	1館平均	国内			国外	合計	1館平均
	大学図書館	その他	計				大学図書館	その他	計			
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
金沢大学	3,450	433	3,883	67	3,950	1,317	3,149	109	3,258	8	3,266	1,089
Aクラス平均	4,834	1,302	6,136	65	6,202	800	3,805	559	4,363	56	4,420	570
Bクラス平均	1,634	269	1,903	13	1,916	871	1,681	168	1,848	3	1,852	842

※ その他: 大学図書館以外の図書館(公共図書館、試験研究機関等)や学外者との相互協力

6. 経費

6-1 図書館資料費

区分	図書			雑誌		
	和 千円	洋 千円	計 千円	和 千円	洋 千円	計 千円
金沢大学	70,350	24,677	95,027	15,032	17,154	32,186
Aクラス平均	66,558	50,794	117,352	22,152	66,195	88,347
Bクラス平均	17,724	4,855	22,578	8,110	16,744	24,854

区分	電子ジャーナル								
	出版社			その他			計		
	国内	国外	計	国内	国外	計	国内	国外	計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
金沢大学	32	220,323	220,355	2,406	3,088	5,494	2,438	223,411	225,849
Aクラス平均	1,268	373,918	375,186	1,604	8,584	10,188	2,872	382,502	385,374
Bクラス平均	546	124,642	125,187	968	2,010	2,977	1,514	126,651	128,165

※ その他: 多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービスを行う業者(いわゆる「アグリゲータ」)が提供しているもの

区分	電子書籍			データベース			その他	a 合計	a/d× 100	a/e× 100	a 図書館資料費 人件費
	国内	国外	計	国内	国外	計					
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	%	%	b 図書館・室運営費
金沢大学	1,094	2,742	3,836	6,067	32,682	38,749	0	395,647	70.4	0.8	c 図書館総経費
Aクラス平均	3,084	9,539	12,624	10,880	50,820	61,699	7,195	672,590	56.6	0.9	d 大学総経費
Bクラス平均	1,163	1,516	2,679	3,093	15,735	18,828	41,727	238,831	59.6	0.8	

※ その他: 図書、雑誌、電子ジャーナル、電子書籍、データベース以外の資料

6-2 図書館・室運営費

平成29年度

区分	b 人件費	b/d× 100	情報検索 ウェブ サービス 経費	システム 経費	その他の 経費	c 合計	c/d× 100	c/e× 100	d=a+c 図書館総経費	d/e× 100	e 大学総経費
	千円	%	千円	千円	千円	千円	%	%	千円	%	千円
金沢大学	242,076	43.1	1,193	13,100	42,649	299,018	53.2	0.6	562,264	1.1	50,718,970
Aクラス平均	378,777	31.8	3,142	22,348	112,418	516,684	43.4	0.7	1,189,274	1.5	77,446,800
Bクラス平均	96,834	24.2	1,969	7,310	55,963	162,076	40.4	0.5	400,907	1.4	29,525,119

※ その他の経費: 経常的備品費、経常的消耗品費、印刷製本費、光熱水料、通信運搬費、電子計算機、複写機等賃貸契約に基づき導入している機器の賃借料、会議費、職員旅費、業務委託経費等

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書

発 行 日 令和2年3月31日

編集・発行 金沢大学附属図書館

〒920-1192 金沢市角間町

<https://library.kanazawa-u.ac.jp>

